

四国横断自動車道建設に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査報告

第三十七冊

中間西井坪遺跡Ⅲ

第1分冊

2001. 12

香 川 県 教 育 委 員 会  
（助）香川県埋蔵文化財調査センター  
日 本 道 路 公 団

四国横断自動車道建設に伴う

# 埋蔵文化財発掘調査報告

第三十七冊

中間西井坪遺跡Ⅲ

第1分冊

2001. 12

香 川 県 教 育 委 員 会  
（財）香川県埋蔵文化財調査センター  
日 本 道 路 公 団



遺跡遠景（東より）



遺跡遠景（西より）



3 a区全景（西より）



3 a区エリア1 石器分布状況（北より）



3 a区石器出土層位（北より）



3 a区d12グリッドIII b層下面の  
黒色粘土層検出状況（南より）



3 c 区南側調査区全景（東より）



3 c 区石器出土層位



3 c 区AT火山灰層検出層位（西より）



3 c 区土層堆積状況（北より）



5区調査区全景（西より）



5区ブロック2調査状況（西より）



0層

I層

II層

II-R層

層

III層

5区ブロック2石器出土層位



3 a 区エリア 1・2 出土 角錐状石器



3 a 区個体識別資料 個体 1

## 序 文

香川県教育委員会では、四国横断自動車道や高松東道路の建設、高松空港跡地の整備など、大規模開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査と出土文化財の整理研究・報告書刊行業務を、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターに委託して実施しております。

このたび「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第三十七冊 中間西井坪遺跡Ⅲ」として刊行いたしますのは、高松市中間町に所在する中間西井坪遺跡についてであります。中間西井坪遺跡は、後期旧石器時代後半期における角錐状石器主体の石器群が出土した遺跡として注目され、整理作業の結果、新たに多数の接合資料もみつかるなど、石器製作の具体的な様相が明らかになりました。

本報告書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財保護に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、日本道路公団及び関係諸機関並びに地元関係各位には多大な御協力と御指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後とも御支援賜りますようお願い申し上げます。

平成13年12月

香川県教育委員会  
教育長 折 原 守

## 例 言

1. 本報告書は、四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第37冊で、香川県高松市中間町に所在する中間西井坪遺跡（なかつまにしいつぼ いせき）の旧石器時代の発掘調査報告を収録したものである。
2. 発掘調査は、日本道路公団から委託された香川県教育委員会が調査主体となり、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが調査担当者として実施した。
3. 旧石器時代の発掘調査は、平成2年4月から平成3年7月まで実施した。調査担当者は次のとおりである。（職名はいずれも当時）

平成2年度	文化財専門員	鍋井一視
	主任技師	大久保徹也
	調査技術員	萬木一郎
平成3年度	主任技師	大西義則
	技 師	森下英治
4. 調査の実施にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。

（順不同、敬称略）

香川県土木部横断道対策室、高松土木事務所横断道対策室、四国横断自動車道建設中間地区対策協議会、各地元自治会、高松市教育委員会
5. 本報告書の作成は、財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが実施し、自然科学的分析については関係機関に委託して実施した。また、石器石材産地分析に関して、京都大学原子炉研究所藁科哲男氏より玉稿を頂いた。

編集は森下が担当し、執筆は以下のとおり分担した。

第1分冊・第2分冊	森下
第2分冊	京都ファッショントラック株式会社
第2分冊	京都大学原子炉実験所 藁科哲男
6. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標第IV系の北であり、標高はT.P.を基準としている。
7. 挿図の一部に建設省国土地理院地形図「高松南部」（1/50,000）を使用した。
8. 石器の器種認定、用語使用法、実測図提示方法等については第1分冊第5表に提示した。
9. 註及び参考文献は原則として第2分冊末尾にまとめたが、第2分冊自然科学的分析については各項目ごとに項の末尾に配した。
10. 出土品および調査記録は香川県埋蔵文化財センターにおいて収蔵している。

# 本文目次

巻頭図版

序 文

例 言

第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の立地と環境	4
第3章 調査成果	8
第1節 調査経過と調査手順	8
第2節 調査地の地形と土層序	17
第3節 報告手順と記載の方法	27
(1) 報告単位の区分と順序	27
(2) 石器の提示方法	29
第4節 3 b 区の調査	34
(1) 層位関係と石器分布状況	34
(2) 礫	36
(3) 器種別・石材別石器分布	39
(4) ブロック別石器分布と接合資料分布	45
(5) 主要石器	47
(6) 接合資料	61
第5節 3 a 区の調査	75
(1) 概要	75
(2) 層位と石器分布の概要	79
(3) 礫	82
(4) 3 a 区エリア 3	89
(5) 3 a 区エリア 3 接合資料	114
(6) 3 a 区エリア 1 ブロック 1 A	146
(7) 3 a 区エリア 1 ブロック 1 B L	160
(8) 3 a 区エリア 1 ブロック 1 B H	169
(9) 3 a 区エリア 1 ブロック 1 C	184
(10) 3 a 区エリア 2 A	188
(11) 3 a 区エリア 2 B	197
(12) 3 a 区エリア 2 C	202
(13) 3 a 区外縁部出土石器	206
(14) 3 a 区エリア 1・2 接合資料および個体識別資料	212
第6節 3 c 区の調査	273
(1) 概要	273
(2) 3 c 区ブロック 1	277

(3) 3c区ブロック2	280
(4) 3c区ブロック1・2 out	282
(5) 3c区ブロック3	287
(6) 3c区ブロック4	324
(7) 3c区外縁部および出土位置不明分	328
(8) 接合資料	329
第7節 5区の調査	352
(1) 概要	352
(2) 層位と石器分布の概要	352
(3) 磔	359
(4) 5区ブロック1	365
(5) 5区ブロック2	379
(6) 5区ブロック3	382
(7) 5区外縁部	385
(8) 5区接合資料	389
第8節 1b区の調査	395
(1) 概要	395
(2) 磔ブロック1	395
(3) 磔ブロック2	402
(4) 磔ブロック3	404
(5) 磔ブロック4	405
(6) 磔ブロック5	405
(7) 磔ブロック6	409
(8) 磔ブロック7	409
(9) 磔ブロック8	410
(10) 磔ブロック9	410
(11) 磔ブロック外縁部出土の磔	410
(12) 1b区石器ブロック1	411
(13) 1b区石器ブロック2	411
(14) 1b区ブロック3	415
(15) 1b区ブロック4	416
(16) 1b区ブロック5	420
(17) 1b区ブロック6L	423
(18) 1b区ブロック6H	431
(19) 1b区ブロック外縁部出土石器	440
(20) 1b区出土位置不明石器	443
(21) 1b区接合資料	444
第9節 その他の石器	459

# 挿図目次

第1図	中間西井坪遺跡の位置……………	1	(S=1/40, 垂直分布S=1/20) ……	42
第2図	四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地 (善通寺～高松) ……	2		
第3図	高松平野地形概要図……………	4		
第4図	高松平野西部における旧石器時代遺跡 分布図(旧石器時代～弥生時代前期) ……	5		
第5図	香川県地質概要図……………	7		
第6図	調査区配置図(S=1/5,000) ……	10		
第7図	調査地全体図(石器全点分布図) (S=1/600) ……	11		
第8図	各調査区におけるグリッド配置図1 3b区(S=1/100) ……	12		
第9図	各調査区におけるグリッド配置図2 3a区(S=1/150) ……	13		
第10図	各調査区におけるグリッド配置図3 3c区(S=1/150) ……	14		
第11図	各調査区におけるグリッド配置図4 5区(S=1/200) ……	15		
第12図	各調査区におけるグリッド配置図5 1b区(S=1/160) ……	16		
第13図	遺跡周辺地形分類図(1/5,000) ……	18		
第14図	土層断面図及び石器垂直分布図1 断面Ⅰ(縦1/40 横1/160) ……	19～20		
第15図	土層断面図及び石器垂直分布図2 断面Ⅱ～Ⅳ(縦1/40, 横1/160) ……	21		
第16図	土層断面図及び石器垂直分布図3 断面Ⅴ(縦1/40, 横1/160) ……	22		
第17図	土層断面図及び石器垂直分布図4 断面Ⅵ・Ⅶ(縦1/40, 横1/160) ……	23～24		
第18図	土層断面図及び石器垂直分布図5 断面Ⅷ(縦1/40, 横1/160) ……	25		
第19図	報告単位区分図……………	28		
第20図	石器表記・計測方法凡例図 ……	30		
第21図	単位別主要石器概要図1 ……	32		
第22図	単位別主要石器概要図2 ……	33		
第23図	3b区全体分布図 (S=1/125, 垂直分布S=1/40) ……	34		
第24図	3b区ブロック別石器垂直度数分布……………	35		
第25図	3b区礫分布図(S=1/200) ……	36		
第26図	3b区出土礫実測図1(S=1/3) ……	37		
第27図	3b区出土礫実測図2(S=1/3) ……	38		
第28図	3b区 器種別石器分布図 (S=1/125) ……	39		
第29図	3b区 石材別石器分布図 (S=1/125) ……	41		
第30図	3b区接合資料分布図(S=1/125) ……	41		
第31図	3b区ブロック1 器種別石器分布図1 Kn・Sc・RF・Fl			
第32図	3b区ブロック1 器種別石器分布図2 Cr(S=1/40, 垂直分布S=1/20) ……	43		
第33図	3b区接合資料分布図1 接1 (S=1/40) ……	44		
第34図	3b区接合資料分布図2 接2・3・ 5～8・10・16・18(S=1/40) ……	44		
第35図	3b区接合資料分布図3 接9・13・15・21(S=1/40) ……	45		
第36図	3b区ブロック2・3器種別石器分布 及び接合資料分布図 (S=1/40, 垂直分布S=1/20) ……	46		
第37図	3b区出土石器実測図1 Kn・Sc (S=2/3) ……	48		
第38図	3b区出土石器実測図2 Sc・RF (S=2/3) ……	49		
第39図	3b区出土石器実測図3 RF・Cr (S=2/3) ……	52		
第40図	3b区出土石器実測図4 Cr (S=2/3) ……	53		
第41図	3b区出土石器実測図5 Cr (S=2/3) ……	55		
第42図	3b区出土石器実測図6 Cr (S=2/3) ……	56		
第43図	3b区出土石器実測図7 Cr・Fl (S=2/3) ……	58		
第44図	3b区出土石器実測図8 Fl (S=2/3) ……	59		
第45図	3b区出土石器実測図9 Fl (S=2/3) ……	60		
第46図	3b区出土石器実測図10 接合資料1(S=2/3, 1/2) ……	62		
第47図	3b区出土石器実測図11 接合資料1(S=2/3, 1/2) ……	63		
第48図	3b区出土石器実測図12 接合資料1(S=2/3) ……	64		
第49図	3b区出土石器実測図13 接合資料4(S=2/3, 1/2) ……	66		
第50図	3b区出土石器実測図14 接合資料5・6(S=2/3, 1/2) ……	67		
第51図	3b区出土石器実測図15 接合資料7・8(S=2/3, 1/2) ……	69		
第52図	3b区出土石器実測図16 接合資料9・10(S=2/3, 1/2) ……	70		
第53図	3b区出土石器実測図17 接合資料11・12(S=2/3, 1/2) ……	71		
第54図	3b区出土石器実測図18 接合資料13・ その他の石器(S=2/3, 1/2) ……	73		

第55図	3 a 区 石器全点分布図および ブロック区分図 (S=1/120) ……	76	第83図	3 a 区エリア3 器種別石器分布図4 F1 (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	111
第56図	3 a 区 接合資料分布図および 礫分布図 (S=1/120) ……	77	第84図	3 a 区エリア3 出土石器実測図14 F1 (S=2/3) ……	112
第57図	3 a 区 器種別石器分布図 (S=1/120) ……	78	第85図	3 a 区エリア3 出土石器実測図15 F1 (S=2/3) ……	113
第58図	3 a 区ブロック1 B・1 Cの 垂直分布図1 (S=1/40) ……	80	第86図	3 a 区エリア3 接合資料分布図1 接1~6 (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	116
第59図	3 a 区ブロック1 B・1 Cの 垂直分布図2 (S=1/40) ……	81	第87図	3 a 区エリア3 出土石器実測図16 接合資料1 (S=2/3, 1/2) ……	117
第60図	3 a 区礫分布図 (S=1/120) ……	83	第88図	3 a 区エリア3 出土石器実測図17 接合資料2~4 (S=2/3, 1/2) ……	118
第61図	3 a 区礫ブロック1 礫分布復原図 (S=1/20) ……	84	第89図	3 a 区接合資料4 打点移動模式図 ……	119
第62図	3 a 区礫ブロック2 礫分布復原図 (S=1/20) ……	84	第90図	3 a 区エリア3 出土石器実測図18 接合資料5 (S=2/3, 1/2) ……	120
第63図	3 a 区礫ブロック3 礫分布復原図 (S=1/20) ……	85	第91図	3 a 区エリア3 出土石器実測図19 接合資料5・6 (S=2/3, 1/2) ……	121
第64図	3 a 区出土礫実測図1 (S=1/3) ……	86	第92図	3 a 区エリア3 接合資料分布図2 接7~12 (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	122
第65図	3 a 区出土礫実測図2 (S=1/3) ……	87	第93図	3 a 区エリア3 出土石器実測図20 接合資料7 (S=1/2) ……	123
第66図	3 a 区出土礫実測図3 (S=1/3) ……	88	第94図	3 a 区エリア3 出土石器実測図21 接合資料7 (S=2/3, 1/2) ……	124
第67図	3 a 区エリア3 器種別石器分布図1 Kn (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	92	第95図	3 a 区エリア3 出土石器実測図22 接合資料7・8 (S=2/3, 1/2) ……	125
第68図	3 a 区エリア3 出土石器実測図1 Kn (S=2/3) ……	93	第96図	3 a 区接合資料7 打点移動模式図 ……	126
第69図	3 a 区エリア3 出土石器実測図2 Kn (S=2/3) ……	94	第97図	3 a 区エリア3 出土石器実測図23 接合資料9 (S=2/3, 1/2) ……	127
第70図	3 a 区エリア3 出土石器実測図3 Kn (S=2/3) ……	95	第98図	3 a 区エリア3 出土石器実測図24 接合資料10 (S=2/3, 1/2) ……	128
第71図	3 a 区エリア3 器種別石器分布図2 UF・ RF (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	97	第99図	3 a 区エリア3 出土石器実測図25 接合資料11・12 (S=2/3, 1/2) ……	130
第72図	3 a 区エリア3 出土石器実測図4 RF (S=2/3) ……	98	第100図	3 a 区エリア3 接合資料分布図3 接13~18 (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	132
第73図	3 a 区エリア3 出土石器実測図5 RF・UF (S=2/3) ……	99	第101図	3 a 区エリア3 出土石器実測図26 接合資料13 (S=2/3, 1/2) ……	133
第74図	3 a 区エリア3 器種別石器分布図3 Cr (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	101	第102図	3 a 区エリア3 出土石器実測図27 接合資料13・14 (S=2/3, 1/2) ……	134
第75図	3 a 区エリア3 出土石器実測図6 Cr (S=2/3) ……	102	第103図	3 a 区エリア3 出土石器実測図28 接合資料15・16 (S=2/3, 1/2) ……	135
第76図	3 a 区エリア3 出土石器実測図7 Cr (S=2/3) ……	103	第104図	3 a 区エリア3 出土石器実測図29 接合資料17・18 (S=2/3, 1/2) ……	137
第77図	3 a 区エリア3 出土石器実測図8 Cr (S=2/3) ……	104	第105図	3 a 区エリア3 接合資料分布図4 接19~30 (S=1/60 垂直分布S=1/30) ……	139
第78図	3 a 区エリア3 出土石器実測図9 Cr (S=2/3) ……	105	第106図	3 a 区エリア3 出土石器実測図30 接合資料19・20 (S=2/3, 1/2) ……	140
第79図	3 a 区エリア3 出土石器実測図10 Cr (S=2/3) ……	106	第107図	3 a 区エリア3 出土石器実測図31 接合資料21・22 (S=2/3, 1/2) ……	141
第80図	3 a 区エリア3 出土石器実測図11 Cr (S=2/3) ……	107			
第81図	3 a 区エリア3 出土石器実測図12 Cr (S=2/3) ……	108			
第82図	3 a 区エリア3 出土石器実測図13 Cr・F1 (S=2/3) ……	109			

第108図	3 a区エリア3 出土石器実測図32 接合資料23~25 (S=2/3, 1/2) …… 143	(S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 175~176
第109図	3 a区エリア3 出土石器実測図33 接合資料26~28 (S=2/3, 1/2) …… 144	第129図 3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図4 Sc・RF・UF (S=2/3) …… 177
第110図	3 a区エリア3 出土石器実測図34 接合資料29・30 (S=2/3, 1/2) …… 145	第130図 3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図5 UF・Cr (S=2/3) …… 178
第111図	3 a区エリア1・2器種別石器分布図1 ブロック1A Tr・Kn (S=1/40 垂直分布S=1/20) …… 147~148	第131図 3 a区エリア1・2器種別石器分布図6 ブロック1 BH Cr (S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 179~180
第112図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図1 Tr (S=2/3) …… 150	第132図 3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図6 Cr (S=2/3) …… 181
第113図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図2 Tr (S=2/3) …… 151	第133図 3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図7 Cr (S=2/3) …… 182
第114図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図3 Tr (S=2/3) …… 152	第134図 3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図8 Cr (S=2/3) …… 183
第115図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図4 Tr・Kn・RF (S=2/3) …… 153	第135図 3 a区エリア1・2器種別石器分布図7 ブロック1 C (S=1/40 垂直分布S=1/20) …… 185
第116図	3 a区エリア1・2器種別石器分布図2 ブロック1A RF・UF・Cr・HS (S=1/40 垂直分布S=1/20) …… 155~156	第136図 3 a区エリア1 ブロック1 CL・1 CH 出土石器実測図 (S=2/3) …… 187
第117図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図5 RF (S=2/3) …… 157	第137図 3 a区エリア1・2器種別石器分布図8 ブロック2 A (S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 189
第118図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図6 Cr (S=2/3) …… 158	第138図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図1 Tr (S=2/3) …… 190
第119図	3 a区エリア1 ブロック1 A 出土石器実測図7 Cr・HS (S=2/3, 1/2) …… 159	第139図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図2 Tr (S=2/3) …… 191
第120図	3 a区エリア1・2器種別石器分布図3 ブロック1 BL (S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 161~162	第140図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図3 Tr (S=2/3) …… 192
第121図	3 a区エリア1 ブロック1 BL 出土石器実測図1 Tr (S=2/3) …… 164	第141図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図4 Kn・Sc・RF (S=2/3) …… 194
第122図	3 a区エリア1 ブロック1 BL 出土石器実測図2 Tr・Kn (S=2/3) …… 165	第142図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図5 RF・Cr (S=2/3) …… 195
第123図	3 a区エリア1 ブロック1 BL 出土石器実測図3 RF・UF・Cr・HS (S=2/3, 1/2) …… 166	第143図 3 a区エリア2 ブロック2 A 出土石器実測図6 Cr・HS (S=2/3, 1/2) …… 196
第124図	3 a区エリア1・2器種別石器分布図4 ブロック1 BH Tr・Kn (S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 167~168	第144図 3 a区エリア1・2器種別石器分布図9 ブロック2 B・2 C (S=1/60 垂直分布S=1/30) …… 198
第125図	3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土 石器実測図1 Tr (S=2/3) …… 171	第145図 3 a区エリア2 ブロック2 B 出土石器実測図1 Tr・Kn (S=2/3) …… 200
第126図	3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土 石器実測図2 Tr・Kn (S=2/3) …… 172	第146図 3 a区エリア2 ブロック2 B 出土石器実測図2 RF (S=2/3) …… 201
第127図	3 a区エリア1 ブロック1 BH 出土石器実測図3 Kn・Fl・Sc (S=2/3) …… 173	第147図 3 a区エリア2 ブロック2 C 出土石器実測図 Tr・Kn・RF・Cr (S=2/3) …… 203
第128図	3 a区エリア1・2器種別石器分布図5 ブロック1BH Sc・RF・UF・Fl	第148図 3 a区エリア2 ブロック2 B・2 C

	出土石器実測図		
	GS・HS (S=1/2) ……	205	
第149図	3 a 区エリア1・2 器種別石器分布図10		
	1・2Nout (S=1/80) ……	206	
第150図	3 a 区エリア1・2 ブロック外縁部		
	出土石器実測図1		
	1・2Nout (S=2/3) ……	208	
第151図	3 a 区エリア1・2 器種別石器分布図11		
	外縁部 (S=1/120) ……	210	
第152図	3 a 区エリア1・2 ブロック外縁部		
	出土石器実測図2 (S=2/3) ……	211	
第153図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図1		
	接44~46		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	214	
第154図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図1		
	接44 (S=2/3, 1/2) ……	215	
第155図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図2		
	接45・46 (S=2/3, 1/2) ……	216	
第156図	3 a 区接合資料46 打点移動模式図 ……	217	
第157図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図3		
	接46 (S=2/3) ……	218	
第158図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図2		
	接47・個体5		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	219	
第159図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図4		
	接47 (S=2/3, 1/2) ……	220	
第160図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図3		
	接48~54		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	221	
第161図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図5		
	接48~50 (S=2/3, 1/2) ……	223	
第162図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図6		
	接51~53 (S=2/3, 1/2) ……	224	
第163図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図4		
	接55~62		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	225	
第164図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図7		
	接54~58 (S=2/3, 1/2) ……	226	
第165図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図8		
	接58~61 (S=2/3, 1/2) ……	228	
第166図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図5		
	接63・個体3・4		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	229	
第167図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図9		
	接62・63・個体3・個体4		
	(S=2/3, 1/2) ……	230	
第168図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図6		
	接65・66・個体2		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	232	
第169図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図10		
	接64・65 (S=2/3, 1/2) ……	233	
第170図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図11		
	接65・66 (S=2/3, 1/2) ……	234	
第171図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図7		
	接67		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	235	
第172図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図12		
	接67 (S=2/3, 1/2) ……	236	
第173図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図13		
	接67 (S=2/3, 1/2) ……	237	
第174図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図8		
	接68~70		
	(S=1/60 垂直分布S=1/40) ……	238	
第175図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図14		
	接68~70 (S=2/3, 1/2) ……	239	
第176図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図9		
	接71・個体8		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	240	
第177図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図15		
	接71 (S=2/3, 1/2) ……	242	
第178図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図10		
	接64・72~78		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	243	
第179図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図16		
	接72~75 (S=2/3, 1/2) ……	244	
第180図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図17		
	接76~78 (S=2/3, 1/2) ……	245	
第181図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図11		
	接79~81・個体10		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	247	
第182図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図18		
	接79 (S=1/2) ……	248	
第183図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図19		
	接79 (S=2/3) ……	249	
第184図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図20		
	接80・81 (S=2/3, 1/2) ……	250	
第185図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図12		
	接82~84		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	252	
第186図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図21		
	接82・83 (S=2/3, 1/2) ……	253	
第187図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図13		
	接85・86・92・94・96・個体1		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	254	
第188図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図22		
	接84・85・個体1 (S=2/3, 1/2) ……	255	
第189図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図23		
	接86 (S=2/3, 1/2) ……	256	
第190図	3 a 区エリア1・2 接合資料分布図14		
	接87		
	(S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	258	
第191図	3 a 区エリア1・2 接合資料実測図24		

	接87 (S=2/3, 1/2) …… 259		2 南側Tr (S=1/80) …… 290
第192図	3 a区接合資料87 打点移動模式図 …… 260	第216図	3 c区出土石器実測図6 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 292
第193図	3 a区エリア1・2 接合資料分布図15 接88・108・個体7 (S=1/100 垂直分布S=1/40) …… 261	第217図	3 c区出土石器実測図7 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 293
第194図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図25 接88・89・個体6 (S=2/3, 1/2) …… 262	第218図	3 c区出土石器実測図8 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 295
第195図	3 a区エリア1・2 接合資料分布図16 接89・90・個体6 (S=1/100 垂直分布S=1/40) …… 263	第219図	3 c区出土石器実測図9 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 297
第196図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図26 接90 (S=1/2) …… 265	第220図	3 c区出土石器実測図10 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 298
第197図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図27 接90 (S=2/3) …… 266	第221図	3 c区出土石器実測図11 ブロック3 Tr (S=2/3) …… 299
第198図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図28 接90 (S=2/3, 1/2) …… 267	第222図	3 c区出土石器実測図12 ブロック3 Kn (S=2/3) …… 301
第199図	3 a区エリア1・2 接合資料分布図17 接91・93・95 (S=1/100 垂直分布S=1/40) …… 268	第223図	3 c区ブロック3 器種別石器分布図 3 ~参考図~ 北側Kn・Sc・ RF・UF・Cr (S=1/80) …… 302
第200図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図29 接91~93 (S=2/3, 1/2) …… 269	第224図	3 c区出土石器実測図13 ブロック3 Kn・Sc (S=2/3, 1/2) …… 303
第201図	3 a区エリア1・2 接合資料実測図30 接94~96 (S=2/3, 1/2) …… 270	第225図	3 c区ブロック3 器種別石器分布図 4 南側Kn・Sc・Cr (S=1/80) …… 304
第202図	3 a区エリア1・2 未報告接合資料分布図 接109~117 (S=1/120) …… 271	第226図	3 c区ブロック3 器種別石器分布図 5 南側RF・UF (S=1/80) …… 305
第203図	3 c区石器全点分布図および ブロック区分図 (S=1/100) …… 274	第227図	3 c区出土石器実測図14 ブロック3 RF (S=2/3) …… 307
第204図	3 c区 接合資料分布図 (S=1/100) …… 275	第228図	3 c区出土石器実測図15 ブロック3 RF (S=2/3) …… 308
第205図	3 c区 器種別石器分布図 (S=1/100) …… 276	第229図	3 c区出土石器実測図16 ブロック3 RF (S=2/3) …… 310
第206図	3 c区ブロック1・2 器種別石器 分布図~参考図~ (S=1/80) …… 278	第230図	3 c区出土石器実測図17 ブロック3 RF (S=2/3) …… 311
第207図	3 c区出土石器実測図1 ブロック1 (S=2/3) …… 279	第231図	3 c区出土石器実測図18 ブロック3 RF (S=2/3) …… 312
第208図	3 c区出土石器実測図2 ブロック1 (S=2/3) …… 280	第232図	3 c区出土石器実測図19 ブロック3 RF (S=2/3) …… 313
第209図	3 c区出土石器実測図3 ブロック2 3 c区外縁部 1・2Sout (S=2/3) …… 281	第233図	3 c区出土石器実測図20 ブロック3 RF・Cr (S=2/3) …… 315
第210図	3 c区北側外縁部 器種別石器分布図 ~参考図~ (S=1/80) …… 284	第234図	3 c区出土石器実測図21 ブロック3 Cr (S=2/3) …… 316
第211図	3 c区出土石器実測図4 3 c区外縁部 1・2Sout 2・3Eout (S=2/3) …… 285	第235図	3 c区出土石器実測図22 ブロック3 Cr (S=2/3) …… 317
第212図	3 c区出土石器実測図5 3 c区外縁部 1・2Sout 2・3Eout (S=2/3) …… 286	第236図	3 c区出土石器実測図23 ブロック3 Cr (S=2/3) …… 318
第213図	3 c区ブロック3 受熱石器分布図・ 頁岩製石器分布図 (S=1/100) …… 288	第237図	3 c区出土石器実測図24 ブロック3 Cr (受熱) (S=2/3) …… 320
第214図	3 c区ブロック3 器種別石器分布図 1 ~参考図~ 北側Tr (S=1/80) …… 289	第238図	3 c区出土石器実測図25 ブロック3 Cr (受熱) (S=2/3) …… 321
第215図	3 c区ブロック3 器種別石器分布図	第239図	3 c区出土石器実測図26 ブロック3 Fl (受熱) (S=2/3) …… 322
		第240図	3 c区出土石器実測図27 ブロック3

		F1 (S=2/3) ……	323	第267図	5区ブロック1 器種別石器分布図 (S=1/120 垂直分布S=1/40) ……	363~364
第241図	3c区ブロック4	器種別石器分布図 (S=1/80) ……	324	第268図	5区出土石器実測図1 ブロック1 Tr・Kn (S=2/3) ……	366
第242図	3c区出土石器実測図28 ブロック4 Tr・Kn・RF・UF・Cr (S=2/3) ……	326	第269図	5区出土石器実測図2 ブロック1 Kn・RF (S=2/3) ……	368	
第243図	3c区出土石器実測図29 ブロック4・外縁部 Tr・Kn・Cr・F1 (S=2/3) ……	327	第270図	5区出土石器実測図3 ブロック1 RF・Sc (S=2/3) ……	369	
第244図	3c区接合資料分布図1 接1~14 (S=1/100) ……	331	第271図	5区出土石器実測図4 ブロック1 UF・Cr (S=2/3) ……	372	
第245図	3c区接合資料実測図1 接1~3 (S=2/3, 1/2) ……	332	第272図	5区出土石器実測図5 ブロック1 Cr (S=2/3) ……	373	
第246図	3c区接合資料実測図2 接4~7 (S=2/3, 1/2) ……	334	第273図	5区出土石器実測図6 ブロック1 Cr (S=2/3) ……	374	
第247図	3c区接合資料実測図3 接8~10 (S=2/3, 1/2) ……	336	第274図	5区出土石器実測図7 ブロック1 Cr (S=2/3) ……	375	
第248図	3c区接合資料実測図4 接11~14 (S=2/3, 1/2) ……	338	第275図	5区出土石器実測図8 ブロック1 Cr・F1 (S=2/3) ……	377	
第249図	3c区接合資料実測図5 接15~17 (S=2/3, 1/2) ……	339	第276図	5区出土石器実測図9 ブロック1 F1・Sa (S=2/3) ……	378	
第250図	3c区接合資料分布図2 接15~24 (S=1/100) ……	340	第277図	5区ブロック2 器種別石器分布図 (S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	379	
第251図	3c区接合資料実測図6 接18~20 (S=2/3, 1/2) ……	341	第278図	5区出土石器実測図10 ブロック2 Tr・Kn・RF・F1 (受熱) (S=2/3) ……	381	
第252図	3c区接合資料実測図7 接21~22 (S=2/3, 1/2) ……	342	第279図	5区ブロック3 器種別石器分布図 (S=1/100 垂直分布S=1/40) ……	383	
第253図	3c区接合資料23 打点移動模式図 ……	343	第280図	5区出土石器実測図11 ブロック3 Kn・RF・Cr (S=2/3) ……	384	
第254図	3c区接合資料実測図8 接23 (S=2/3, 1/2) ……	344	第281図	5区外縁部石器分布図 (S=1/200) ……	386	
第255図	3c区接合資料実測図9 接24 (S=2/3, 1/2) ……	345	第282図	5区出土石器実測図12 外縁部 Tr・Kn・RF・Cr・Po (S=2/3) ……	387	
第256図	3c区接合資料分布図3 接25~29 (S=1/100) ……	347	第283図	5区接合資料分布図 接1~6 (S=1/120 垂直分布S=1/40) ……	390	
第257図	3c区接合資料実測図10 接25・26 (S=2/3, 1/2) ……	348	第284図	5区接合資料1 接1 (S=2/3, 1/2) ……	391	
第258図	3c区接合資料実測図11 接27 (S=2/3, 1/2) ……	349	第285図	5区接合資料2 接2・3 (S=2/3, 1/2) ……	392	
第259図	3c区接合資料実測図12 接28・29 (S=2/3, 1/2) ……	350	第286図	5区接合資料3 接4~6 (S=2/3, 1/2) ……	394	
第260図	3c区接合資料分布図4 未報告接合資料 (接54~58) (S=1/100) ……	351	第287図	1b区 出土石器全点分布図および ブロック区分 (S=1/160) ……	396	
第261図	5区出土石器全点分布図およびブロック区分 (S=1/160) ……	353~354	第288図	1b区接合資料分布図 (S=1/160) ……	397	
第262図	5区接合資料分布図および礫分布図 (S=1/160) ……	355~356	第289図	1b区器種別石器分布図 (S=1/160) ……	398	
第263図	5区石器器種別石器分布図 (S=1/160) ……	357~358	第290図	1b区石材別石器分布図 (S=1/160) ……	399	
第264図	5区礫分布図 (S=1/200) ……	360	第291図	1b区礫ブロック分布図 (S=1/160) ……	400	
第265図	5区出土礫実測図1 (S=1/3) ……	361	第292図	1b区礫ブロック1 検出状況実測図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	401	
第266図	5区出土礫実測図2 (S=1/3) ……	362				

第293図	1 b区礫ブロック2 検出状況実測図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	403	第318図	1 b区出土石器実測図15 外縁部 Kn・RF・UF・Cr・Sa (S=2/3) ……	441
第294図	1 b区礫ブロック2 石材別分布図 (S=1/40) ……	403	第319図	1 b区出土石器実測図16 出土位置不明 RF・UF・Cr (S=2/3) ……	442
第295図	1 b区礫ブロック3 検出状況実測図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	404	第320図	1 b区ブロック外縁部出土石器分布図 (S=1/100) ……	443
第296図	1 b区礫ブロック4 検出状況実測図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	405	第321図	1 b区接合資料分布図1 接1 (S=1/160 垂直分布S=1/40) ……	445
第297図	1 b区礫ブロック5 検出状況実測図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	406	第322図	1 b区接合資料実測図1 接1 (S=1/2) ……	447
第298図	1 b区礫ブロック5 赤化礫・非赤化礫分布図 (S=1/40 垂直分布S=1/40) ……	407	第323図	1 b区接合資料実測図2 接1 (S=2/3) ……	448
第299図	1 b区ブロック1 器種別石器分布図 (S=1/80 垂直分布S=1/40) ……	411	第324図	1 b区接合資料実測図3 接1 (S=2/3, 1/2) ……	449
第300図	1 b区ブロック2 器種別石器分布図 (S=1/80 垂直分布S=1/40) ……	412	第325図	1 b区接合資料実測図4 接1 (S=2/3, 1/2) ……	450
第301図	1 b区出土石器実測図1 ブロック2 Tr・Kn・RF・Cr (S=2/3) ……	413	第326図	1 b区接合資料実測図5 接1 (S=2/3) ……	451
第302図	1 b区出土石器実測図2 ブロック2 Cr・HS (S=2/3, 1/2) ……	414	第327図	1 b区接合資料実測図6 接1 (S=2/3, 1/2) ……	452
第303図	1 b区出土石器実測図3 ブロック3 Cr・Fl (S=2/3) ……	416	第328図	1 b区接合資料1の剥片剥離の流れ と出土位置関係図……………	454
第304図	1 b区ブロック3～5 器種別石器分布図 (S=1/80 垂直分布S=1/40) ……	417	第329図	1 b区接合資料分布図2 接2～4 (S=1/160) ……	455
第305図	1 b区出土石器実測図4 ブロック4 Tr・Kn・Fl・Cr (S=2/3) ……	419	第330図	1 b区接合資料実測図7 接2・3 (S=2/3, 1/2) ……	456
第306図	1 b区出土石器実測図5 ブロック4 HS (S=1/2) ……	420	第331図	1 b区接合資料実測図8 接4 (S=2/3, 1/2) ……	457
第307図	1 b区出土石器実測図6 ブロック5 Kn・Sc・RF・Cr・Fl (S=2/3) ……	422	第332図	その他の石器1 3 a区 出土位置不明石器実測図 (S=2/3) ……	459
第308図	1 b区ブロック6 L 器種別石器分布図 (S=1/80 垂直分布S=1/40) ……	425～426	第333図	その他の石器2 谷3出土石器実測図 (S=2/3) ……	460
第309図	1 b区出土石器実測図7 ブロック6 L Tr・Kn・Sc (S=2/3) ……	427	第334図	その他の石器3 谷3出土石器実測図 (S=2/3) ……	461
第310図	1 b区出土石器実測図8 ブロック6 L Sc・RF・Cr (S=2/3) ……	428	第335図	その他の石器4 谷3出土石器実測図 (S=2/3) ……	462
第311図	1 b区出土石器実測図9 ブロック6 L Cr (S=2/3) ……	429	第336図	その他の石器5 出土位置不明石器実測図 (S=2/3) ……	463
第312図	1 b区出土石器実測図10 ブロック6 L Cr (S=2/3) ……	430			
第313図	1 b区ブロック6 H 器種別石器分布図 (S=1/80 垂直分布S=1/40) ……	433～434			
第314図	1 b区出土石器実測図11 ブロック6 H Tr・Kn (S=2/3) ……	435			
第315図	1 b区出土石器実測図12 ブロック6 H Kn・Sc・RF (S=2/3) ……	436			
第316図	1 b区出土石器実測図13 ブロック6 H RF (S=2/3) ……	437			
第317図	1 b区出土石器実測図14 ブロック6 H Cr・Sa (S=2/3) ……	439			

# 表目次

第1表	中間西井坪遺跡発掘調査体制年度別一覧……	2			
第2表	四国横断自動車道(善通寺～高松) 建設に伴う発掘調査の概要……	3			
第3表	高松平野西部における 旧石器時代遺跡一覧表……	6			
第4表	報告単位区分表……	27			
第5表	中間西井坪遺跡出土石器の器種分類と 観察項目……	29			
第6表	報告単位別 石器総括表……	32			
第7表	3 b区礫属性表……	38			
第8表	3 b区数量総括表……	40			
第9表	3 b区 ナイフ形石器 属性表……	47			
第10表	3 b区 スクレイパー 属性表……	47			
第11表	3 b区 加工痕有剥片 属性表……	50			
第12表	3 b区 石核 属性表1 (A1・A2類)……	51			
第13表	石核分類別分布状況……	54			
第14表	3 b区 石核 属性表2 (H・B・F類)……	54			
第15表	3 b区 主要石器・剥片の重量分布……	57			
第16表	3 b区 接合資料総括表……	61			
第17表	3 a区礫属性表……	82			
第18表	礫ブロック2 重量表……	84			
第19表	礫ブロック3 重量表……	85			
第20表	3 a区エリア3 出土石器総括表……	89			
第21表	3 a区エリア3 ナイフ形石器A類形態分類表……	90			
第22表	3 a区エリア3 ナイフ形石器 属性表……	91			
第23表	3 a区エリア3 加工痕有剥片・使用痕有剥片 属性表……	100			
第24表	3 a区エリア3 石核 属性表……	110			
第25表	3 a区エリア3 接合資料総括表……	114			
第26表	3 a区エリア1 ブロック1A 石器分布内容総括表……	146			
第27表	3 a区エリア1ブロック1A 角錐状石器 属性表……	149			
第28表	3 a区エリア1ブロック1A ナイフ形石器 属性表……	149			
第29表	3 a区エリア1ブロック1A 加工痕有剥片・使用痕有剥片 属性表……	154			
第30表	3 a区エリア1ブロック1A 石核 属性表……	154			
第31表	3 a区エリア1ブロック1A 叩石 属性表……	154			
第32表	3 a区エリア1 ブロック1BL 石器分布内容総括表……	160			
第33表	3 a区エリア1ブロック1BL 角錐状石器 属性表……	163			
第34表	3 a区エリア1ブロック1BL ナイフ形石器 属性表……	163			
第35表	3 a区エリア1ブロック1BL 加工痕有剥片・使用痕有剥片 属性表……	163			
第36表	3 a区エリア1ブロック1BL 石核 属性表……	169			
第37表	3 a区エリア1ブロック1BL 叩石 属性表……	169			
第38表	3 a区エリア1 小ブロック1BH 石器分布内容総括表……	169			
第39表	3 a区エリア1ブロック1BH 角錐状石器 属性表……	170			
第40表	3 a区エリア1ブロック1BH ナイフ形石器 属性表……	174			
第41表	3 a区エリア1ブロック1BH スクレイパー 属性表……	174			
第42表	3 a区エリア1ブロック1BH 加工痕有剥片・使用痕有剥片 属性表……	174			
第43表	3 a区エリア1ブロック1BH 石核 属性表……	184			
第44表	3 a区エリア1 ブロック1C 石器分布内容総括表……	184			
第45表	3 a区エリア1ブロック1CL 角錐状石器 属性表……	186			
第46表	3 a区エリア1ブロック1CH 加工痕有剥片 属性表……	186			
第47表	3 a区エリア1ブロック1CH ナイフ形石器 属性表……	186			
第48表	3 a区エリア1ブロック1CH 石核 属性表……	187			
第49表	3 a区エリア1 小ブロック2A 石器分布内容総括表……	188			
第50表	3 a区エリア2ブロック2A 角錐状石器 属性表……	188			
第51表	3 a区エリア2ブロック2A ナイフ形石器 属性表……	193			
第52表	3 a区エリア2ブロック2A スクレイパー 属性表……	193			
第53表	3 a区エリア2ブロック2A 加工痕有剥片 属性表……	197			
第54表	3 a区エリア2ブロック2A 石核 属性表……	197			
第55表	3 a区エリア2ブロック2A 叩石 属性表……	197			
第56表	3 a区エリア2ブロック2B 石器分布内容総括表……	199			
第57表	3 a区エリア2ブロック2B				

	角錐状石器 属性表……	199
第58表	3 a 区エリア2 ブロック2 B ナイフ形石器 属性表……	202
第59表	3 a 区エリア2 ブロック2 B 加工痕有剥片 属性表……	202
第60表	3 a 区エリア2 ブロック2 B 磨石 属性表……	202
第61表	3 a 区エリア2 ブロック2 C 石器分布内容総括表……	202
第62表	3 a 区エリア2 ブロック2 C 角錐状石器 属性表……	204
第63表	3 a 区エリア2 ブロック2 C ナイフ形石器 属性表……	204
第64表	3 a 区エリア2 ブロック2 C 加工痕有剥片 属性表……	204
第65表	3 a 区エリア2 ブロック2 C 石核 属性表……	204
第66表	3 a 区エリア2 ブロック2 C 叩石 属性表……	205
第67表	3 a 区外縁部出土 石器分布内容総括表……	206
第68表	3 a 区エリア1・2 1・2 N out 角錐状石器 属性表……	207
第69表	3 a 区エリア1・2 1・2 N out ナイフ形石器 属性表……	207
第70表	3 a 区エリア1・2 1・2 N out 加工痕有剥片・剥片 属性表……	207
第71表	3 a 区エリア1・2 1 S out 角錐状石器 属性表……	209
第72表	3 a 区エリア1・2 1・2 S out スクレイパー 属性表……	209
第73表	3 a 区エリア1・2 1・2 S out 石核 属性表……	209
第74表	3 a 区エリア1・2 2・3 S out 加工痕有剥片・剥片 属性表……	209
第75表	3 a 区古墳時代埴輪焼成土坑 角錐状石器 属性表……	209
第76表	3 a 区古墳時代埴輪焼成土坑 ナイフ形石器 属性表……	209
第77表	3 a 区エリア1・2 接合資料総括表1……	212
第78表	3 a 区エリア1・2 接合資料総括表2……	213
第79表	3 c 区ブロック1 石器分布内容総括表……	277
第80表	3 c 区ブロック1 角錐状石器 属性表……	277
第81表	3 c 区ブロック1 ナイフ形石器 属性表……	277
第82表	3 c 区ブロック1 加工痕有剥片・剥片 属性表……	278
第83表	3 c 区ブロック1 石核 属性表……	280
第84表	3 c 区ブロック2 石器分布内容総括表……	280
第85表	3 c 区ブロック2 ナイフ形石器 属性表……	282
第86表	3 c 区ブロック2 加工痕有剥片・剥片	

	属性表……	282
第87表	3 c 区ブロック2 石核 属性表……	282
第88表	3 c 区ブロック1・2 out 石器分布内容総括表……	283
第89表	3 c 区ブロック1・2 out 角錐状石器 属性表……	283
第90表	3 c 区ブロック1・2 out ナイフ形石器 属性表……	283
第91表	3 c 区ブロック1・2 out 加工痕有剥片・使用痕有剥片 属性表……	284
第92表	3 c 区ブロック1 石核 属性表……	287
第93表	3 c 区ブロック3 石器分布内容総括表……	287
第94表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 1……	291
第95表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 2……	294
第96表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 3……	294
第97表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 4……	296
第98表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 5……	296
第99表	3 c 区ブロック3 角錐状石器 属性表 6……	300
第100表	3 c 区ブロック3 ナイフ形石器 属性表……	300
第101表	3 c 区ブロック3 スクレイパー 属性表……	306
第102表	3 c 区ブロック3 加工痕有剥片・ 使用痕有剥片 属性表……	309
第103表	3 c 区ブロック3 加工痕有剥片・ 使用痕有剥片 属性表……	314
第104表	3 c 区ブロック1 石核 属性表……	319
第105表	3 c 区ブロック4 石器分布内容総括表……	324
第106表	3 c 区ブロック4 角錐状石器 属性表……	325
第107表	3 c 区ブロック4 ナイフ形石器 属性表……	325
第108表	3 c 区ブロック4 加工痕有剥片 属性表……	325
第109表	3 c 区ブロック4 石核 属性表……	325
第110表	3 c 区出土位置不明 角錐状石器 属性表……	328
第111表	3 c 区出土位置不明 ナイフ形石器 属性表……	328
第112表	3 c 区外縁部 加工痕有剥片・ 使用痕有剥片 属性表……	328
第113表	3 c 区外縁部 石核 属性表……	328
第114表	3 c 区 接合資料総括表1……	329
第115表	3 c 区 接合資料総括表2……	330

第116表	3 c区接合資料11~16・18法量表	337	属性表	415
第117表	5区出土礫属性表	359	第157表	1 b区ブロック2 石核 属性表
第118表	5区ブロック1 石器分布内容総括表	365	第158表	1 b区ブロック3
第119表	5区ブロック1 角錐状石器 属性表	365		石器分布内容総括表
第120表	5区ブロック1 ナイフ形石器		第159表	1 b区ブロック3 石核 属性表
	属性表	367	第160表	1 b区ブロック4
第121表	5区ブロック1 加工痕有剥片・			石器分布内容総括表
	使用痕有剥片 属性表	370	第161表	1 b区ブロック4
第122表	5区ブロック1 スクレイパー			角錐状石器 属性表
	属性表	370	第162表	1 b区ブロック4
第123表	5区ブロック1 石核 属性表1	371		ナイフ形石器 属性表
第124表	5区ブロック1 石核 属性表2	376	第163表	1 b区ブロック4 石核 属性表
第125表	5区ブロック2 石器分布内容総括表	379	第164表	1 b区ブロック5 出土石器総括表
第126表	5区ブロック2 角錐状石器 属性表	380	第165表	1 b区ブロック5 ナイフ形石器
第127表	5区ブロック2 ナイフ形石器			属性表
	属性表	380	第166表	1 b区ブロック5 スクレイパー
第128表	5区ブロック2 加工痕有剥片・			属性表
	使用痕有剥片 属性表	380	第167表	1 b区ブロック5
第129表	5区ブロック3 石器分布内容総括表	382		加工痕有剥片属性表
第130表	5区ブロック3 ナイフ形石器		第168表	1 b区ブロック5 石核 属性表
	属性表	383	第169表	1 b区ブロック6 L
第131表	5区ブロック3 加工痕有剥片属性表	383		出土石器総括表
第132表	5区ブロック3 石核 属性表	385	第170表	1 b区ブロック6 L 角錐状石器
第133表	5区外縁部 角錐状石器 属性表	385		属性表
第134表	5区外縁部 ナイフ形石器 属性表	388	第171表	1 b区ブロック6 L ナイフ形石器
第135表	5区外縁部 加工痕有剥片属性表	388		属性表
第136表	5区外縁部 石核 属性表	388	第172表	1 b区ブロック6 L スクレイパー
第137表	5区外縁部 尖頭器 属性表	389		属性表
第138表	5区 接合資料総括表	389	第173表	1 b区ブロック6 L 加工痕有剥片
第139表	1 b区礫ブロック1 礫属性表	401		属性表
第140表	1 b区礫ブロック2 礫属性表	402	第174表	1 b区ブロック6 L 石核 属性表
第141表	1 b区礫ブロック3 礫属性表	404	第175表	1 b区ブロック6 H
第142表	1 b区礫ブロック4 礫属性表	405		出土石器総括表
第143表	1 b区礫ブロック5 礫属性表1	406	第176表	1 b区ブロック6 H 角錐状石器
第144表	1 b区礫ブロック5 礫属性表2	407		属性表
第145表	1 b区礫ブロック5 礫属性表3	408	第177表	1 b区ブロック6 H ナイフ形石器
第146表	1 b区礫ブロック5 礫属性表3	409		属性表
第147表	1 b区礫ブロック6 礫属性表4	409	第178表	1 b区ブロック6 H 加工痕有剥片・
第148表	1 b区礫ブロック7 礫属性表	410		使用痕有剥片 属性表
第149表	1 b区礫ブロック8 礫属性表	410	第179表	1 b区ブロック6 H 石核 属性表
第150表	1 b区礫ブロック9 礫属性表	410	第180表	1 b区ブロック外縁部 ナイフ形石器
第151表	1 b区ブロック外縁部出土礫属性表	410		属性表
第152表	1 b区ブロック1		第181表	1 b区ブロック外縁部 加工痕有剥片・
	石器分布内容総括表	411		使用痕有剥片 属性表
第153表	1 b区ブロック2		第182表	1 b区ブロック外縁部 石核 属性表
	石器分布内容総括表	412	第183表	1 b区ブロック外縁部 加工痕有剥片・
第154表	1 b区ブロック2 角錐状石器			使用痕有剥片 属性表
	属性表	414	第184表	1 b区ブロック外縁部 石核 属性表
第155表	1 b区ブロック2 ナイフ形石器		第185表	1 b区 接合資料総括表
	属性表	414		
第156表	1 b区ブロック2 加工痕有剥片			

# 第1章 調査に至る経緯

四国横断自動車道高松～善通寺間の建設は、同善通寺～豊浜間に引き続き、昭和57年1月8日に整備計画が決定され、昭和59年11月30日に建設大臣から日本道路公団総裁に対して施工命令が下された。

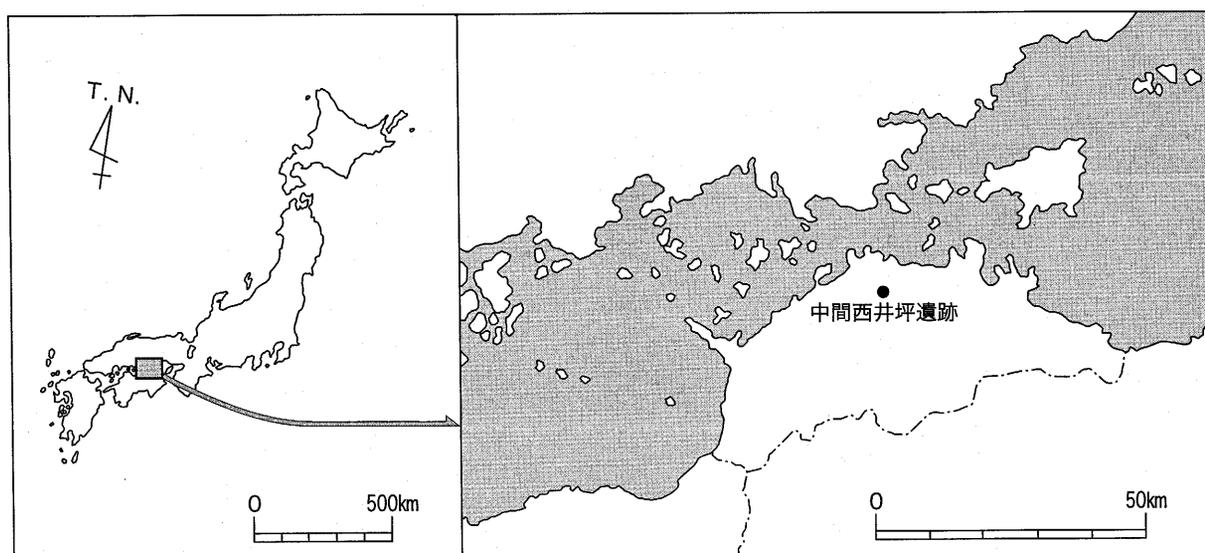
香川県教育委員会では、路線内の埋蔵文化財包蔵地の確認を目的に分布調査事業を実施し、これをもとに調査対象面積を39万 $m^2$ 余りと判断した。また、路線内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、日本道路公団と文化庁の協議により基本的には記録保存で対応することが決定した。

香川県教育委員会では、これを受けて香川県の担当課である土木部横断道対策室及び日本道路公団高松建設局高松工事事務所と昭和62年度から調査体制等について協議を開始した。協議の結果、昭和63年度当初から2ヶ年の予定で本調査を実施すること、整理報告は発掘調査の終了後に実施すること等が決定した。これを受けて香川県教育委員会では調査体制の充実を図ることを目的に、昭和62年11月に財団法人香川県埋蔵文化財調査センターを設置するとともに、専門職員の増員等の措置を実施した。

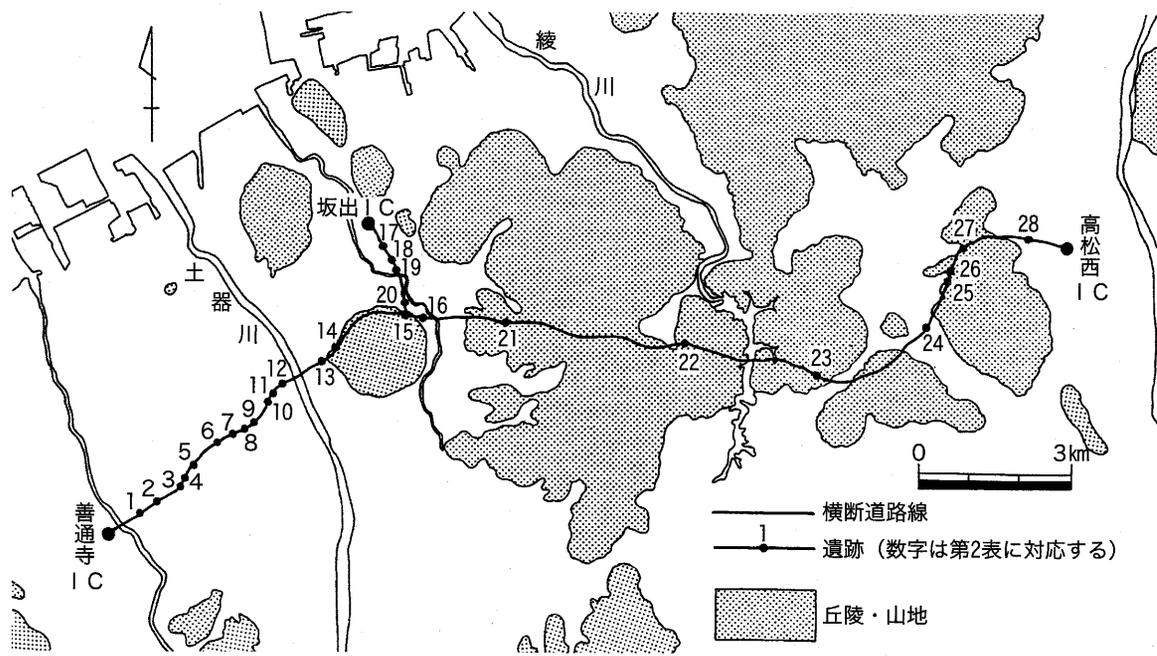
発掘調査は、分布調査等で確認した埋蔵文化財包蔵地の具体的な内容を確認するために、あらかじめ幅2mの筋堀りトレンチによる予備調査を実施し、その結果を受けて面的な本調査の範囲が決定される。

インターチェンジ予定地であった高松市中間地区の予備調査は、平成元年5月、平成2年3月に実施した。その結果、弥生時代から中世の集落遺跡として中間西井坪遺跡と命名され、遺跡の東部から発掘調査を開始した。今回報告する遺跡西部は平成2年度に調査を着手したが、当初予想された古墳時代の遺構の下層に、新たに旧石器の包含層が存在することが判明し、上層遺構の調査終了後下層の調査を実施した。さらに未退去家屋部分を平成3年度の調査対象地として設定し、平成3年4～6月まで発掘調査を実施し、これをもって中間西井坪遺跡のすべての調査を終了した。出土した旧石器の総数は12,811点で、旧石器調査を行った部分の面積は2,845 $m^2$ である。

古墳時代の遺構についてはすでに本シリーズ第25冊で報告している。今回は下層で検出した旧石器時代の遺構・遺物についての報告である。



第1図 中間西井坪遺跡の位置



第2図 四国横断自動車道埋蔵文化財包蔵地（善通寺～高松）

整理作業は平成11年4月1日～平成13年3月31日に調査員1名，整理作業員8名の体制で香川県埋蔵文化財調査センターが行った。石器出土点数が多く，石器の接合作業と実測作業が期間の大部分を占めた。分布図作成については，コンピュータを利用した分布図作成システムを導入し，作業の効率化を図った。なお，遺物写真撮影は原則的に外部委託した。また石器石材分析および火山灰分析も外部に委託し，藁科哲男氏から石器石材分析結果に基づく産地推定の玉稿を賜った。

以下，各年度における調査体制を列記する。

香川県教育委員会事務局文化行政課			
平成2年度	平成3年度	平成11年度	平成12年度
課長 太田 彰一 課長補佐 菅原 良弘 副主幹 野網朝二郎 総務係長 宮内 憲生 主任主事 横田 秀幸 主任主事 水本久美子(～5.31) 主 事 石川恵三子(6.1～)	課長 中村 仁 課長補佐 菅原 良弘 副主幹 小原 克己 総務係長 宮内 憲生 主任主事 横田 秀幸 主任主事 桜木 新士 主 事 石川恵三子	課長 小原 克己 課長補佐 小国 史郎 総務係長 中村 禎伸 主任主事 三宅 陽子 主 事 松村 崇史	課長 小原 克己 課長補佐 小国 史郎 総務係長 中村 禎伸 主任主事 三宅 陽子 主 事 亀田 幸一
埋蔵文化財係長 大山 真充 主任技師 岩橋 孝 主任技師 北山健一郎	埋蔵文化財係長 藤好 史郎 主任技師 岩橋 孝 主任技師 北山健一郎	埋蔵文化財副主幹 廣瀬 常雄 係長 西村 尋文 文化財専門員 森 格也 主任技師 塩崎 誠司	埋蔵文化財副主幹 廣瀬 常雄 係長 西岡 達哉 文化財専門員 森 宮崎 哲治
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター			
平成2年度	平成3年度	平成11年度	平成12年度
所長 十川 泉 次長 安藤 道雄 主任事務 見勢 護 係長 加藤 正司 主任主事 山地 修 主任主事 三宅 浩司 主任主事 斉藤 政好 係長 渡部 明夫 係長 藤好 史郎 係長 真鍋 昌宏 主任技師 大久保徹也 文化財専門員 鍋井 一規 調査技術員 萬木 一郎	所長 松本 豊胤 次長 安藤 道雄 主任事務 加藤 正司(～5.31) 係長 土井 茂樹(6.1～) 主任主事 山地 修(～5.31) 主任主事 今田 修(6.1～) 主任主事 斉藤 政好 係長 真鍋 昌宏 主任技師 大西 義則 主任技師 森下 英治	所長 菅原 良弘 次長 川原 裕章 主任事務 六車 正憲 主任主事 田中 秀文 主任主事 新 一郎 主任主事 山本 和代 主任主事 長尾 重盛 係長 大山 真充 文化財専門員 森下 英治	所長 菅原 良弘(～10.31) 次長 小原 克己(11.1～) 主任事務 川原 裕章 主任主事 六車 正憲 主任主事 大西 誠治 主任主事 新 一郎 主任主事 山本 和代 主任主事 長尾 重盛 係長 大山 真充 文化財専門員 片桐 孝浩 文化財専門員 森下 英治
平成11年度 整理作業に携わった方々	西桶右子，西山佳代子，鈴木奈穂子，近藤恭子，岩崎由紀子，安岡真美，北濱敦子，岡本基公美		
平成12年度 整理作業に携わった方々	西山佳代子，鈴木奈穂子，近藤恭子，乃村恵美，安岡真美，北濱敦子，森澤千尋，白川智子		

第1表 中間西井坪遺跡発掘調査体制年度別一覧

No	遺跡名	所在地	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	主たる遺構	主たる遺物	調査報告書
1	龍川五条遺跡	善通寺市原田町	12,300 10,200	元. 6.26～ 2. 3.31 2. 4. 9～ 2.12. 5	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・弥生時代墓・自然河川	弥生土器・土師器・須恵器・石器・木器	I 第26冊 (1996) II 第29冊 (1998)
2	龍川四条遺跡	善通寺市原田町・木徳町	20,200 1,700 300	元. 7. 1～ 2. 3.31 2. 5.28～ 2.10.24 3. 4. 4～ 3. 6.18	古代掘立柱建物跡・墓・溝状遺構・自然河川	縄文土器・土師器・須恵器・和鏡・磁器・瓦器	第15冊 (1995)
3	三条番ノ原遺跡	丸亀市三条町	12,041 1,300	63. 4.18～元. 2.10 元. 4.10～ 2. 3.31	竪穴住居跡・自然河川・溝状遺構	弥生土器ほか	第11冊 (1992)
4	三条黒島遺跡	丸亀市三条町	7,677	63. 6.15～63.11.26	旧石器ブロック・溝状遺構・建物跡	旧石器・弥生土器・陶磁器	第27冊 (1997)
5	郡家原遺跡	丸亀市三条町・郡家町	17,099 2,600	63. 4.18～元. 3.31	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝状遺構	弥生土器・緑釉陶器・斎串ほか	第13冊 (1993)
6	郡家一里屋遺跡	丸亀市郡家町	14,067 6,450	63. 4.18～元. 3.31 元. 4.10～ 2. 3.31	掘立柱建物跡・溝状遺構・自然河川	有舌尖頭器・弥生土器・須恵器・土師器・緑釉陶器・灰釉陶器	第12冊 (1993)
7	郡家大林上遺跡	丸亀市郡家町	11,175	63. 6.15～元. 3.22	掘立柱建物跡・溝状遺構・自然河川	須恵器・斎串ほか	第17冊 (1995)
8	郡家田代遺跡	丸亀市郡家町	12,741	63. 6.15～元. 2.17	掘立柱建物跡・溝状遺構・火葬墓	ナイフ形石器・弥生土器・須恵器・近世陶磁器	第24冊 (1996)
9	川西北原遺跡	丸亀市川西町北	3,033	63.12.12～元. 3.25	掘立柱建物跡・溝状遺構		第35冊 (2000)
10	川西北七条Ⅰ遺跡	丸亀市川西町北	4,034	63.12.13～元. 3.27	溝状遺構・自然河川	土師器・須恵器	第27冊 (1997)
11	川西北七条Ⅱ遺跡	丸亀市川西町北	4,760	元. 2. 2～元. 3.31	掘立柱建物跡・溝状遺構	土師器	第22冊 (1996)
12	川西北鍛冶屋遺跡	丸亀市川西町北	12,208	元. 4.10～元. 8.11	中世掘立柱建物跡・溝・自然河川	土師器・須恵器・近世陶磁器	第22冊 (1996)
13	飯野東二瓦礫遺跡	丸亀市飯野町	3,366	63.12.13～元. 3.27	掘立柱建物跡・溝状遺構・自然河川	土師器・須恵器	第20冊 (1996)
14	飯野東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町	300	2. 3. 1～ 2. 3.31		埴輪	第29冊 (1998)
15	川津東山田遺跡	坂出市川津町 綾歌郡飯山町	28,100 500	2. 8. 2～ 3. 3.20 3. 9. 2～ 3. 9. 4	弥生～中世掘立柱建物跡・竪穴住居跡・溝状遺構	弥生土器・土師器・須恵器・墨書土器	I 未刊 II 未刊
16	川津川西遺跡	坂出市川津町	5,400	2. 5.10～ 3. 1.17	古墳時代竪穴住居跡・溝状遺構・古代～中世掘立柱建物跡	縄文土器・土師器・須恵器・耳環・土馬・墨書土器	第33冊 (1999)
17	川津中塚遺跡	坂出市川津町	15,290 5,700	2. 5.10～ 3. 2.28 3. 4. 4～ 3. 9.13	弥生竪穴住居跡・溝状遺構・土坑・古代～中世掘立柱建物跡・土坑墓	弥生土器・耳環・土師器・須恵器・鉄小刀	第14冊 (1994)
18	川津下樋遺跡	坂出市川津町	9,650 200	2. 5.10～ 3. 1.31 3. 4. 4～ 3. 9.13	弥生時代水田・井堰・溝状遺構・自然河川	縄文土器・石器・弥生土器・木製品	第21冊 (1996)
19	川津二代取遺跡	坂出市川津町	10,400	2. 5.10～ 3. 3. 8	弥生時代溝状遺構・自然河川・中世掘立柱建物跡・溝状遺構	弥生土器・石器・土師器・須恵器・木製品	第16冊 (1995)
20	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	35,160 1,350	2. 4.12～ 3. 3.28 3. 7.18～ 3. 9.27	弥生時代竪穴住居跡・建物跡 古墳時代竪穴住居跡・溝・水田	弥生土器・石器・土師器・須恵器・木製品	I 第26冊 (1997) II 第30冊 (1998)
21	飯山一本松遺跡	綾歌郡飯山町	2,200	元. 4.17～元. 5.16		弥生土器・須恵器・土師器	第33冊 (1999)
22	府中地区	坂出市府中町	3,000	2.10.30～ 2.12.26	時代不詳 柱穴・土坑		第35冊 (2000)
23	綾南奥下池南窯跡	綾歌郡綾南町	2,900	元. 5.22～元. 7.24	須恵器窯跡	須恵器	第19冊 (1996)
24	国分寺下日名遺跡	綾歌郡国分寺町	11,350	元. 8.19～ 2. 2.28	弥生時代溝状遺構・水田跡・動物足跡	弥生土器・土師器・須恵器	第31冊 (1999)
25	国分寺楠井遺跡	綾歌郡国分寺町	4,400	2. 4.11～ 2.10. 2	円墳・中世土師器窯・掘立柱建物跡	須恵器・耳環・土師器・瓦質土器	第18冊 (1995)
26	国分寺六ツ目古墳	綾歌郡国分寺町	900	元. 9. 1～元.12.28	前方後円墳(主体部3基)	古式土師器・鉄器	第28冊 (1997)
27	国分寺六ツ目遺跡	綾歌郡国分寺町	5,600	元.10. 1～ 2. 2.28	中近世掘立柱建物跡	石器・弥生土器・近世磁器	第34冊 (1999)
28	中間西井坪遺跡	高松市中間町	11,600 8,680 1,270	元. 8.19～ 2. 3.25 2. 5.10～ 3. 3.25 3. 4. 5～ 3. 7.18	旧石器ブロック・埴輪焼成土坑・古墳(3基)・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝・土坑	旧石器・弥生土器・埴輪・須恵器・土師器・陶器	I 第25冊 (1996) II 第32冊 (1999) III 本書

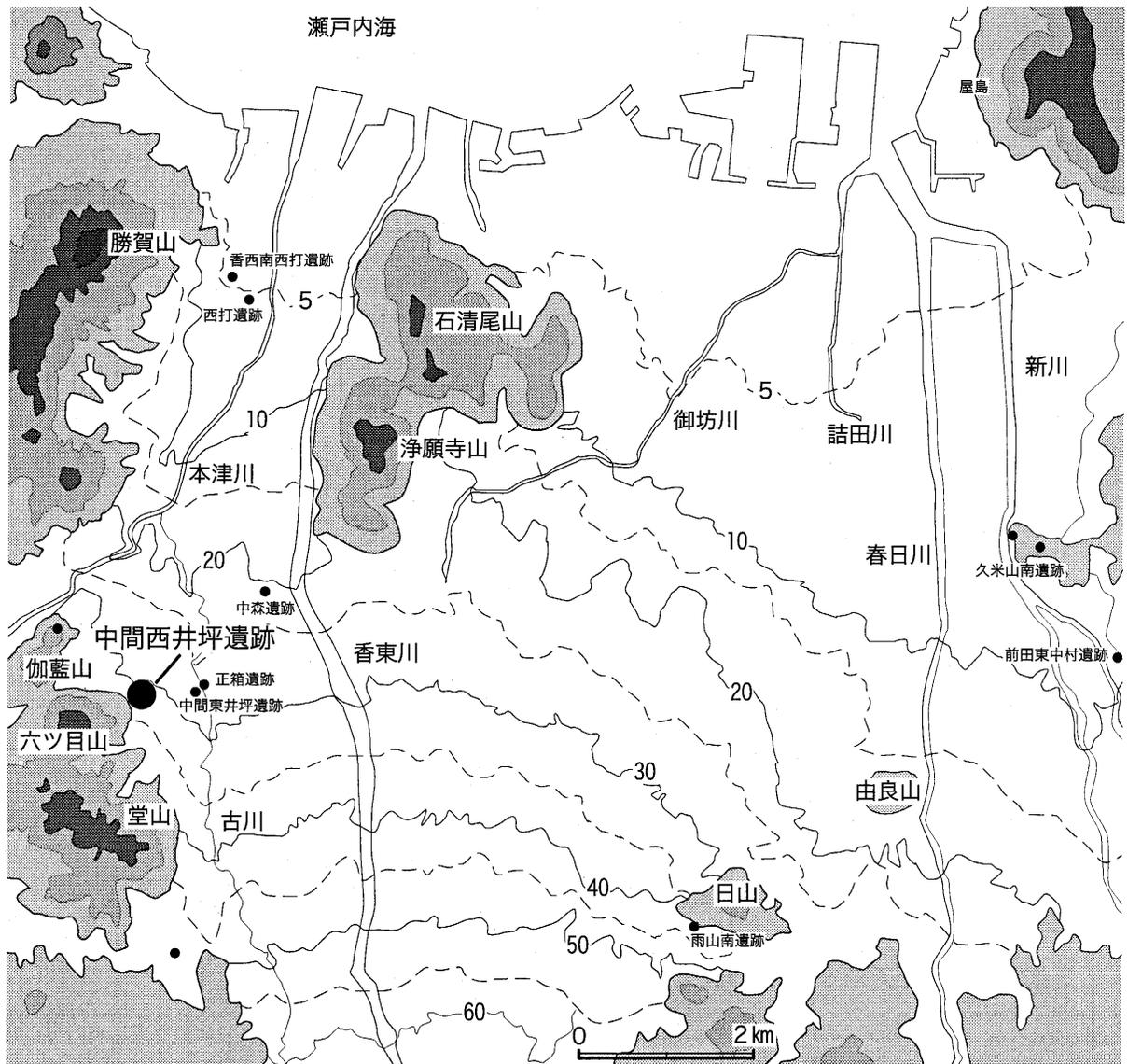
第2表 四国横断自動車道(善通寺～高松)建設に伴う発掘調査の概要

## 第2章 遺跡の立地と環境

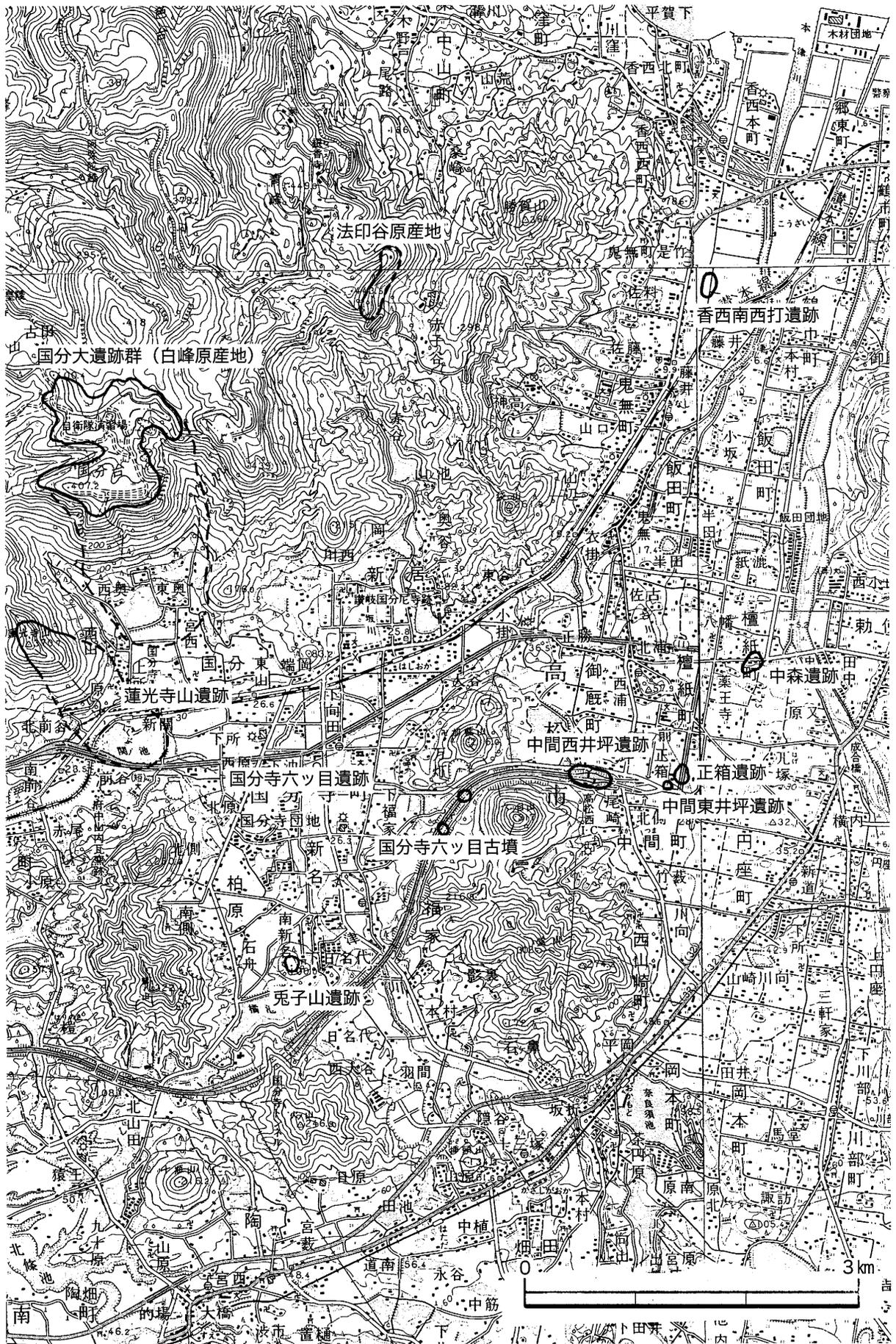
### <地勢・地形>

当遺跡は四国東北部の高松平野に立地する。現在の行政区分上は、香川県高松市中間町である。高松平野は北で瀬戸内海に面し、南で阿讃山脈に遮られた南北約12kmの奥行をもつ。西は五色台山塊によって丸亀平野と区切られ、東は立石山から屋島へ連なる山塊によって遮断されており、東西の規模は約15kmである。河川は西から本津川、旧香東川、春日川、新川の4本の主要河川が瀬戸内海へ向けて北流する。このうち旧香東川、春日川、新川の3本の河川は高松平野中央低地部に厚い沖積層をもたらしているが、旧香東川と石清尾山山塊をもって隔てられた一方の本津川は、現在の河口近くまで更新世段階に形成された扇状地面を下刻しながら瀬戸内海に注ぐ。

当遺跡は旧石器時代遺跡が多く知られるようになった本津川流域に属し、標高317mの六ツ目山から北に派生する尾根筋の傾斜がさらに北側の平野面の緩傾斜に変換する付近、標高35~40mの北に向かって緩やかに傾斜する斜面に立地する。



第3図 高松平野地形概要図



第4図 高松平野西部における旧石器時代遺跡分布図

<旧石器時代の堆積環境と遺跡の分布>

高松平野西部の本津川流域では、旧石器時代遺跡が新たに確認される事例が多い。当遺跡の発掘調査が終了した平成2年度以後、現在までに中森遺跡、正箱遺跡、中間東井坪遺跡、香西南西打遺跡などが新たに確認された。これらは現標高20~30mの平坦地に立地し、現水田面下30~60cmという浅い表層部に旧石器包含層が遺存するという共通性がある。包含層は通常、黄色系の色調を呈し、土質はシルト質でA T火山ガラスを含むことが多い。包含層下部には、礫層・橙色系粘土層などが堆積し、A T降灰以前の堆積層として認識できる箇所もある。したがって、これらの堆積層は更新世段階に形成された扇状地堆積層と考えられる。一方、黄色系シルト層を切り込んで、アカホヤ火山灰ガラスを含む流路状堆積が確認できる箇所もある。これらは、更新世以後の河川等による下刻の痕跡と考えられる。旧石器包含層はそれらの下刻を免れた範囲において確認される。なお、平成10年度高松市教育委員会による香西南西打遺跡の発掘調査では、現標高3~4mで旧石器包含層が確認された。このことは、本津川流域における扇状地面が現海岸線とさほど変わらない位置まで浅い層位で連続することを示しており、緩やかに北に傾斜する安定した地形が旧石器時代においても同様に広がっていたことがわかる。

当遺跡は周辺の平野部旧石器遺跡のなかでは南端に位置する。背後に山塊を控え、標高は35~40mとやや高い位置に存在する遺跡である。旧石器包含層の下部には花崗岩風化層が厚く堆積する。上記のほかの遺跡では包含層下部に扇状地性の礫層が認められることが多いが、当遺跡の場合は更新世段階の扇状地堆積範囲から南に外れた位置にあるといえる。当遺跡を南端として、北に広がる本津川水系には未だ旧石器時代の遺跡が埋没している可能性がきわめて高い。これまでに確認された遺跡を下表にまとめた。

番号	遺跡名	所在地	標高 (m)	遺構	石器組成	調査経過ほか	文献
1	中間西井坪	高松市中間町	35~40	本書	ナイフ形石器・角錐状石器・翼状剥片・翼状剥片石核スクレイパー・尖頭器	平成2~3年度県埋文センター調査	本書
2	中間東井坪	高松市中間町	29	石器ブロック1基	ナイフ形石器・翼状剥片・翼状剥片石核	平成8年度県埋文センター調査	信里 1997
3	正箱	高松市檀紙町	27	不明	ナイフ形石器・翼状剥片・翼状剥片石核・尖頭器	平成3・10年度県埋文センター調査	廣瀬 1994 森下 1999
4	中森	高松市檀紙町	20	石器ブロック3基	ナイフ形石器・横長剥片石核	平成10年度県埋文センター調査	森下 1999
5	香西南西打	高松市香西南町	3~4	原石ブロック1基・石器ブロック数基	ナイフ形石器・翼状剥片・翼状剥片石核・スクレイパー・尖頭器	平成10年度高松市教委調査	小川 2000
6	西打	高松市香西南町	5	不明	細石核・細石刃	平成8・9年度県埋文センター調査	信里 2001
7	国分寺六ツ目	綾歌郡国分寺町福家	45	不明	ナイフ形石器・角錐状石器	平成元年度県埋文センター調査	山下 2000
8	兔子山	綾歌郡国分寺町福家	100	不明	ナイフ形石器・翼状剥片・翼状剥片石核・尖頭器	県教委調査	香川県 1983
9	西村	綾歌郡綾南町陶	50	不明	ナイフ形石器・角錐状石器・尖頭器	県教委調査	廣瀬ほか 1981・1982

第3表 高松平野西部における旧石器時代遺跡一覧表

<石材原産地の分布>

石器石材として利用された石材は、サヌカイトが圧倒的に多い。サヌカイトは藁科哲男氏らの成果によって、県内の原産地がほぼ明らかにされており、また蛍光X線分析によって、どの原産地の石材かを

判定する方法が整っている（藁科・東村・鎌木1977）。今回も合計300点の石片を分析対象として実施した。

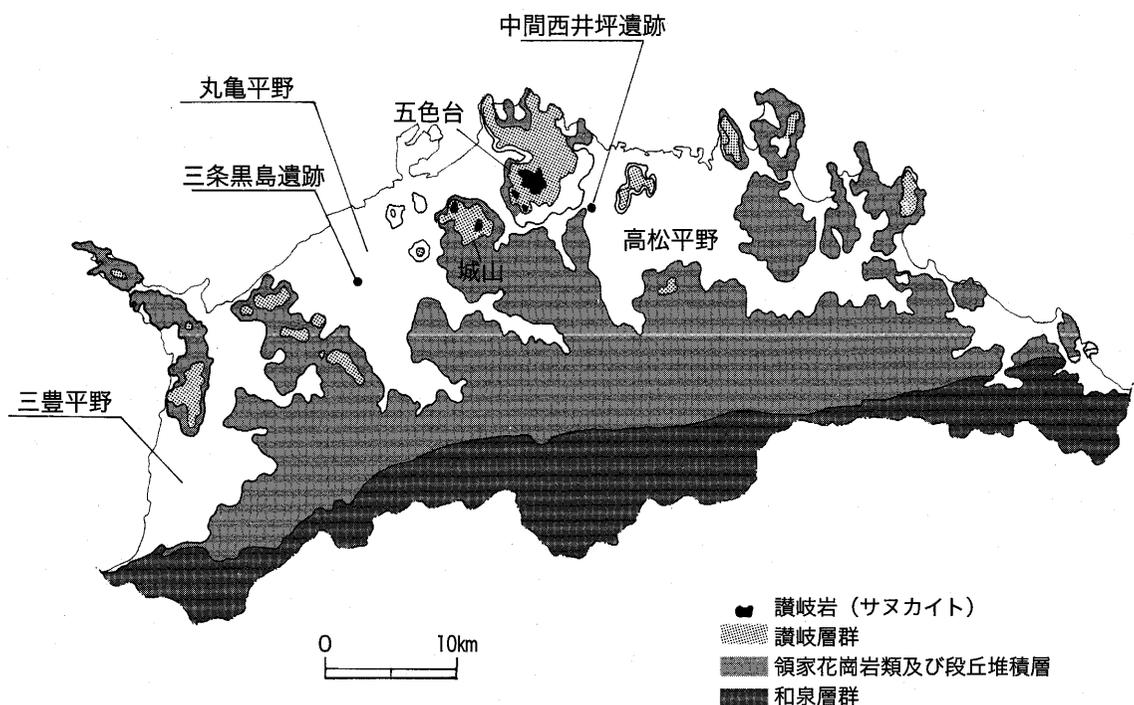
サヌカイト石材には、大きく区分して五色台のものと、金山ないし城山のものに分かれる。瀬戸大橋建設に伴う発掘調査では、確認された石器群を肉眼観察により「普通サヌカイト」と「白色風化サヌカイト」に区分しているが、概ね前者は五色台、後者は金山・城山に対応するものとみてよい。しかし、それぞれ多様な風化面を形成しており、明確に区分するのはなかなか難しい。

そのほか、丸亀市川西町にある双子山という低丘陵には、円礫状のサヌカイトが岩石中に捕獲された状態で見つかる。この石材は分析の結果、明らかに上記のサヌカイトとは異なり、縄文期以後の遺跡では数カ所で利用されていることがわかっている（藁科1997）。

五色台のサヌカイト原石はその分析値から「白峰群」、「国分寺群」、「蓮光寺群」、「法印谷群」に区分される。藁科氏からご教示を得ながら、それぞれの原石群の位置を確認し、石材の特徴を点検してみた結果を分析編に掲載している。

ほかの石器石材として、チャート・ハリ質安山岩・流紋岩・結晶片岩・安山岩・砂岩・凝灰岩がある。このうちチャートと結晶片岩は県内では産出せず、確実に他所から持ち込まれた石材である。安山岩・ハリ質安山岩・流紋岩・凝灰岩については、讃岐層群とされる瀬戸内火山活動による火成岩中に含まれる石材で、香川県内の丘陵山腹から山頂にかけて広く産出する。大きくは凝灰岩層の上に安山岩層があり、凝灰岩層中に流紋岩・ハリ質安山岩がある。ハリ質安山岩は遺跡近隣では五色台周辺と、善通寺大麻山周辺にみられ、分析結果ではすべて五色台周辺の石材を使用していることがわかっている。

砂岩は県南部の阿讃山脈を構成する岩石で、和泉層群に相当する。平野部の河床に川原石として多産する。旧石器包含層下部の礫層を構成する礫も、同様の川原石が多い。



第5図 香川県地質概要図

## 第3章 調査成果

### 第1節 調査経過と調査手順

今回報告する平成2・3年度の間西井坪遺跡発掘調査の経過については、すでに「中間西井坪Ⅰ」で報告しているところである。分布調査・予備調査・本調査の工程は前書に詳述があり、重複を避けるが、旧石器部分の調査経過について、若干の補足を行う。

#### <調査工程の概略>

平成2・3年度の間西井坪遺跡発掘調査における調査面積は合計9,950m<sup>2</sup>である。そのうち、旧石器包含層の調査を行ったのは、2,845m<sup>2</sup>である。

調査着手は平成2年5月である。上層では、中世建物や溝、古墳時代の埴輪生産関係遺構、古墳などが確認された。6月より1b区・3a区の上層遺構調査中に旧石器が出土し始めたことにより、下位に旧石器包含層が存在する可能性を考慮し、両調査区に1m方格のトレンチを設定し、土層堆積と石器包含状況の確認を行った。特に3a区北端では工事用道路付設計画との関係から、細かいピッチでトレンチを設定し、土層確認を行い旧石器包含層（Ⅰ～Ⅲ層）がすでに削平されていることを確認して、公団側に早期に引き渡した。

一方、3a区南側では予想を超えて広範囲に石器が分布することが判明、また1b区においても全面的な下層調査が必要となった。旧石器の調査は、調査方式をそれまでの工事請負方式から直営方式に切り替え、上層遺構の調査を終えた8月中旬から行った。9月には3a区南側を公団側へ引き渡す予定があり、それに間に合わせるべく大形テントを調査区全面に設置して、天候にかかわらず調査を進行した。9月中旬の台風時においては、石器出土位置の記録に多少の影響がでたものの、調査区のほぼ全面について下層調査を実施できたのは、大きな成果である。同時に4区の谷部の下層トレンチ調査も行った。引き続き、3b区下層調査を10月から実施した。3b区においても、まとまりのよい石器ブロックを検出。未買収で残る5区下層調査は、用地買収後の12月に予備調査を実施し、概ね石器分布の広がり把握し、2月中旬より調査着手、平成3年度の5月中旬まで実施した。

3c区は工事工程との調整から、北側を早期に公団側へ引き渡す必要があった。調査地に1mグリッドを設定し、石器出土レベルの記録を断念し、グリッド一括掘削を行い、土砂ごと取り上げて他所で石器の回収を行うという方法をとった。その結果、石器ブロックの検出はある程度可能であったが、石器出土層準の検討や詳細な石器分布の検討に耐えうる情報までは得られなかった。また、掘削中に出土石器の多寡が全く把握できないことから、調査範囲の是非について調査途上で検討する材料がなく、ブロック1、ブロック2については、全掘できていないことが後に判明するなど、調査結果に重大な欠点を残したことを記しておく。

#### <グリッド設定>

グリッド設定は3c区が1m、そのほかの調査区は2mである。グリッドの設定方位は、原則として国土座標に基づいて行ったが、1b区については任意座標によるグリッドを設定した。第12図に国土座標と1b区グリッドとの対応関係を示している。

グリッド名称は、3c区が北西隅を起点として東にアイウエオ…とカタカナを、南に1234…と番号を振ってア1・イ3のように付けた。それ以外の調査区は、南東隅を起点として、北にa b c d…とアルファベット小文字を、西に1234…と番号を振ってa 1・c 7のように付けている。

なお、グリッドではなくラインとして上記の記号を用いることがある。その場合、やや煩雑ではあるが、3c区の場合はそのグリッドの北ないし西のラインを指し、それ以外の場合は南ないし東のラインを指す。(できるだけ使わないように心がけたが、本文中のみでなく、原図にも多用されているのでここで記しておく)

#### <出土位置の記録>

記録はすべて手作業によった。3c区を除く他の調査区では1/20縮尺のグリッド図に、実測した出土位置をドットし、別様式のレベル帳に基準レベルからの下がり値を記録した。3c区南では、1/50の平板図に出土位置を記録した。いずれの方法においても、3a区エリア1や3c区ブロック3のように石器が密集して出土する部分では、数枚の図面に分けて記録せざるを得なかった。

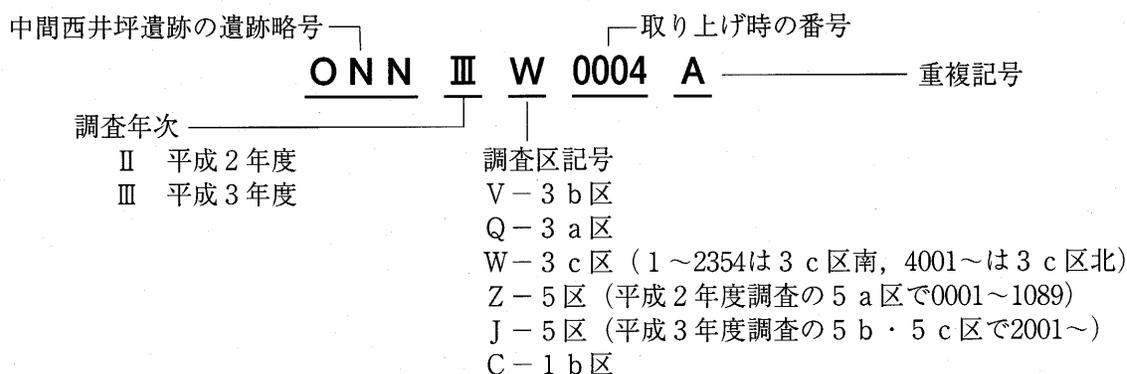
石器とともに出土した礫については、礫が特に密集する1b区で1/20の出土状態平面図を作成したが、それ以外の礫はすべて石器と同じく、出土位置のみの記録である。

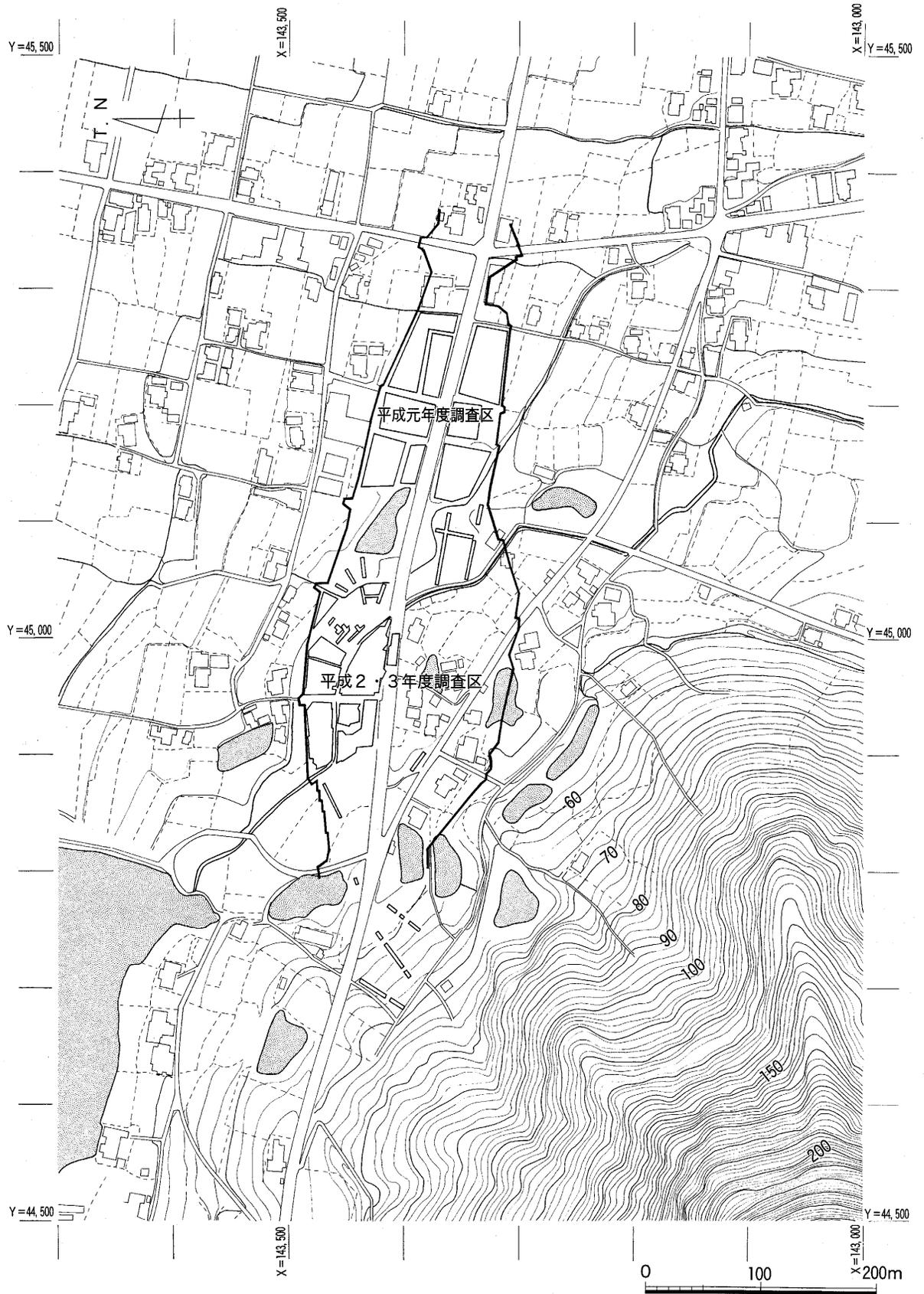
整理段階で、デジタイザによって原図から出土位置を読みとり、レベルデータは手入力して出土位置のデータをデジタル化した。これをもとに、分布図作成システムを使用してプロッターで分布図を出力した。

#### <石器個別番号>

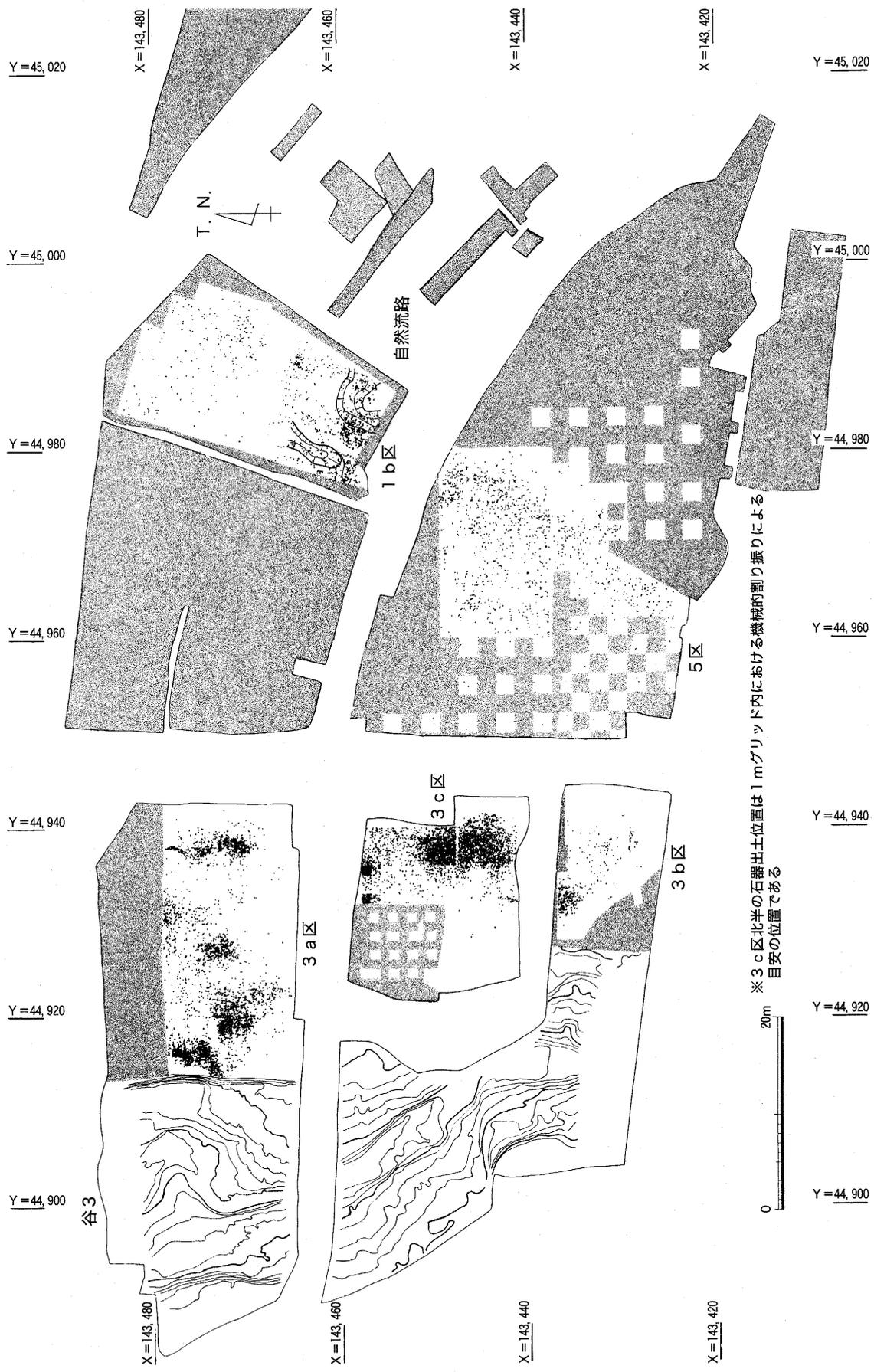
石器は各調査区ごとに1から番号を振った。また、中間西井坪遺跡の遺跡略号が「ONN」であり、これに調査年次と調査区区分記号を組み合わせることで石器に注記した。これを「取上番号」とする。なお、5区については平成2年度調査と平成3年度調査で記号を別に設定した。また、一つの番号で複数の石器を取り上げていることがある。この場合は、個体毎にA B C D…とアルファベットを付し、個体別番号(重複記号)とした。それぞれの出土位置は本来の番号から半径10cm以内の位置に割り振って復元した。

#### 取上番号の見方



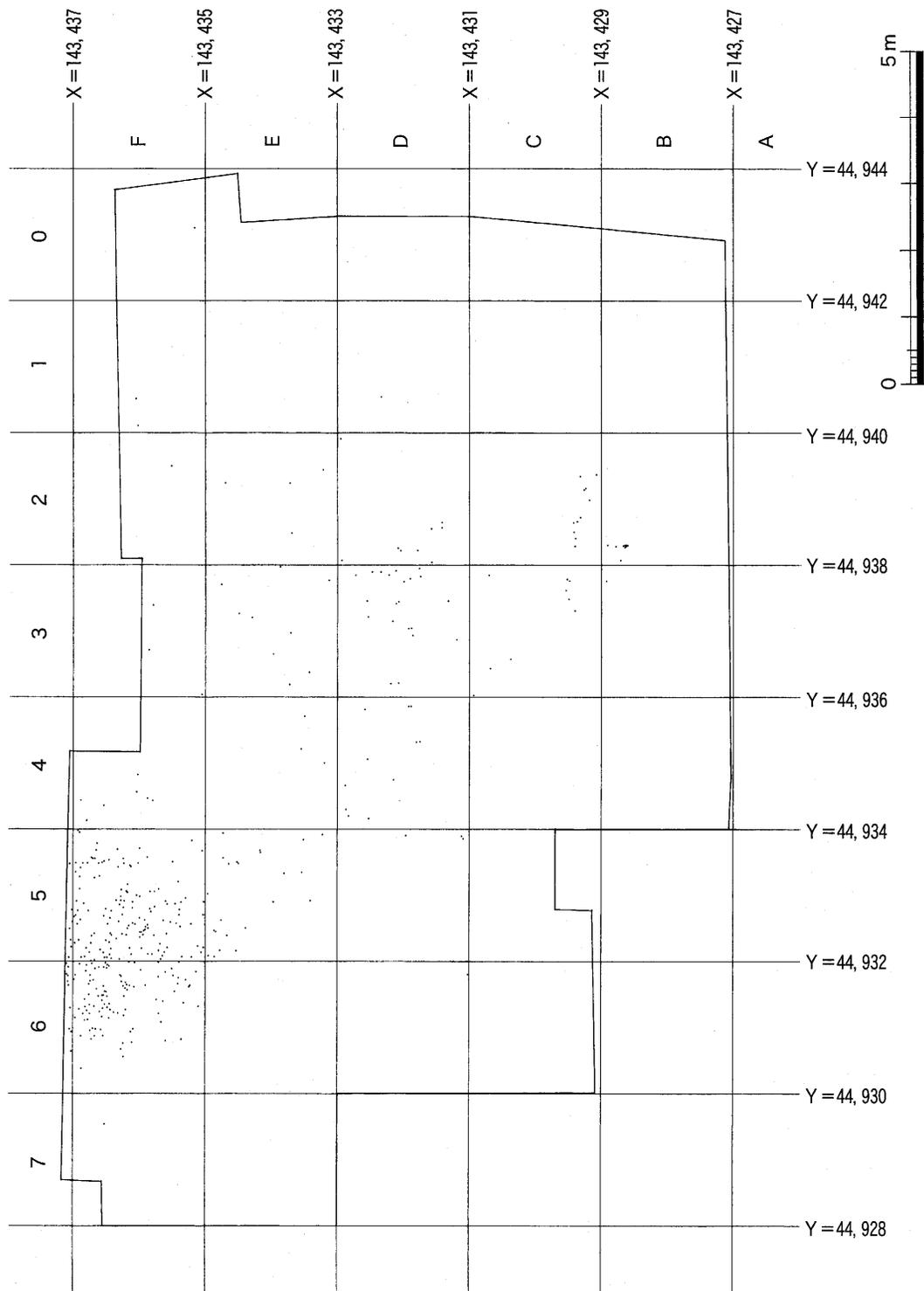


第6図 調査区配置図 (S=1/5,000)

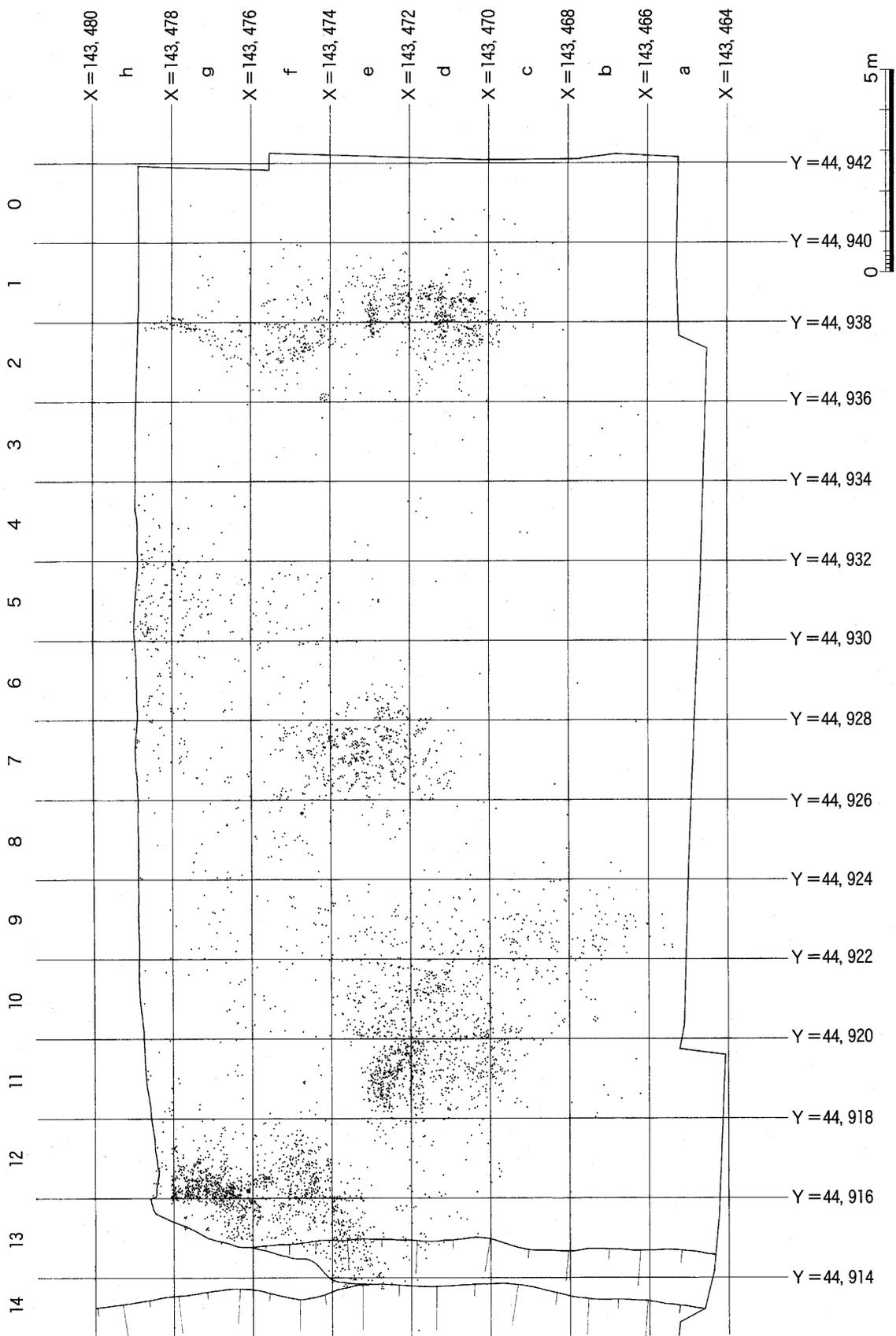


※3c区北半の石器出土位置は1mグリッド内における機械的割り振りによる  
 自家の位置である

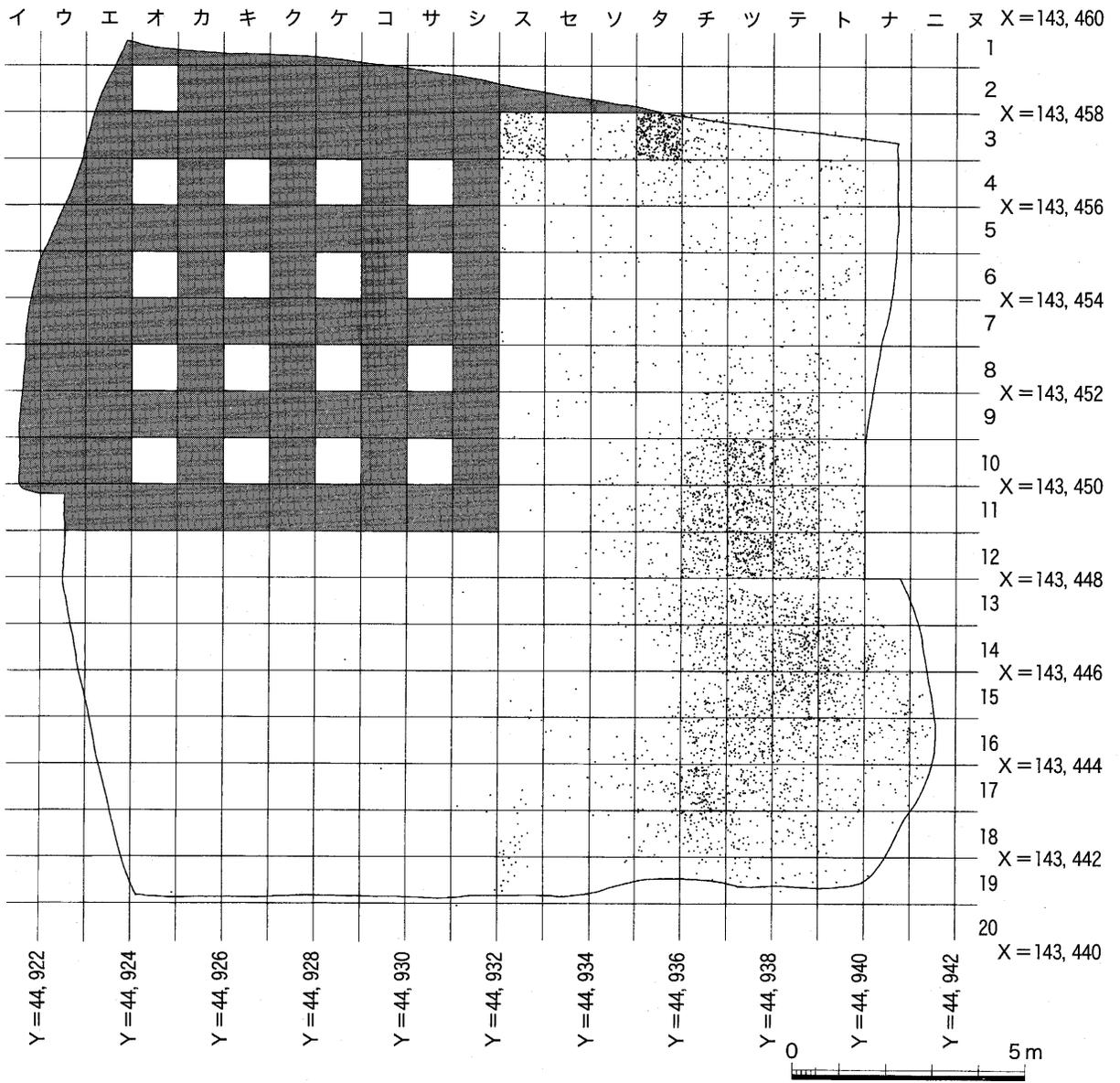
第7図 調査地全体図 (石器全点分布図) (S=1/600)



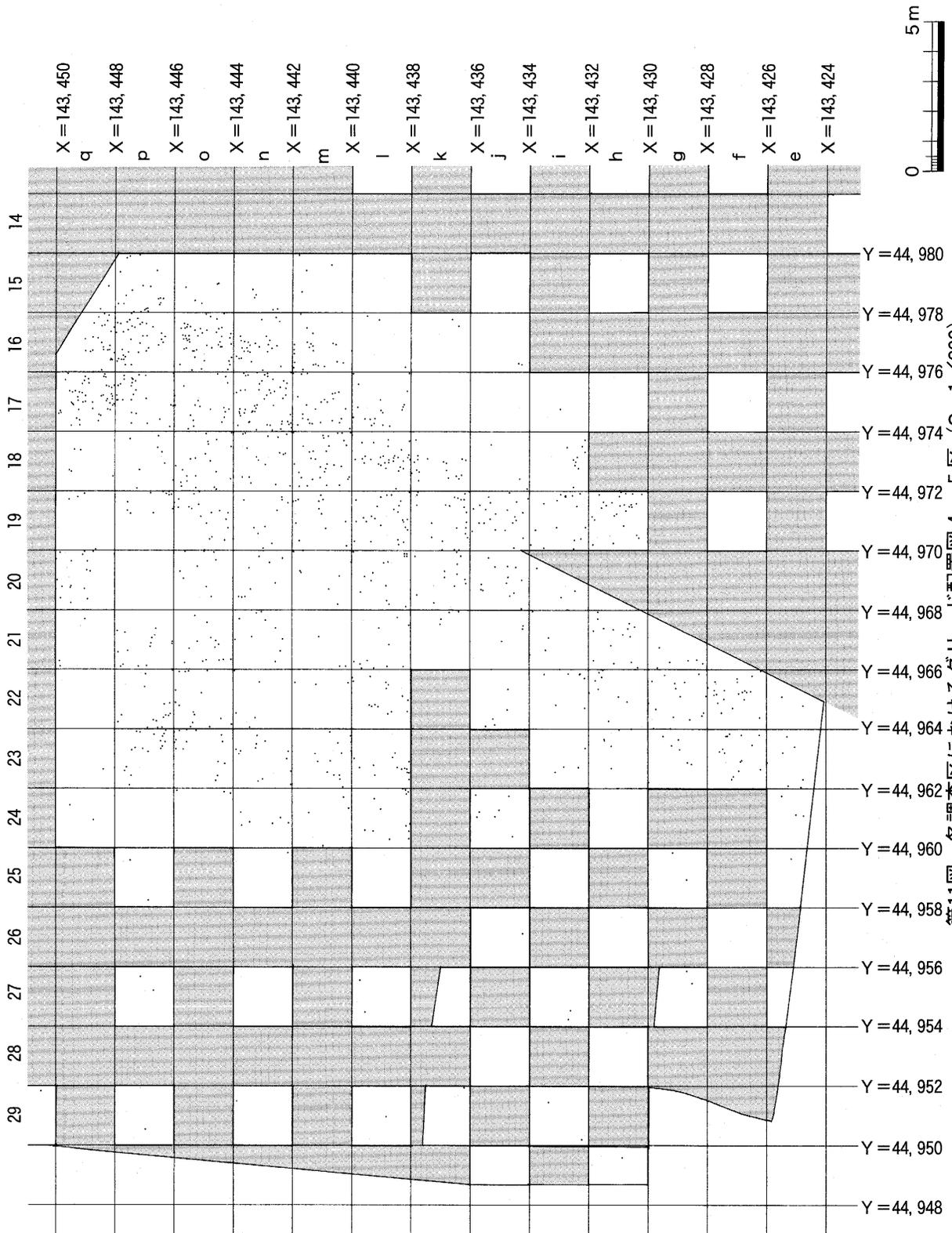
第8図 各調査区におけるグリッド配置図1 3b区 (S=1/100)

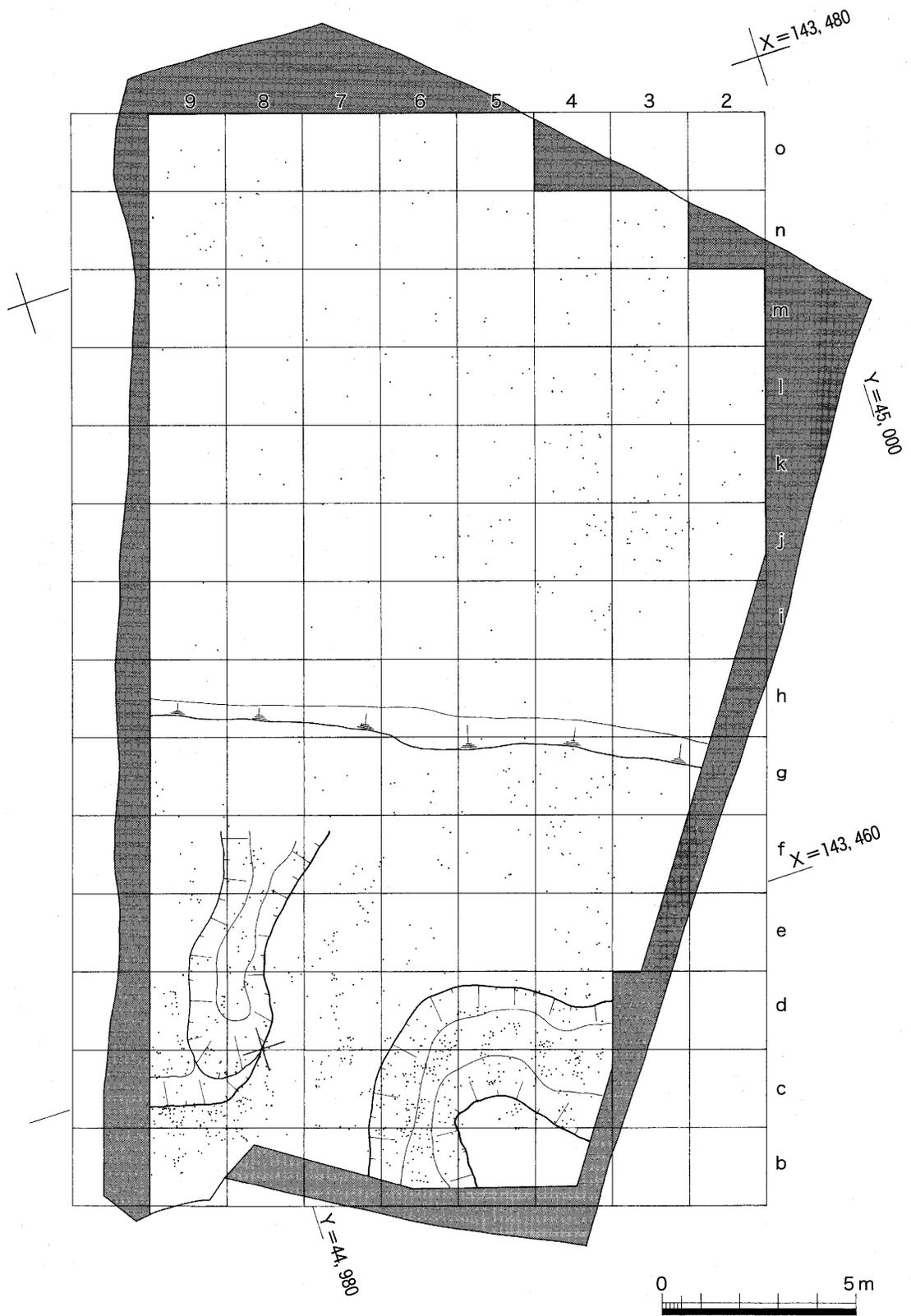


第9図 各調査区におけるグリッド配置図2 3a区 (S=1/150)



第10図 各調査区におけるグリッド配置図3 3c区 (S=1/150)





第12図 各調査区におけるグリッド配置図5 1b区 (S=1/160)

## 第2節 調査地の地形と土層序

### <地形>

調査地は六ツ目山から北に延びるヤツデ状の尾根が平野部に収束する付近にあたる。周辺地形分類図(第13図)の谷3と谷4に挟まれた、緩やかな傾斜をもつ幅約100mの広い丘陵面である。周辺各所にもみられる谷筋は、特に平野に近づくとつれて丘陵との比高差が縮まり、谷3では現在約1mほどの比高差しかみられない。水田開発により丘陵の表層土で谷が次第に埋められた結果である。石器包含層直上には古代～中世の包含層が水平堆積しており、元来旧石器時代の包含層を掘開して構築された古墳や埴輪焼成土坑などの古墳時代の遺構(大久保編1996)も含めて、丘陵Cの表層は古代以来、継続的に削平を被っている。

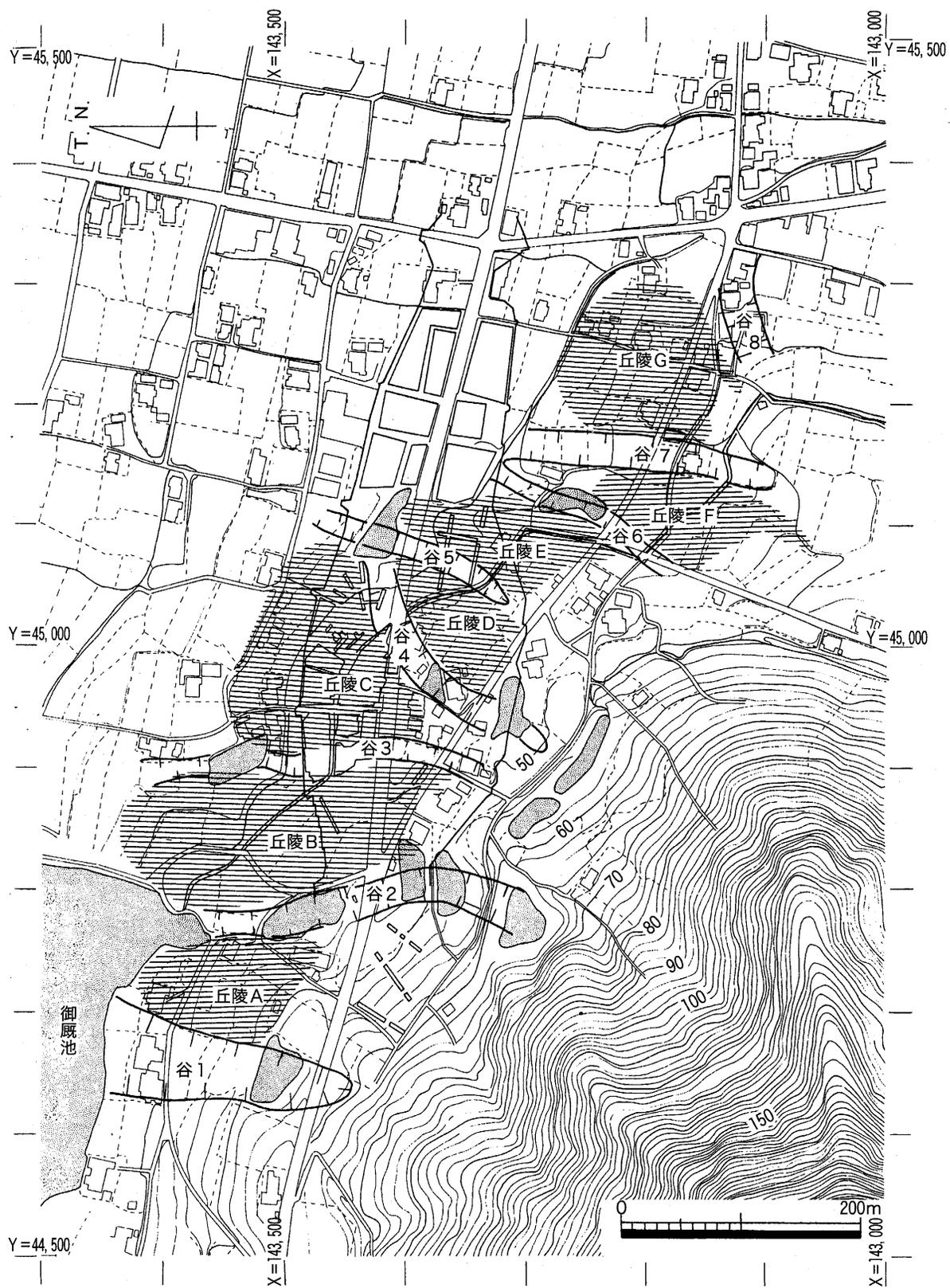
### <基盤層>

古墳時代以後の遺構面から下位の土層については、各所で土層観察を行っており、六ツ目山から北に傾斜する土層堆積を知ることができる。遺跡は丘陵裾から平野部への地形変換線付近に立地しており、基盤層は丘陵を構成する橙色系花崗岩風化土壌層である。ただ一部では礫層がみられる箇所もあり、扇状地最奥部の複雑な堆積環境を示す。

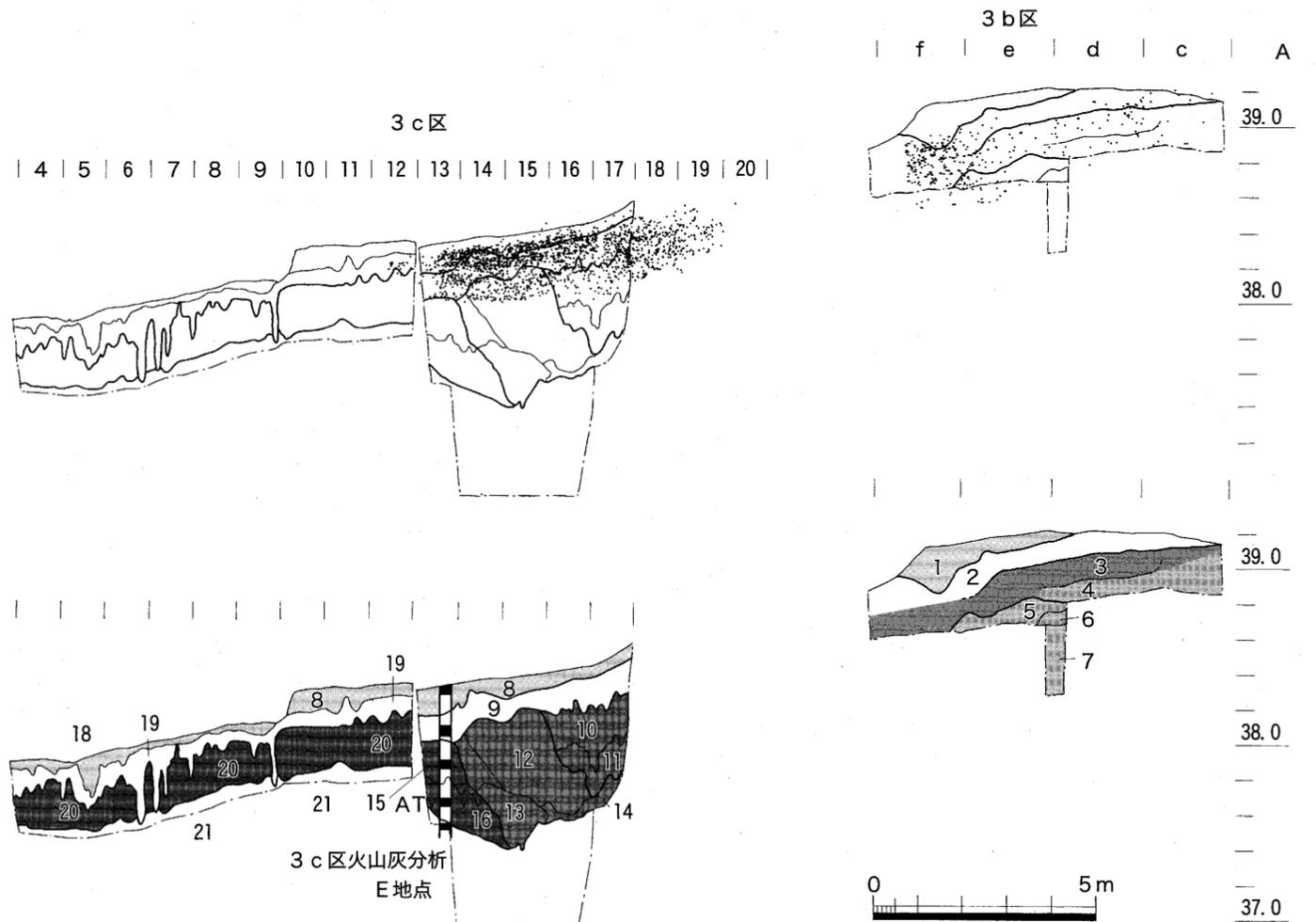
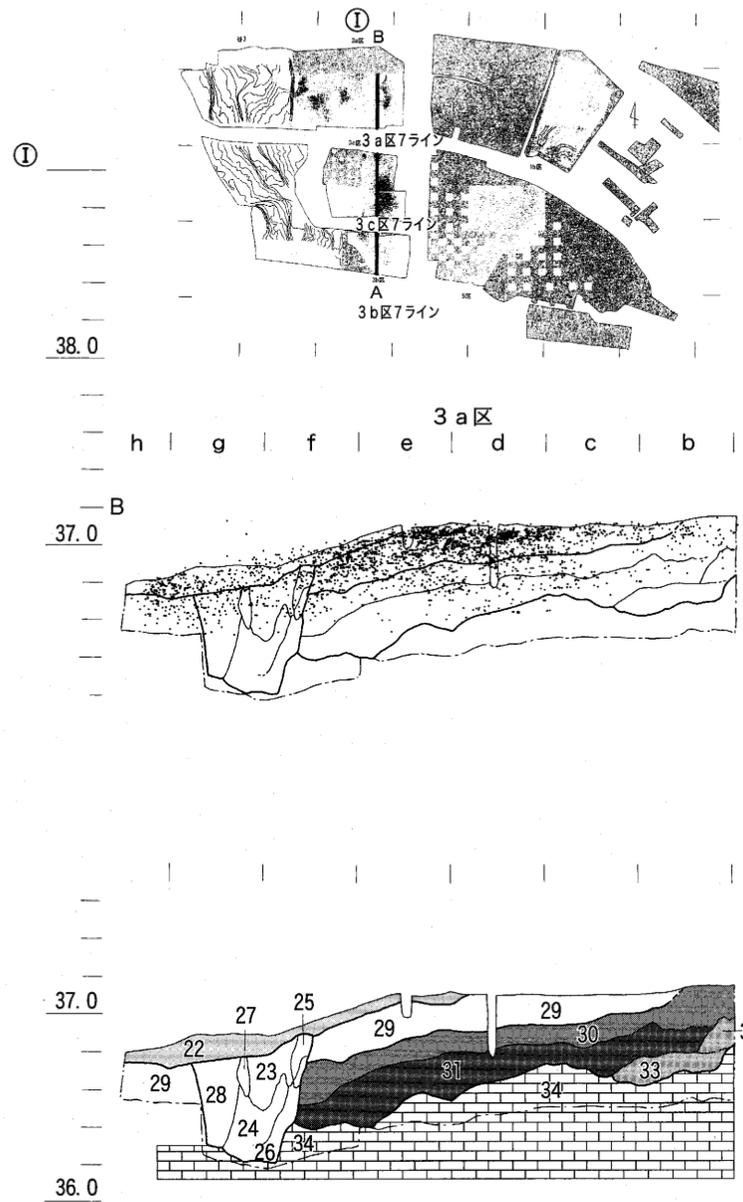
石器は基盤層を覆う30～60cmの厚さの黄色系土層から出土する。基盤層と黄色系土層は比較的明瞭な層境を認めることができる。包含層下部の深堀を行った3c区東西方向の断面Ⅷ(第18図)では、石器包含層の下部に基盤層を大きく下刻する流路がある。土壌分析の結果、流路堆積層中にはAT火山ガラスが含まれることがわかっている。基盤層は均質な花崗岩風化土壌層である。また、3a区東西方向の断面Ⅶ(第17図)では西側の流路の基盤層に礫層が堆積する。図の16層と20層は礫の締まり具合が異なるが、必ずしも明瞭な境ではない。あるいはこの礫層も基盤層を下刻する流路堆積層であるかもしれない。断面東側の高所部では礫層はみられず、3c区から継続する花崗岩風化土壌層である。

### <流路>

上記の基盤層を下刻する流路は、火山灰分析を行った3a区・3c区の流路堆積層にAT火山ガラスピークがある(第2分冊第1章)ことから、流路の形成年代の上限はBP25,000以前にさかのぼる。その後、石器包含層の形成と相前後して3a区グリッド6-7間断面や5区グリッド24-25間断面などで流路状の断面を見ることができるが、石器分布に大きく影響を与えていないことからみると、石器ブロック形成以前のものともみてよい。一方で、1b区において調査時から確認できていた流路2条については、接合資料の検討の結果、石器ブロック形成後に形成された自然流路で、石器分布に大きな影響を与えていることがわかっている。また、3a区エリア3では接合資料の検討から、南から北に石器が二次的に移動していることがわかるが、断面観察で流路堆積を確認するに至っていない。



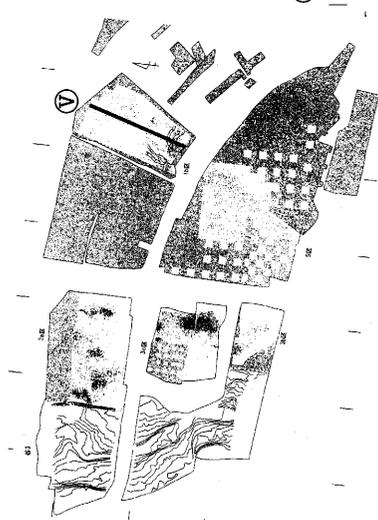
第13図 遺跡周辺地形分類図 (1/5,000)



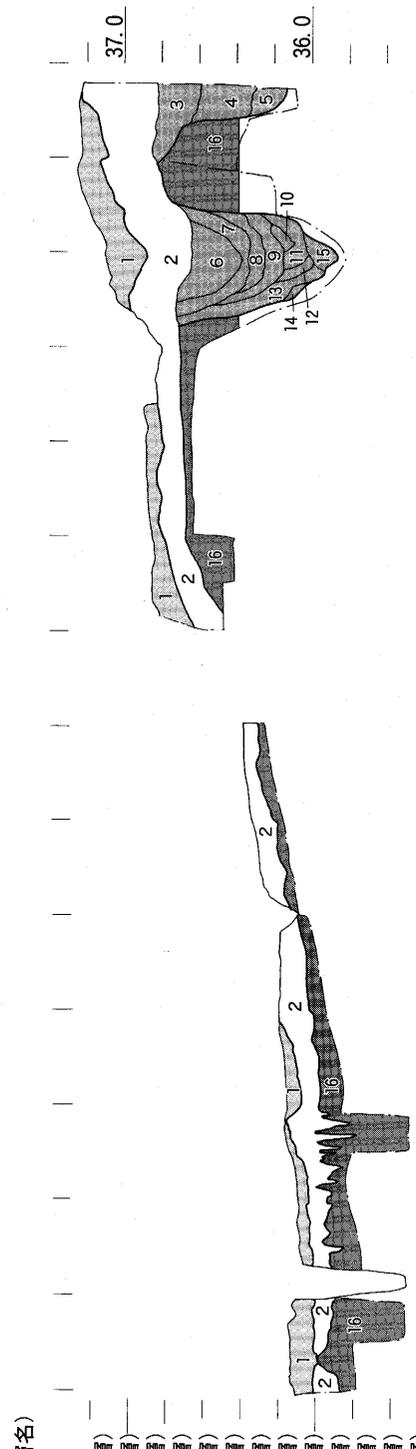
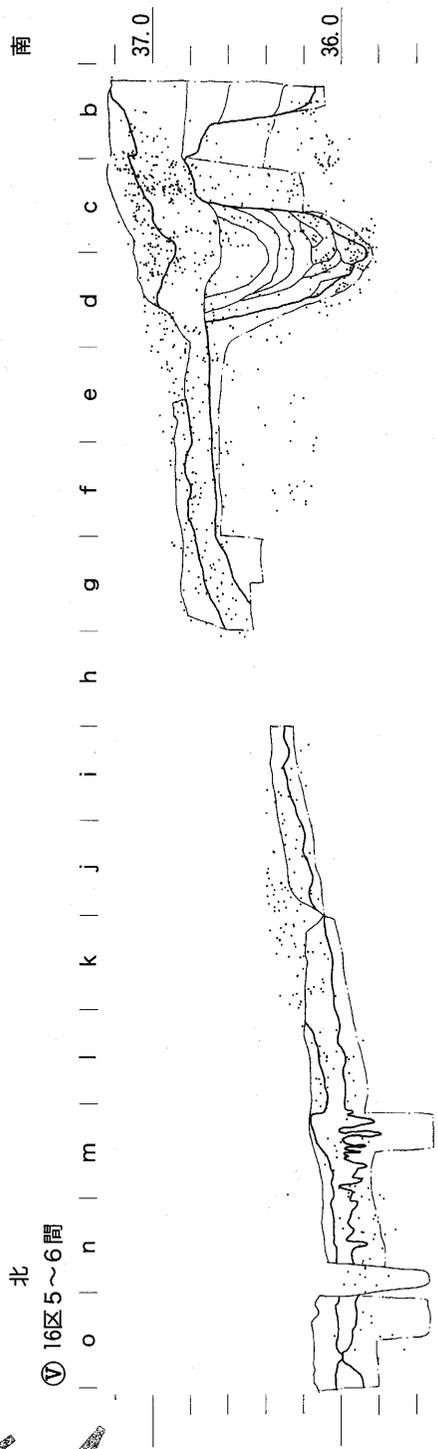
		(調査時・統一層名)			
1	淡黄色砂質土	Fe・Mn付着砂礫多	(地山1層・I層)	18	淡灰黄色土
2	暗黄褐色砂質土	Fe・Mn付着砂礫多, 粘性強	(地山2層・II層)	19	紫灰色土
3	暗黄褐色砂質土	砂礫(小)多	(地山2層・IIIa層)	20	黄灰緑色粘土
4	淡橙色粘土	灰白色シルトが地山2下層に混じる	(地山3層・IIIb-R層)	21	淡灰緑色粘土
5	灰白色シルト	ややグライ化	(IIIb-R層)	22	黄灰色土
6	暗灰色粗砂		(IIIb-R層)	23	3a層類似
7	灰白色シルト		(IIIb-R層)	24	暗紫色シルト
8	紫灰白色土	Mnの沈着層	(2b層・I層)	25	23類似
9	黄灰色粘土	中形礫含, 南でグライ化	(3a層・II層)	26	23+24
10	黄緑色粘土		(5a層・IIIa-R層)	27	2層類似
11	黄灰色粘質土		(5b層・IIIa-R層)	28	暗紫色シルト
12	黄褐色礫混粘土	Mnの粒状沈着多	(5c層・IIIa-R層)	29	黄橙色土
13	暗褐色砂粘土	上部は15と同一層か	(5d層・IIIa-R層)	30	黄灰色土
14	暗褐色粘土		(5e層・IIIa-R層)	31	ピンク系黄灰色土
15	淡灰緑色粘土	小型礫多含	(3b層・IIIb層)	32	粗砂礫ブロック
16	淡灰緑色粘土	ATガラスピーク	(4層・IIIb層)	33	灰色シルト
17	橙色粘土		(6層・IV層)	34	淡茶褐色土
					きめ細かく, 礫多含
					Mn集積, 層下面乾痕多, 上位灰白色粗砂混
					粘性強, 5cm大礫多含, Mn集積あり
					粘性強, 花崗岩風化土含
					風化礫(1・2cm大)多含, 下にMn点状斑
					やや粘性強, よごれあり
					2・3a層のブロック多含, Mn多含
					粘性強
					24中に, 23ないし3a層ブロック多含
					ブロック状
					ごく微量の炭細粒含
					粘性強, Fe雲状斑, 1層との境明瞭
					2層より粘性弱, 上面から乾痕顕著
					粒径の揃う砂質, 火山ガラス目立つ
					Mn沈着顕著
					粘性強, 調査区東に分布
					砂質, 堅緻, Mn沈着, 3b層との境波打つ

第14図 土層断面図及び石器垂直分布図1 断面① (縦1/40 横1/160)

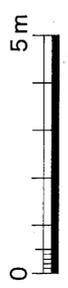




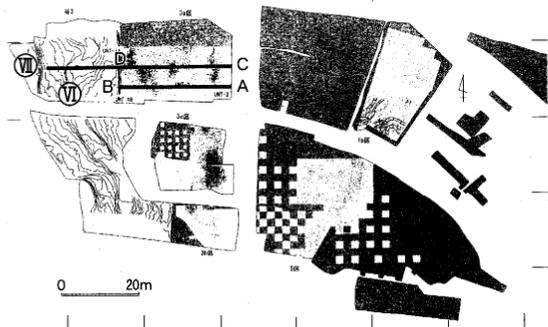
北  
 ⑤ 16区5~6間



- (調査時 統一層名)
- 1 黄白色質土 砂礫Mn多い (地山1層) ・ I層)
  - 2 黄褐色土 礫砂混 粘礫 (地山2層) ・ II層)
  - 3 明橙色粘土 (流路層) ・ II-R層)
  - 4 淡灰色細砂 (流路層) ・ II-R層)
  - 5 淡灰色シルト (流路層) ・ II-R層)
  - 6 暗灰色粘土 黒色有機質多い (流路層) ・ II-R層)
  - 7 灰白色粘土 (流路層) ・ II-R層)
  - 8 淡黄白色シルト (流路層) ・ II-R層)
  - 9 灰白色シルト (流路層) ・ II-R層)
  - 10 淡黄白色シルト (流路層) ・ II-R層)
  - 11 淡灰褐色砂 Fe沈着多い (流路層) ・ II-R層)
  - 12 黄白色シルト (流路層) ・ II-R層)
  - 13 淡灰色細砂 白色風化礫含む (流路層) ・ II-R層)
  - 14 白色風化礫層 (流路層) ・ II-R層)
  - 15 褐色粗砂 (流路層) ・ II-R層)
  - 16 濃橙色粘質土 Fe・Mn沈着多い (地山3層) ・ III~IV層)

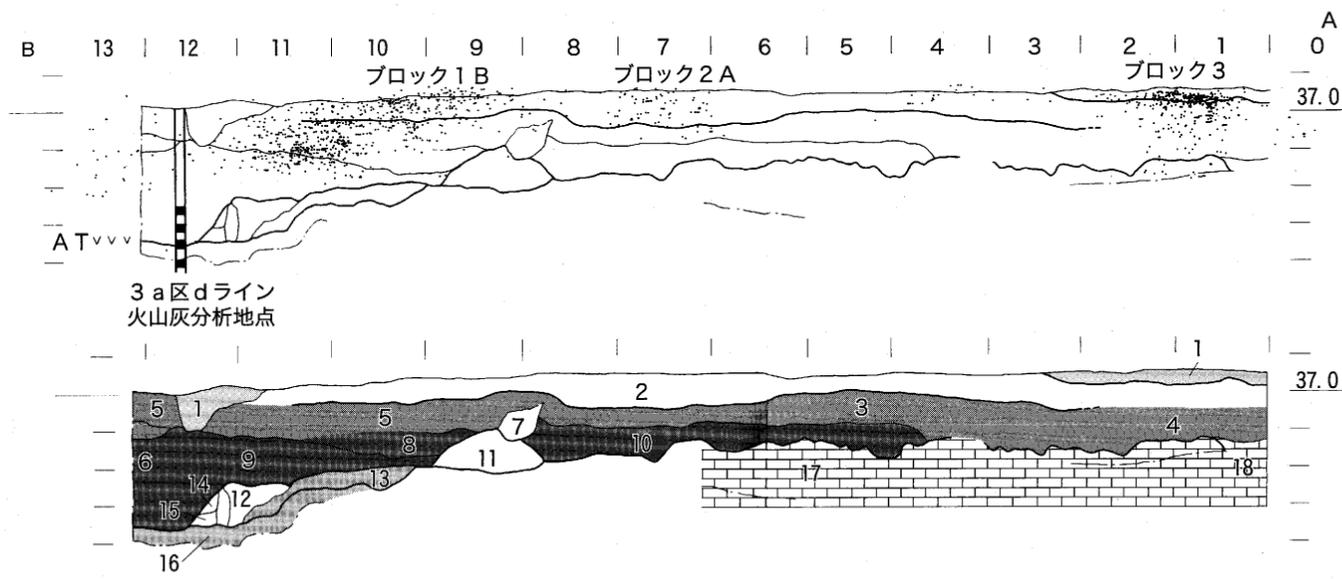


第16図 土層断面図及び石器垂直分布図 3 断面⑤ (縦1/40 横1/160)



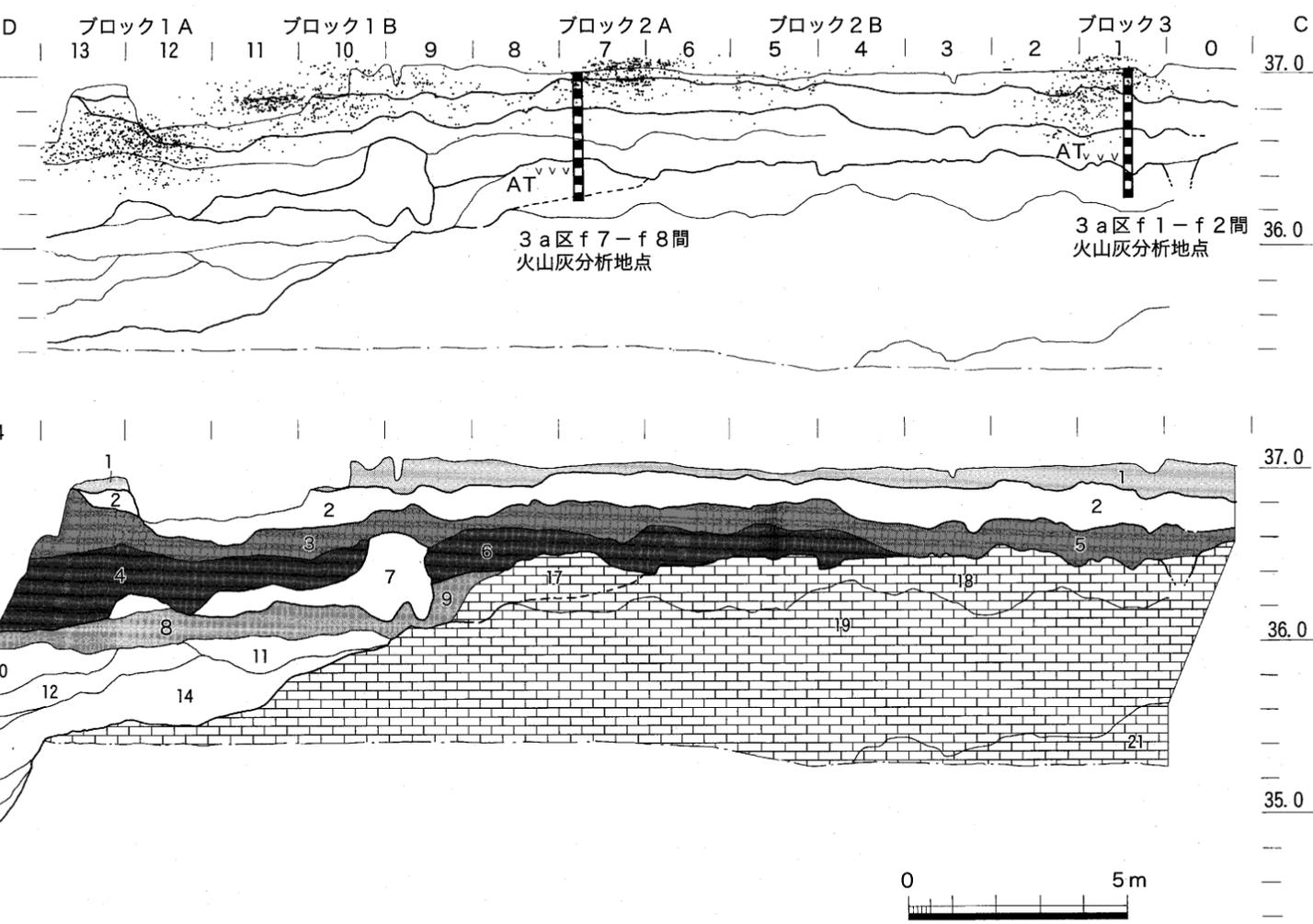
Ⅵ 3a区dライン

- |             |                            |               |
|-------------|----------------------------|---------------|
| 1 黄灰色土      | 風化礫 (1・2cm 大) 多含, 下位にMn点状斑 | (1層・I層)       |
| 2 黄橙色土      | 粘性強, Fe雲状斑, 1層との境明瞭        | (2層・II層)      |
| 3 淡黄灰色土     | 2層より粘性弱, 上面から乾痕顯著          | (3a層・IIIa層)   |
| 4 淡黄橙色砂質土   | d3以東2・3層区分不明瞭, 粗砂含, 乾痕なし   | (3a層・IIIa-R層) |
| 5 淡灰緑色土     | 白色砂礫を含まない                  | (3a層・IIIa層)   |
| 6 淡褐色土      | 花崗岩風化土に近い                  | (3a層・IIIa層)   |
| 7 明褐色砂塊     | 3a層との境不明瞭                  | (3b層・IIIb層)   |
| 8 黄灰色土      | 粒径の揃う砂質, 火山ガラス目立つ          | (3b層・IIIb層)   |
| 9 ピンク系黄灰色土  | 東端は3a層との境が不明瞭              | (3b層・IIIb層)   |
| 10 ピンク系黄灰色土 | 東端は3a層との境が不明瞭              | (3b層・IIIb層)   |
| 11 黒色粘土     | Fe沈着顯著, 砂礫の混入少             | (4a層・IV-R層)   |
| 12 橙色シルト    |                            | (4b層・IV-R層)   |
| 13 黒色粘土     |                            | (4a層・IV-R層)   |
| 14 暗灰色粘土    |                            | (4b層・IV-R層)   |
| 15 暗灰色粗砂    |                            | (4b層・IV-R層)   |
| 16 黒色粘土     | 植物遺体多                      | (4a層・IV-R層)   |
| 17 橙褐色砂質土   | 堅緻                         | (4層・IV層)      |
| 18 橙色砂質土    | 砂礫混, 花崗岩風化土に近い             | (4層・IV層)      |



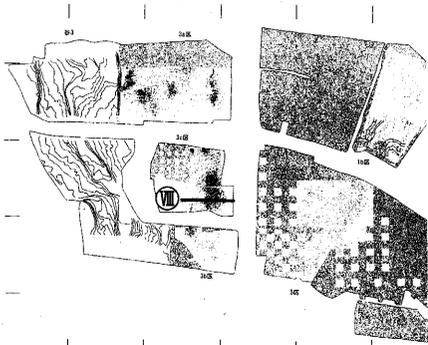
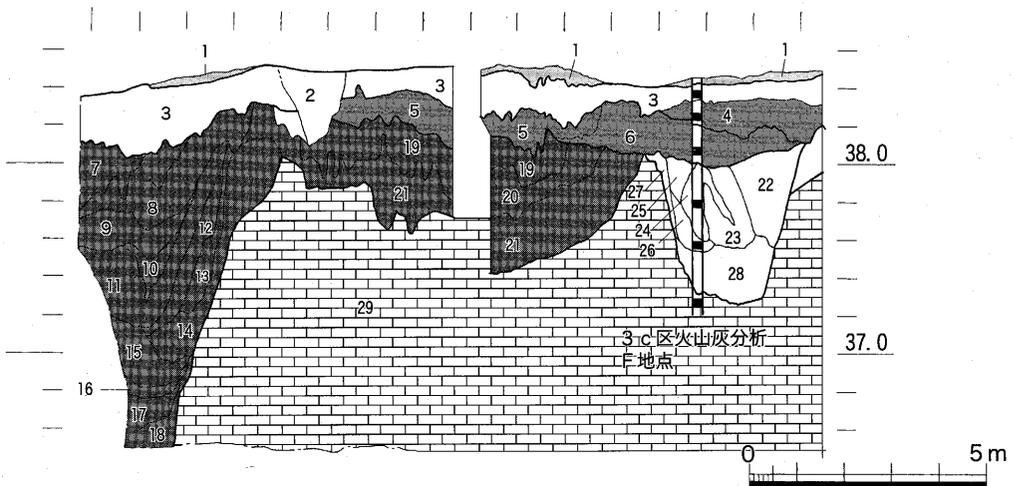
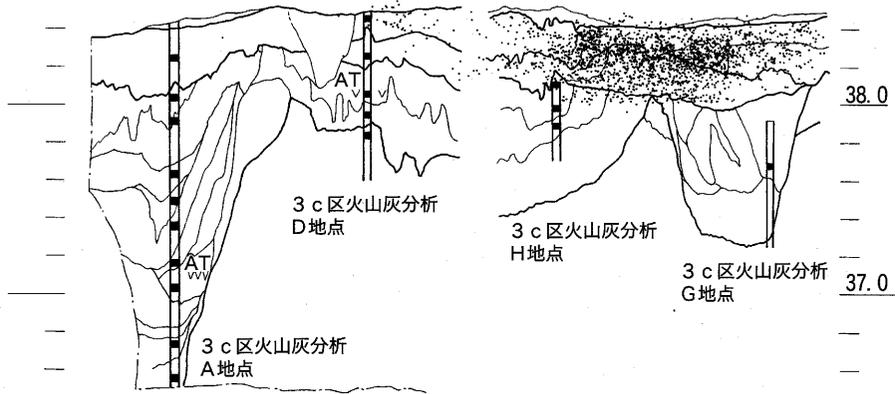
Ⅶ 3a区fライン

- |            |                            |               |
|------------|----------------------------|---------------|
| 1 黄灰色土     | 風化礫 (1・2cm 大) 多含, 下位にMn点状斑 | (1層・I層)       |
| 2 黄橙色土     | 粘性強, Fe雲状斑, 1層との境明瞭        | (2層・II層)      |
| 3 淡黄灰色土    | 2層より粘性弱, 上面から乾痕顯著          | (3a層・IIIa層)   |
| 4 ピンク系黄灰色土 | 東端は3a層境不明瞭, 西端は砂礫含, 湧水有    | (3b層・IIIb層)   |
| 5 淡黄白色土    | 3aと3bの区分不明瞭, 3a類似, シルト質    | (3a?・IIIa-R層) |
| 6 淡黄橙色砂質土  | 4に類似, Mnの塊状沈着多             | (3b層・IIIb層)   |
| 7 褐色砂質土    | ブロック状, Fe多含                | (4b層・IV-R層)   |
| 8 漆黒色粘土    |                            | (4a層・IV-R層)   |
| 9 黒色粘土     |                            | (4a層・IV-R層)   |
| 10 暗灰色砂    |                            | (4層・IV層)      |
| 11 4a層類似   | Fe顯著                       | (4a層・IV-R層)   |
| 12 灰黒色砂    | 風化礫混                       | (4層・IV層)      |
| 13 暗灰色粗砂   |                            | (4層・IV層)      |
| 14 黒色粘土    | 堅緻, 下部に炭化物含                | (4層・IV層)      |
| 15 青灰色粘土   |                            | (4層・IV層)      |
| 16 暗青灰色砂礫  | 風化礫                        | (4層・IV層)      |
| 17 淡灰色シルト  |                            | (4層・IV層)      |
| 18 灰褐色砂質土  | 堅緻                         | (4層・IV層)      |
| 19 明黄色粘土   | Fe, Mn含                    | (4層・IV層)      |
| 20 暗青灰色砂礫  | 堅緻                         | (4層・IV層)      |
| 21 淡灰褐色砂質土 | 白色砂多含, 堅緻                  | (4層・IV層)      |
| 22 暗黄色粘質土  | 白色砂多                       | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 23 暗黄色粘・砂混 | 砂礫主体, 70%以上黒褐色砂礫           | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 24 暗褐色砂礫   | 堅緻                         | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 25 淡黄色シルト  | 微細砂, ややグライ化                | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 26 24+25   | 細砂主体                       | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 27 淡黄色シルト  | 褐色シルトラミナ混                  | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 28 淡黄~灰シルト |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 29 淡灰褐色粗砂  | 軟弱                         | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 30 黒褐色砂礫   |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 31 黒褐色シルト  | 微細砂, ラミナ状堆積                | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 32 黄色シルト   | 細砂主体                       | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 33 暗黄色粘土   | ややグライ化, 粘性強, 堅緻            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 34 暗青黄色シルト | 細やかなラミナ状堆積                 | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 35 灰色砂層    |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 36 暗青灰色細砂  |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 37 淡青色粘土   | グライ化, 粘性強, 堅緻, 灰色シルトラミナ混   | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 38 暗青灰色粘土  | 花崗岩砂礫少含                    | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 39 青灰褐色粘土  |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 40 褐色砂礫    | Fe沈着, 堅緻                   | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 41 暗青灰シルト  | ラミナ状堆積                     | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 42 灰色砂礫    | 風化礫多含                      | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 43 淡灰色粗砂   |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 44 淡灰色砂礫   |                            | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 45 暗灰色砂層   | ラミナ状堆積                     | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 46 暗青色シルト  | ラミナ状堆積                     | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 47 暗灰色砂礫   | 風化礫多含                      | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 48 淡明青色粘土  | 堅緻                         | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 49 淡明青色砂   | 堅緻                         | (流路堆積・谷C埋土)   |
| 50 淡明青色砂粘  | 堅緻                         | (流路堆積・谷C埋土)   |



第17図 土層断面図及び石器垂直分布図 4 断面Ⅵ・Ⅶ (縦1/40 横1/160)

西 | キ | ク | ケ | コ | サ | シ | ス | セ | ソ | タ | チ | ツ | テ | ト | ナ | ニ | 東



- |    |            |                 |                |
|----|------------|-----------------|----------------|
| 1  | 淡灰褐色土      | Mn沈着顕著          | (調査時・統一層名)     |
| 2  | 攪乱土層       |                 | (2層・I層)        |
| 3  | 明橙色～灰綠色粘土  | 細粒砂混            | (攪乱層・)         |
| 4  | 淡黄褐色粘土     | 細粒砂混            | (3層・II層)       |
| 5  | 暗褐色～黄綠色粘土  | Mn沈着            | (3層・IIIa層)     |
| 6  | 淡黄綠色粘土     | 粗砂混, 乾痕内から石器が出土 | (3層・IIIa層)     |
| 7  | 青灰～淡灰白色粘質土 | 粗砂混             | (3下～4上層・IIIa層) |
| 8  | 暗褐色粘土      | 粗砂混             | (5層・IIIa-R層)   |
| 9  | 暗茶褐色細砂     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 10 | 淡灰色極細砂     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 11 | 淡灰白色シルト    |                 | (・IIIa-R層)     |
| 12 | 灰白色粘質土     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 13 | 灰黄白色砂      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 14 | 淡黄褐色粘質土    |                 | (・IIIa-R層)     |
| 15 | 暗灰色粗砂      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 16 | 淡黄褐色細砂     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 17 | 淡緑灰色砂質シルト  |                 | (・IIIa-R層)     |
| 18 | 暗緑灰色粘質土    |                 | (・IIIa-R層)     |
| 19 | 黄灰色粘質土     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 20 | 淡黄綠色細砂     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 21 | 暗褐色粘土      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 22 | 淡灰白色細砂     |                 | (・IIIa-R層)     |
| 23 | 灰茶色砂礫      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 24 | 灰白色細砂      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 25 | 黄灰色砂質土     | 細礫混             | (・IIIa-R層)     |
| 26 | 淡灰茶色細砂     | 細礫混             | (・IIIa-R層)     |
| 27 | 淡黄褐色砂質土    | Mn沈着            | (・IIIa-R層)     |
| 28 | 暗褐色砂礫      |                 | (・IIIa-R層)     |
| 29 | 橙色粘土       |                 | (・IV層)         |



第18図 土層断面図及び石器垂直分布図 5 断面Ⅷ (縦1/40 横1/160)

### <石器包含層>

石器包含層は大きく3層に区分できる。Ⅰ層は淡黄灰色を呈し粗い砂粒を多く含む粘性土である。湿った状態ではバラバラとブロック状に土を剥ぎ落とすことができるが、一度乾燥すると砂粒と粘土が堅く結合して、極めて堅くなる。粗いマンガン粒を多く含む。Ⅱ層は淡黄灰橙色を呈しシルト分が多い粘性土である。粗い砂粒は少なく、きめ細かい触感。鉄分が雲状に沈着する。Ⅲ層は黄色～灰黄色粘土層で、Ⅱ層より粘性がやや弱い箇所（3a区）と粘性が強くなる箇所（3c区・5区）がある。

これらの基本層序は概ね全調査区で認めるが、細部は一様ではない。

3a区ではⅢ層が上下2層に分かれ、下部にピンク色を呈する砂質土が調査区の西側を中心に堆積する。この層の下位にAT火山ガラスのピークがある。dライン火山灰分析地点では60%を超えるガラス含有率をもつ純層に近い層準がある。これをⅢ-b層とし、上部をⅢ-a層として区分した。また、3a区ではⅢ-b層下位に黒色粘土層がある。調査時の記録では炭化物を多く含む土層とある。花粉の遺存の有無を概査したが、状態が悪く分析対象にはならなかったが、分解が未熟な泥炭質の土層であったものとする。AT層直下にこのような泥炭層をもつ事例として、丸亀平野の郡家大林上遺跡がある。

先にも述べたが、石器包含層堆積途上で流路がみられた。これらの流路は5区では黒褐色を呈し堅く締まったシルト質の土で堆積する。これらの堆積層には-Rを付けて区分した。

### <各断面取得位置における土層堆積状態と石器垂直分布の点検>

**断面Ⅰ・Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ** 調査地中央を南北・東西に縦断したラインである。最も高所の3b区では、石器包含層Ⅰ～Ⅲ層が順当にみられる。しかし基盤層は明瞭ではなく、Ⅲ層下部にシルト、砂層の堆積がみられる。Ⅲb層に対応するものであろう。石器は主にⅠ層下部からⅡ層にかけて出土する。

3c区では、東西方向の断面（断面Ⅷ）にみる流路埋土がⅢ層下部全体に分布する。3c区北側断面では20層とした粘土層が均質に堆積するようにみえる。しかし、これは南北方向に流下する流路の一部分を南北方向に断ち割ったものである。20層は断面写真を点検すると、上部と下部に分けられる可能性があり、下部に連続する3c区南の16層にはAT火山ガラスの60%含有率のピークがある。したがって16層と20層下部については、3a区のⅢb層に対応するものと考えて良い。石器垂直分布はグリッド13以南の3c区南側ではⅠ層下部からⅡ層にかけてドットが集中する。

3a区ではⅠ層下部からⅡ層にかけて石器の垂直分布がみられる。

**断面Ⅱ～Ⅳ** 5区の南北方向の断面である。南端にはⅠ層より上位に軟弱な土質の暗灰黄色土がある。0層としている。石器分布の中心は図で見る限り、Ⅲa層にある。火山灰分析を行っていないので、他の調査区との対応関係は不明である。

**断面Ⅴ** 1b区の縦断面である。1b区も北への傾斜とともに東方向へも傾斜がみられる。石器分布の中心はⅡ層にある。また、Ⅲ層を切り込むように図化している流路も、後述する接合関係の検討により、包含層形成後に下刻した流路であることがわかっており、元来Ⅱ層を切り込んでいたものと考えられる。

### 第3節 報告手順と記載の方法

#### (1) 報告単位の区分と順序

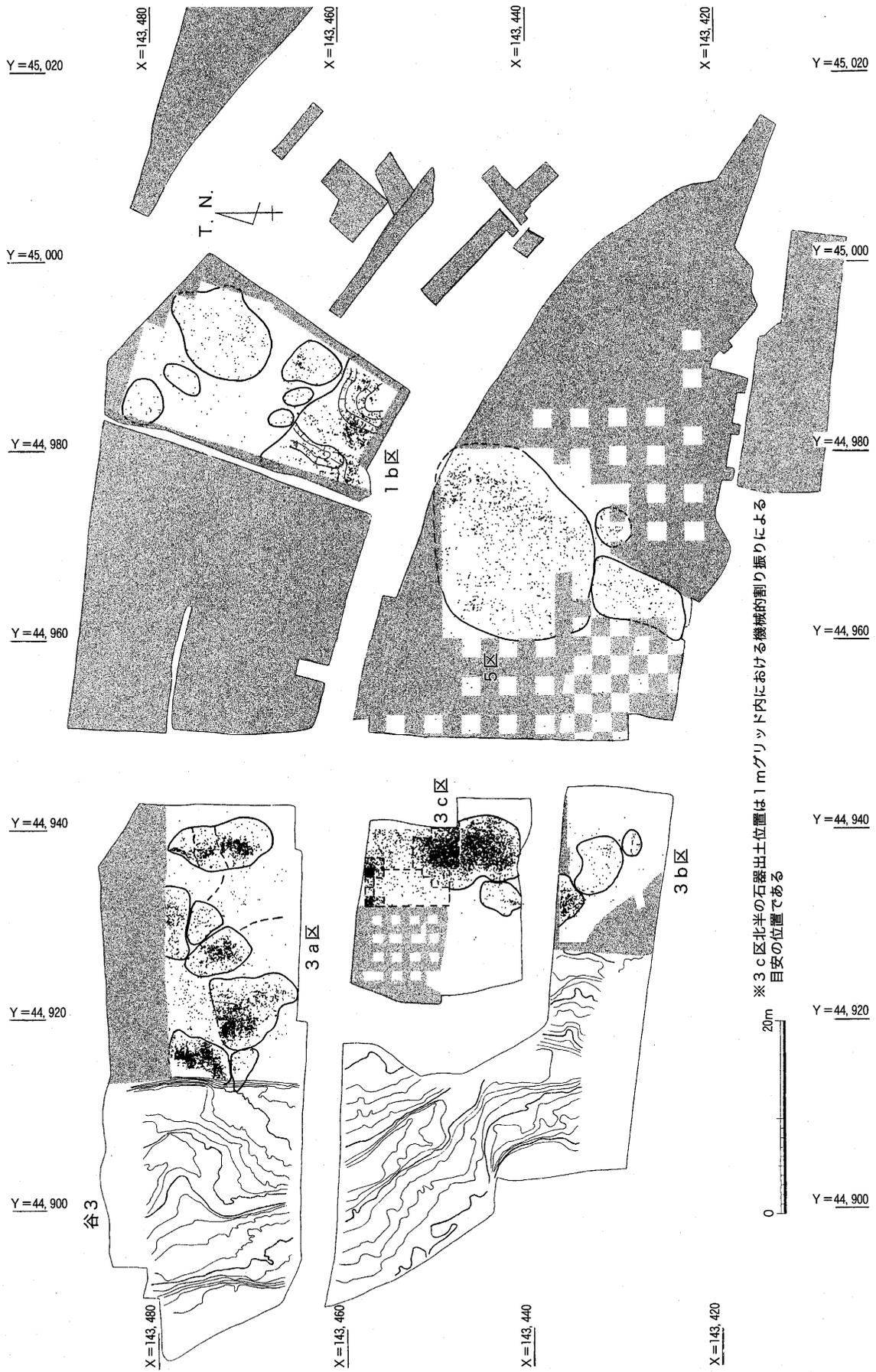
当遺跡の石器分布は、3a区や3c区のように極めて密集して遺物が分布する地区と、5区や1b区のように全体的に散漫な分布を示す地区が混在しており、統一的な基準で「ブロック」や「ユニット」といった単位区分を適用するのは、若干の不都合を生じる。そこで調査区ごとに以下の方法で単位を区分することとした。区分名称は、原則として一つの石器集中部を「ブロック」と表現した。ただし、3a区についてはブロックの平面分布がいくつかのまとまりを持っていたので、大きくまず「エリア」として区分し、その上で、ブロック区分を行った。なお、整理作業の過程で「ユニット」あるいは「エリア」という用語を暫定的に使用する局面があったが、今回正式報告にあたっては以下のとおり改める。

なお、ブロックに含まれない散漫分布域、あるいは単独出土のものは外縁部（近隣エリアの名称、位置、outという組合せで表記した。たとえば、エリア1とエリア2の間で南に離れるものを1・2Soutとしている。）としてある程度まとめて報告している。そのほか、3a区と1b区については礫がまとまる箇所がある。これを礫ブロックと表現した。報告順序は、まず調査区における概要を記した後、礫、石器分布、主要石器、接合資料の順で報告を行った。

一方、このように区分したブロックでも石器分布や接合関係、あるいは個体識別作業を行っていくと、さらに細かく区分した方がよいブロックも見いだされた。しかし、作業進行上これ以上新たな区分を報告単位に反映させることが難しく、また個体識別作業の客観性の問題も残ることから、ブロックの細分とその関係性の追求を後章に送ることにした。以下、報告単位と報告順序を記す。

調査区	作業区分	報告区分	掲載頁数	出土石器数	面積(m <sup>2</sup> )	ブロック区分と分布概要	
3b区		礫	36~39	14	—		
		(ブロック1~3) (外縁部)	39~59	397	37	石器出土間隔1mで区分	
3a区	ユニット3	礫	82~88	36	—		
		礫ブロック1~3 礫外縁部					
	エリア3	(ブロック3A, ブロック3B, ブロック3C)	89~113	1071	37	視覚的なまとまりで便宜上区分	
	ユニット1	エリア1	ブロック1A	146~159	1407	26	エリア3の各ブロックとは、明確に区分可能 ブロック1Aと1Bは間に埴輪焼成土坑による攪乱があるが、グリッドe12のやや散漫な部分で区分、最短距離1.2m。 ブロック1B・1Cは層位的に区分可能。上層をH、下層をLとする。
			ブロック1B (H/L)	160~184	1466	40	
			ブロック1C (H/L)	184~187	54	6	
			ブロック2A	188~197	622	28	
ユニット2	エリア2	ブロック2B	197~202	86	10		
		ブロック2C	202~205	257	15		
		外縁部 (1 Sout, 1・2 Nout, 1・2 Sout, 2・3 Nout, 2・3 Sout, 3 Eout)	206~211	232	—		
3c区	北 南	ブロック1	277~280	139	3	1mグリッドに3点以上の分布で区分。ただし、ブロック4は散漫な分布のためまとまりを包括して繰りきした。	
		ブロック2	280~282	478	5		
		ブロック3	287~323	3811	69		
		ブロック4	324~327	64	12		
		外縁部	282~287	349	45		
5区		礫	359~362	16	—	ブロック区分していない	
		ブロック1	365~378	1045	260	ブロック1とブロック2の境が不明瞭。やや途切れるところで、便宜上区分した。	
		ブロック2	379~381	50	13		
		ブロック3	382~385	142	80	ブロック3は調査範囲外に広がる可能性が高い。	
		外縁部	385~389	43	—		
1b区		礫	395~410	255	—	3点以上まとまるものを区分	
		礫ブロック1~8					
		ブロック1	411	25	14	石器出土間隔1mを目安として区分 ブロック6は流路内出土のものを「L」、それ以外を「H」として区分	
		ブロック2	411~415	147	75		
		ブロック3~5	415~422	77	30		
		ブロック6 (H/L)	423~440	773	100		
外縁部	440~443	79	—				

第4表 報告単位区分表



第19図 報告単位区分図

## (2) 石器の提示方法

### 器種認定と観察項目

当遺跡では、出土した石器を以下のとおり分類した。このうち剥片と碎片を除いたものを主要石器とし、原則として全点を報告した。そのほか、接合資料については、それに関わる剥片類を含めて図化した。主要石器については個別の観察結果を属性表にまとめている。また、未報告の剥片類については別表に属性観察結果を提示した。

当遺跡の場合、主体となる石器は角錐状石器、ナイフ形石器である。通常、両者は異なる素材形態と整形加工を備えるが、どちらも区分しがたい形態のものが一定量存在する。また、整形加工途上において折損したものはいずれとも判断しがたいものも多い。ここでは、以下に示した基準で区分したが、細部では必ずしも当てはまらないものも含む。その場合は、属性表の備考にその旨を注記した。

また、遺跡内では盛んに整形加工が行われたことにより、その途上で器体の一部を取り込んで剥離した打撃失敗の剥片も多い。同様な打撃で半折したものは通常定形器種に含めるが、前者は剥片として処理するか、あるいは定形器種に組み入れるか、迷うものが多い。ここでは、器体の表裏面いずれもがその石片内に取り込まれている場合は、たとえ細かな剥片でも該当器種に組み込んで報告することとした。明らかに整形加工に伴う剥片である場合は、属性表にその旨を記している。

なお、分布図のうち特に凡例がないものは、下の器種別の記号を示している。

器種(略号) 分布図記号	形態の特徴	技術的特徴	形状分類 (表記)	整形加工による分類	表記
角錐状石器 (Tr) ▲	細長で先端が尖る形態	素材の形状に関わらず、整形加工によって器体の形状を作出する。周縁全周に整形加工を施し素材縁辺を残さない。	断面形 三角形 △ 四角形 □ 菱形 ◇	表面のみ加工(二面加工) 2 裏面も加工(三面加工) 3 稜上からも加工 裏面からのみの加工	exp. (2-W) 3-S S W
ナイフ形石器 (Kn) △	細長で先端が尖る形態と幅広く先端が尖らない形態がある	剥片を素材とする。側縁の一方ないし両方に整形加工を施し、素材の縁辺を残す。	断面形 三角形 △ 四角形 □	一側縁加工 1 二側縁加工 2 稜上からも加工 S 裏面からのみの加工 W	
スクレイパー (Sc) □	正面形に関わらず、石片の一部に連続的な二次加工が施されるもの	二次加工には剥離角が急角度のものと浅い角度のものがあり、後者には表裏面違いに施されるものがある。通常、刃部以外の器体には整形加工が施される。	加工部位		加工区分
			打面 側縁 末端 ※残核素材の場合は、石核の素材段階の剥片に対応させる	刃部加工 整形加工 未加工 ※微細剥離痕がある場合△	◎ ○ × △
加工痕有剥片 (RF) ○	正面形に関わらない。	石片の一部、ないし全面に不規則な二次加工が施される	加工(使用痕)部位		加工(使用痕)区分
			打面 側縁 末端 ※残核素材の場合は、石核の素材段階の剥片に対応させる	剥離加工痕 敲打加工痕 微細剥離痕 磨減痕 未加工	○ ● △ ☆ ×
使用痕有剥片 (UF) ○	正面形に関わらない。	石片の一部、ないし全面に微細剥離痕が認められる	打面調整の有無と多寡		面転移の有無
			細かな打面調整 ◎ 粗い打面調整 ○ 打面調整なし ×	面転移顕著 ◎ 面転移あり ○ 面転移なし ×	
石核 (Cr) ■	最終作業面がネガ面で、そのネガ面が各報告単位における主要石器に対応する大きさを備えるもの	打面調整を施すものと施さないものがある。作業面・打面を入れ替えながら剥片剥離を進めるものと、作業面を固定するものがある。	打面調整の有無と多寡		面転移の有無
			細かな打面調整 ◎ 粗い打面調整 ○ 打面調整なし ×	面転移顕著 ◎ 面転移あり ○ 面転移なし ×	
叩石 (HS) ×	棒状を呈する	敲打痕を認める	敲打痕および研磨痕の部位		敲打および研磨の多寡
			頭部 側縁 尾部 ----- 表面 裏面 側縁	顕著な痕跡を認める ◎ 不明瞭な痕跡を認める ○ 痕跡なし ×	
磨石 (GS) #	扁球状を呈する	平滑な研磨面をもつ			
剥片 (Fl) ●	長幅ともに15mm以上の石片	石理 受熱 背面構成A 背面構成B 背面構成C 自然面 打面形状	(主要剥離面と)合致A 相反B 中間C 不明D 亀裂の多寡をもとに、最大を10として程度区分 主剥離面と同一方向の背面剥離面数(左右45度以内) 主剥離面と90度異なる方向の背面剥離面数(左右ともに上下45度以内) 主剥離面と180度異なる方向の背面剥離面数(左右45度以内) 自然面が残るもの○ 平坦打面 調整打面 点状打面 礫打面		
碎片(Ch)・	長幅ともに15mm以下の石片				
原石(RM)	全面を自然面で覆われたもの				
その他石器	尖頭器(Po) Y 石鏃(Sc) ☆				

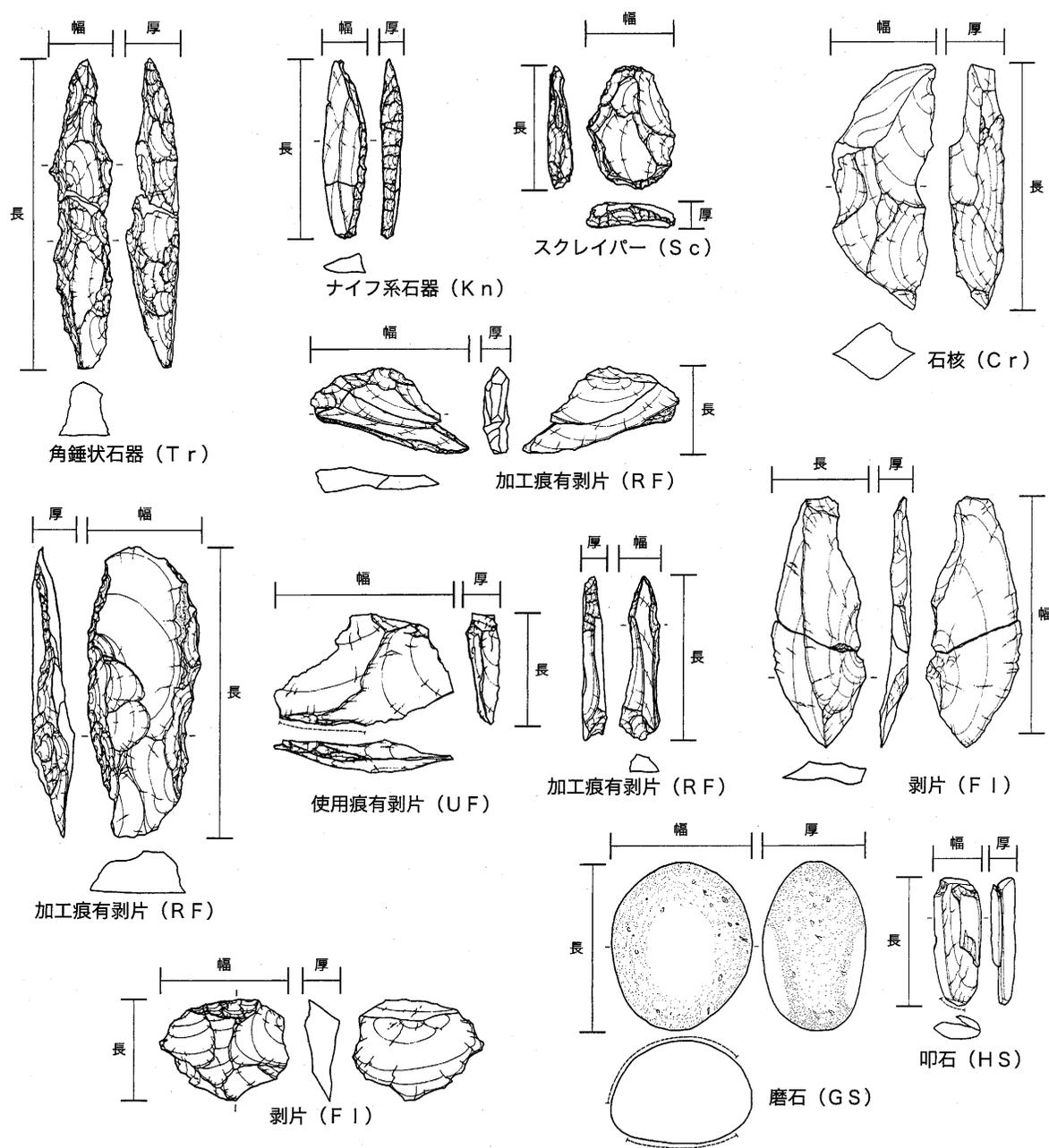
第5表 中間西井坪遺跡出土石器の器種分類と観察項目

## 計測方法と縮尺

各器種の計測方法について、下図に凡例を示した。なお、主要器種については残存状況を各属性表に記載している。図化していない剥片については、CD-ROM中の剥片属性表に記載した。残存度の項目に完形を100%とした場合の遺存部の割合を10%刻みで表記した（一部には、僅かな折損がある場合などには「95%」と表現したものもある）。

なお、剥離角については主要剥離面と打面とでなす角度を5%刻みで表記している。

石器実測図の縮尺は原則として定形打製石器 2/3, 定形礫石器 1/2, 礫 1/3, 打製石器接合状態図 1/2, 接合剥片およびその他の剥片 2/3 で統一した。なお遺物実測は縮尺 1/1 で行い、一旦原図を拡大して製図した後、印刷段階で50%に縮小して上記縮尺になるように調整したものである。



第20図 石器表記・計測方法凡例図

## 石材表記と個体識別資料

石材に関しては、全体の99.7%が安山岩であり、その多くが「サヌカイト」である。ただし、分析結果に冠石材が一定量含まれており、サヌカイトのすべてが在地石材という訳ではない。そのほか、チャート・ハリ質安山岩・流紋岩・結晶片岩・砂岩・頁岩などがある。属性表ではサヌカイト以外の石材は石材名を記入している。サヌカイトについては、肉眼による風化面の観察により次の区分を行った。A灰色系（普通サヌカイト） C白色系で風化顕著 D灰白色系で緻密な石質、器面が平滑 K暗灰色系で器面に多数の気泡がある。Fそれ以外のサヌカイトである。なお、Bについては当初Aの中で石理が顕著なものを区分していたが、境が曖昧となりAに統合することとした。

なお、特徴的な属性を持ち合わせている個体について、一部で個体識別を行った。3 a区エリア3, 3 a区エリア1・2, 5区である。それぞれの調査区（エリア）区分毎に1から個体番号をつけている。本文や図中では個●と略して表現している。詳細は後章に送る。

## 接合資料の観察と提示

接合資料は調査区単位でまとめて掲載した。接合番号もその単位毎に1から連番を振った。3 a区はエリア区分に関係なく連番であるが、掲載はエリア毎に分けている。したがって、エリア1・2の接合資料番号は44からとなる。なお、本文や図中においては、接●と略して表現した箇所もある

## 実測図の番号表記

実測図の番号は礫を含めて、本書冒頭より1から連番を振っている。接合状態図も個別番号を付した。したがって、報告書番号が1つの個体を示すものではない。接合する主要石器については、接合資料図に重複して掲載することを避け、主要石器側にのみ掲載した。また、同じ接合資料でも剥片剥離の各段階に応じて、複数の接合状態図を掲載していることがある。これも原則として個別の報告書番号を振っている。以上の方法で掲載すると、接合関係のある個体を集めて見ることが困難となる。そこで、接合状態図には、それを構成する個体の実測図番号を+記号で連結し、さらに[ ]記号内に接合順に接合状態図を並べた場合の序列を矢印で示した。

また、( )内に取上番号、器種、接合番号、個体番号、石材分析結果（サヌカイト以外の石器は石材名）の順で注記している。

たとえば3 a区エリア1・2で出土した接合資料65に所属する石核（496）の場合、

**496 [660→663→] (Q0739+Q1297, Cr, 接65, 個2, 白峰)**

[ ]内の660→663→ 最終的な接合状態図が660で、次の段階の接合状態図として663があり、当該実測図の状態に至る

( )内のQ0739+Q1297 当該個体が取上番号Q0739とQ1297がⅡ種接合したもの

Cr 接合状態での器種が石核

接65 接合番号は65

個2 個体識別作業の結果「個体2」に分類

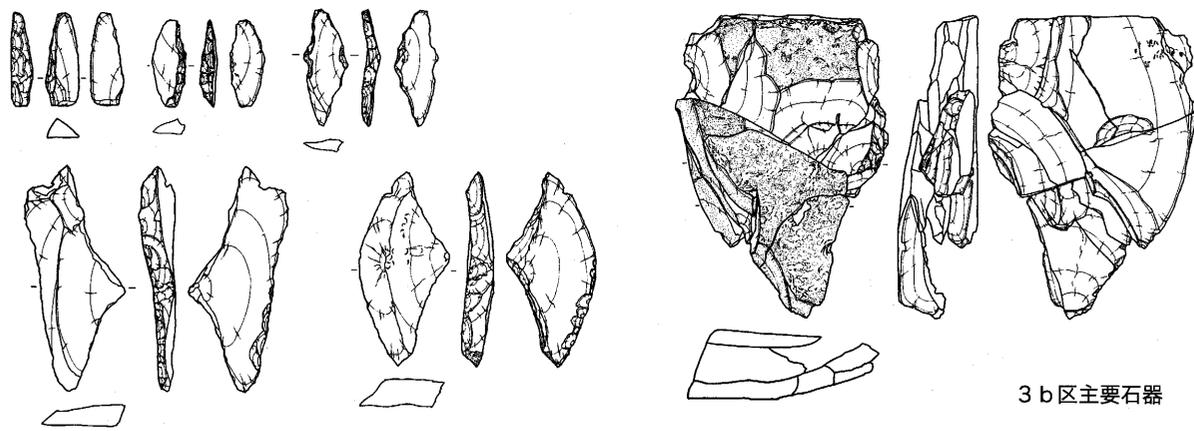
白峰 同一接合個体のいずれかを石材分析した結果「白峰群」を得た

という内容を示している。

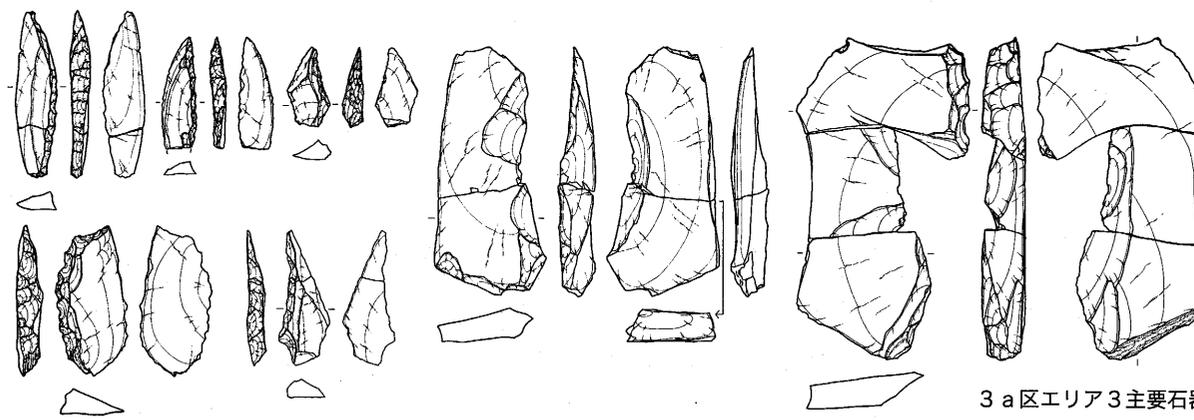
以上の作業を経た、遺跡全体の石器概要を次表にあらかじめ示しておく。

調査区	報告区分	Tr	Kn	Sc	RF	UF	Cr	Fl	Ch	RM	GS	HS	Sa	Po	合計	
3b区	ブロック1	0	1	3	3	0	22	220	26	0	0	0	0	0	275	
	ブロック2	0	3	2	2	0	4	57	6	0	0	0	0	0	74	
	ブロック3	0	0	1	3	0	3	14	5	0	0	0	0	0	26	
	外縁部	0	1	0	1	0	0	16	3	0	0	1	0	0	22	
3a区	エリア3	ブロック3A	0	26	0	11	5	20	239	404	0	0	0	0	0	705
		ブロック3B	0	15	0	5	2	5	121	108	0	0	0	0	0	256
		ブロック3C	0	8	0	1	0	3	56	42	0	0	0	0	0	110
	エリア1・2	ブロック1A	33	1	0	6	2	3	565	795	0	0	2	0	0	1,407
		ブロック1BL	19	2	0	4	1	1	164	290	0	0	2	0	0	483
		ブロック1BH	18	11	3	8	4	14	389	538	0	0	0	0	0	985
		ブロック1C	6	0	0	1	0	1	17	29	0	0	0	0	0	54
		ブロック2A	15	3	2	8	0	4	216	371	0	0	1	0	0	620
		ブロック2B	6	2	0	6	0	0	31	39	0	1	0	0	0	85
		ブロック2C	2	2	0	1	0	2	115	132	0	0	3	0	0	257
	外縁部	5	5	2	5	0	3	101	110	0	0	0	1	0	232	
3c区	ブロック1	1	1	0	5	0	3	47	82	0	0	0	0	0	139	
	ブロック2	0	1	0	2	0	2	71	401	0	0	0	1	0	478	
	ブロック3	68	14	4	55	6	23	1,180	2,461	0	0	0	0	0	3,811	
	ブロック4	1	1	0	3	0	3	34	22	0	0	0	0	0	64	
	外縁部	10	6	0	5	4	5	119	200	0	0	0	0	0	349	
5区	ブロック1	7	20	5	16	1	37	721	234	2	0	0	2	0	1,045	
	ブロック2	2	3	0	0	0	1	39	5	0	0	0	0	0	50	
	ブロック3	0	4	0	4	0	5	103	25	1	0	0	0	0	142	
	外縁部	1	2	0	3	0	4	24	6	0	0	0	1	0	41	
1b区	ブロック1	0	0	0	0	0	0	16	9	0	0	0	0	0	25	
	ブロック2	1	2	0	6	0	6	80	51	0	0	1	0	0	147	
	ブロック3~5	1	3	2	1	0	5	50	14	0	0	1	0	0	77	
	ブロック6L	4	11	3	4	0	12	205	22	0	0	0	0	0	261	
	ブロック6H	11	17	0	21	0	7	348	107	0	0	0	1	0	512	
外縁部	0	1	0	9	3	3	41	21	0	0	0	1	0	79		
総計															12,811	

第6表 報告単位別 石器総括表

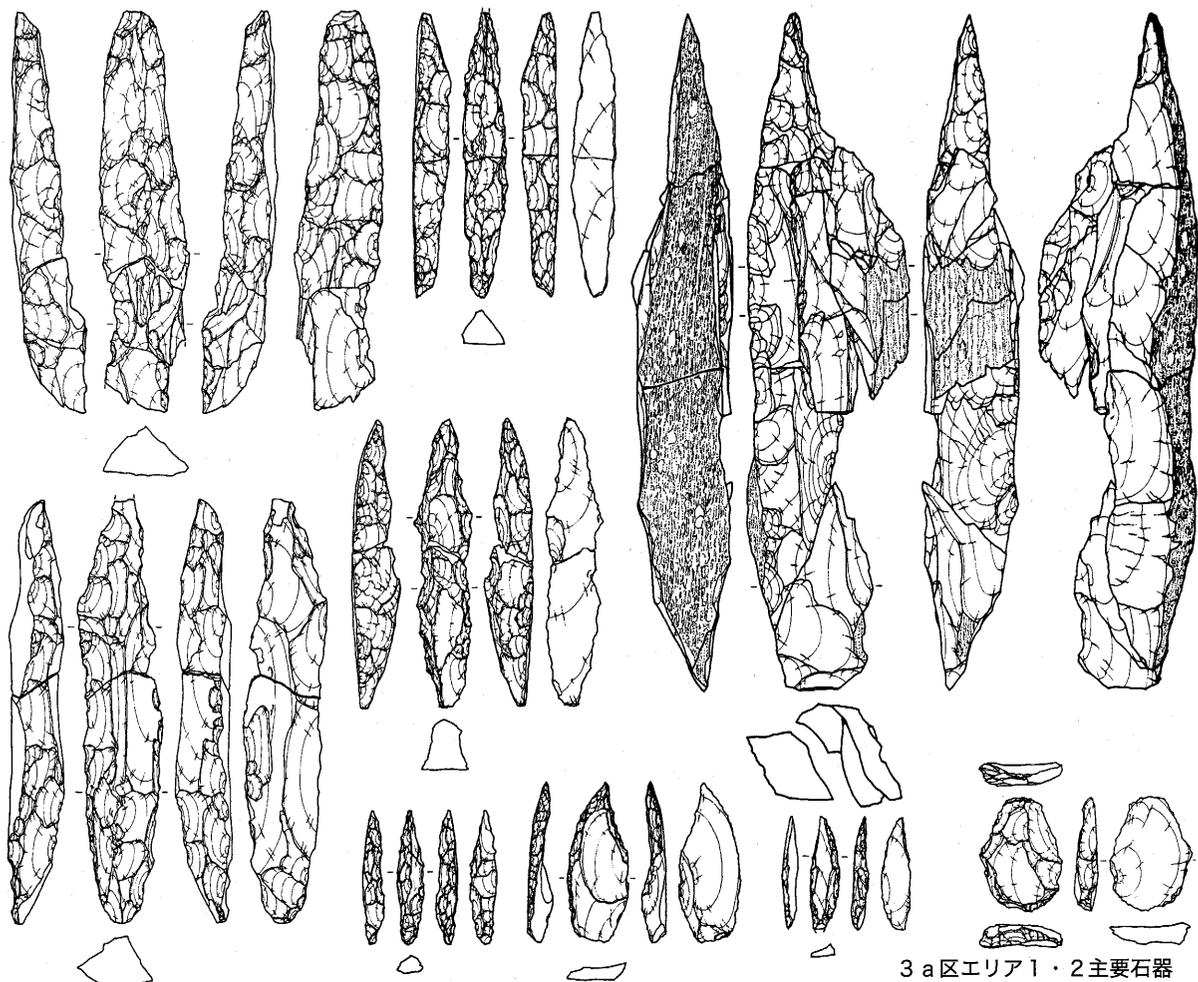


3b区主要石器

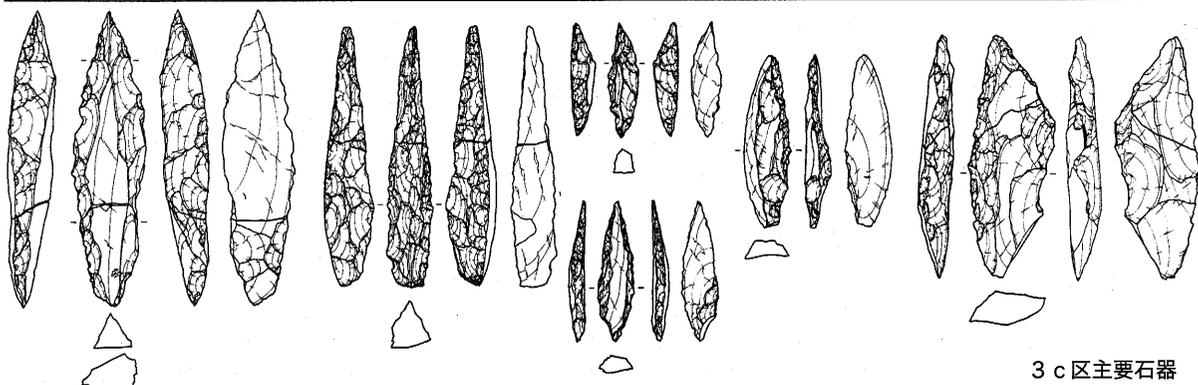


3a区エリア3主要石器

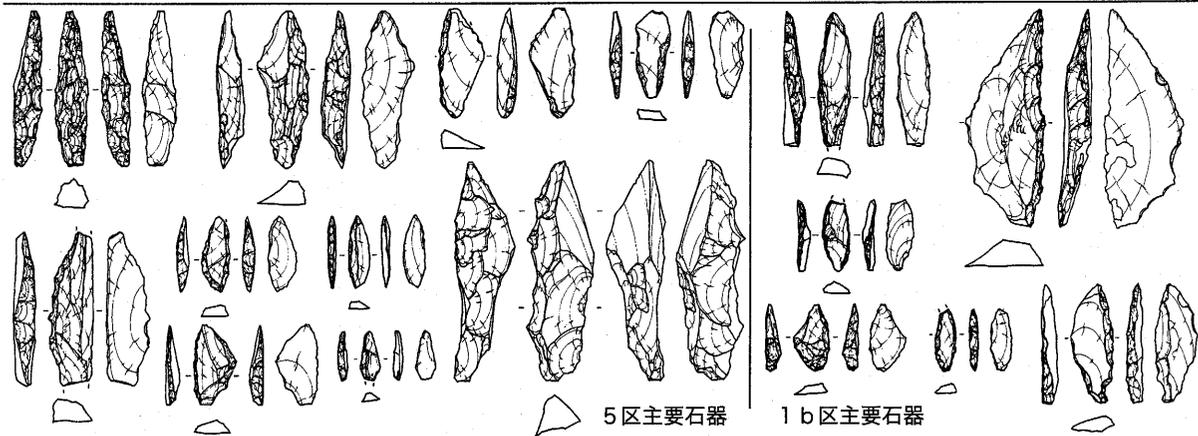
第21図 単位別主要石器概要図1



3 a区エリア1・2主要石器



3 c区主要石器



5区主要石器

1 b区主要石器

第22図 単位別主要石器概要図2

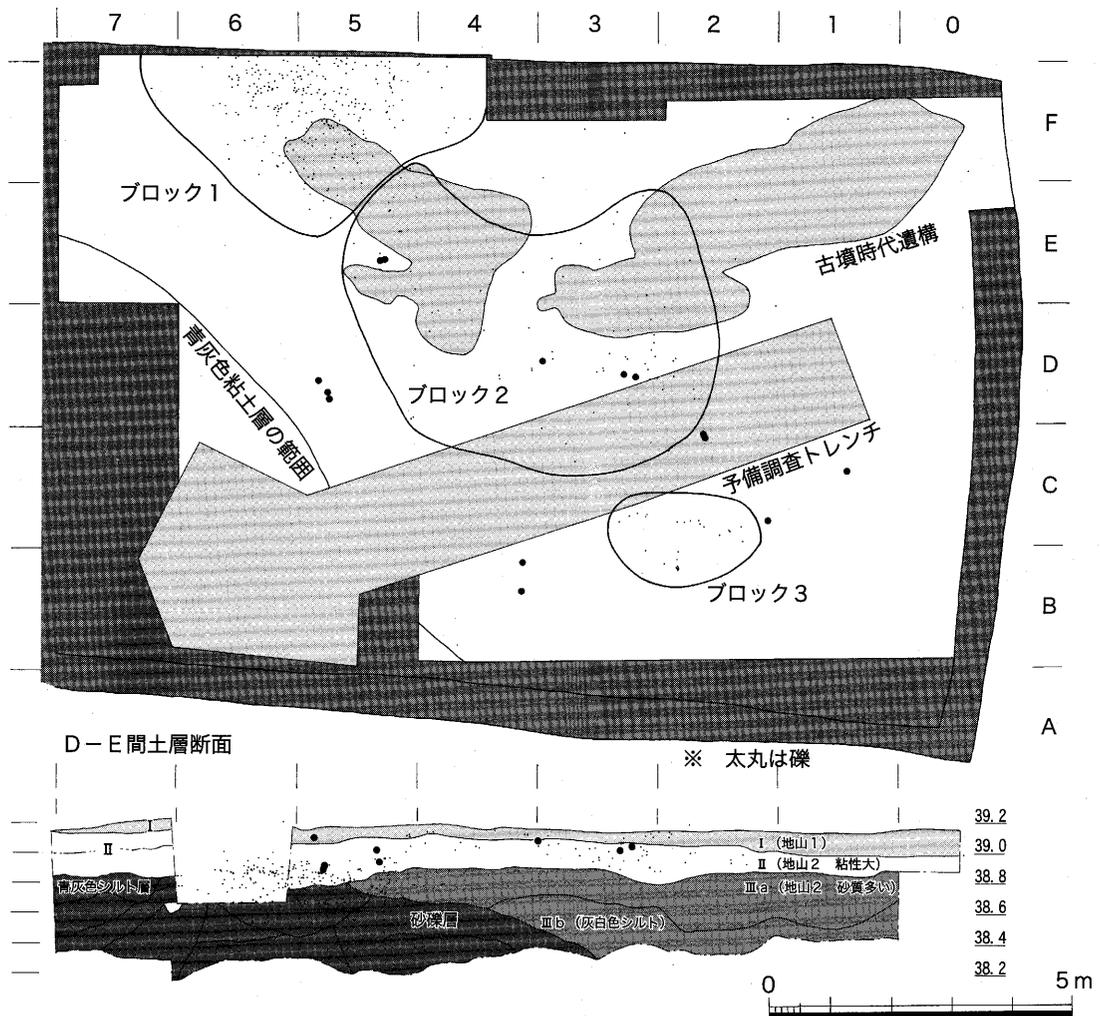
## 第4節 3b区の調査

3b区では石器397点、礫14点が出土した。石器はブロック3基に区分でき、礫は明瞭な集中部を形成しない。谷3の東岸に位置し、調査地内では最も南でかつ高い位置にある調査区である。北に3c区が隣接する。

石器はナイフ形石器を主体として、大形の翼状剥片の刃部を加工したスクレイパーなどが伴う。接合資料が21件あり、石核素材に復元可能な接合資料（接1）を含む。

### (1) 層位関係と石器分布状況

第23図に基づいて、調査区内の石器平面分布状況を概観すると、北に特に石器が集中する直径約2mの範囲があり、その南東に散漫な石器の分布が認められる。散漫分布域においても特に南東側では若干の石器の集中が見られる箇所がある。礫は主として石器分布が散漫なところで出土している。石器の接合関係を図示した第30図では、北側の石器集中部では接合距離の短い完結的な接合、散漫分布域ではやや距離のある接合が認められる。



第23図 3b区全体分布図 (S=1/125 垂直分布S=1/40)

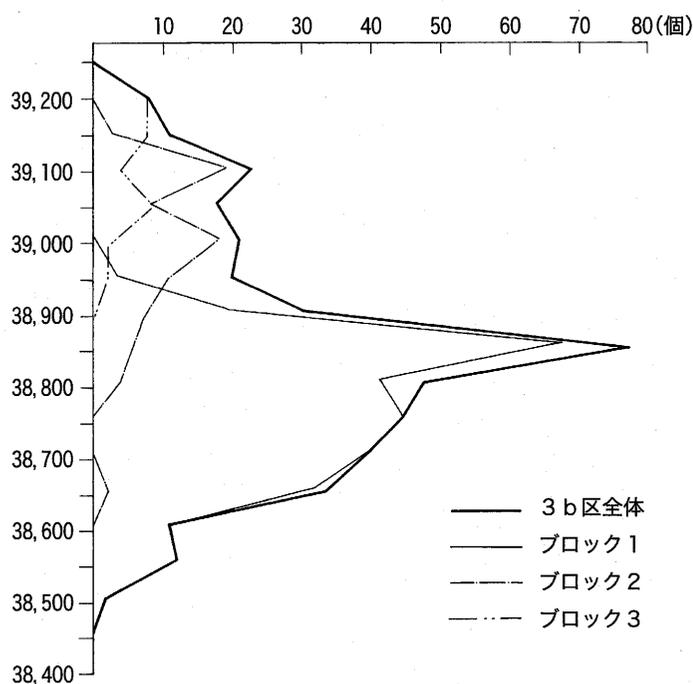
層位的にみると、調査時に地山2（Ⅱ層～Ⅲa層）とした黄色粘土中で最も多く石器が出土する。それも、より下位のⅢa層部分に最も多くの石器が分布する。上層の古墳時代以後の遺構による攪乱、あるいは予備調査トレンチも、ほとんど地山2の石器分布に影響を及ぼしていない。地山1（Ⅰ層）形成前に想定される自然削剥を除くと、石器分布は比較的良好に旧状を留めているものといえる。

調査地南西側にはグライ化した青灰色粘土～シルト層の堆積が見られた。地山2下部（Ⅲa層）の下面から落ち込んでおり、3c区やⅢa区におけるⅢb層下位の流路に対応するものと考えられる。その流路部分では石器は出土していない。

火山灰分析は当調査区では行っていないので、AT火山灰ピーク層の有無や包含層との上下関係については不明である。また、Ⅰ層からⅢa層の層序関係は他の調査区と同様に把握可能（地山2層とされていたものをⅡ層とⅢa層に区分した場合）だが、それぞれの層位が同一層位として対応するかどうかは、周辺に未調査部分が存在することから、明確な判断はできない。しかし、Ⅱ層～Ⅲa層にかけて石器分布が顕著になる傾向は3c区や3a区に共通しており、Ⅳ層を浸食する流路が概ね埋没した段階に形成された石器ブロックと考えてよいであろう。3c区で確認された流路堆積中にAT火山ガラスのピークが検出されたことからみて、それらの流路がある程度埋没した段階で形成された当調査区の各ブロックは、AT火山灰降灰後の所産とみて大きな矛盾はない。

以上の石器分布について、北側の集中部をブロック1、南東の若干の集中部をブロック3とし、その間の散漫な分布域をブロック2として、調査区内の石器分布を区分する。なお、石器出土位置を中心として、半径1m以内に他の石器が出土していないものについては、いずれのブロックにも属さない外縁部出土の石器として取り扱う。

各ブロックごとの石器出土レベルの頻度をグラフ化したものが第24図である。ブロック1からブロック3まで、地形の傾斜に応じてピークがずれるが、同一ブロックにおいてピークが分化する傾向はない。



第24図 3b区ブロック別石器垂直度数分布

層位的にみた傾向と矛盾せず、ブロック1のピークが38.5m前後、ブロック2のピークが39.0m前後、ブロック3のピークが39.10m前後となる。このピークのラインは、Ⅱ層とⅢa層の層境線が北側へ傾斜するラインに一致する。また、ブロック1の頻度分布ラインからは、ピークより下方により多くの石器が出土していることを示す。ブロック2においても同じ傾向が認められる。これは、石器の元来の層準がよりⅢa層に近い層準であることを示唆している。

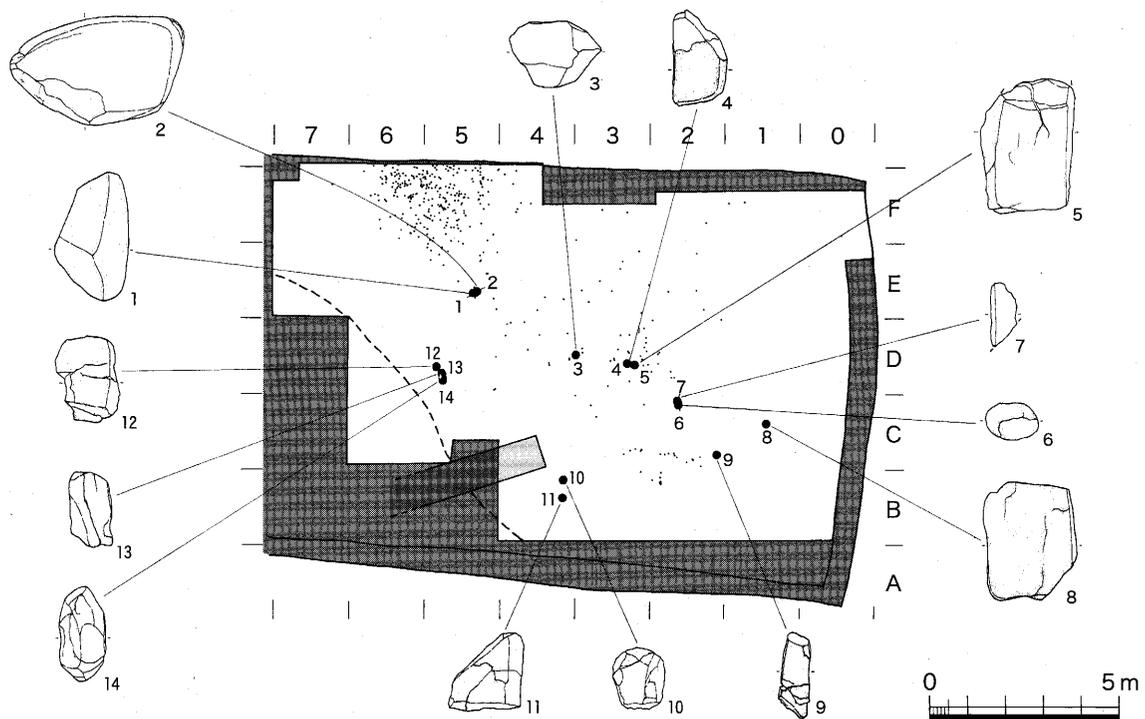
(2) 礫 (第25図～第27図・第7表)

3 b区より出土した叩石を除く礫は、合計14点を数える。これらは調査区の南東に散漫に分布する状況がみられ、特に一箇所に集中する傾向はない。石器ブロックとの関係では、ブロック2および3と一部が重複するが、ほかは石器が集中する場所とは、平面的にややずれて出土する。出土レベルは近隣の石器出土レベルと概ね同じである。

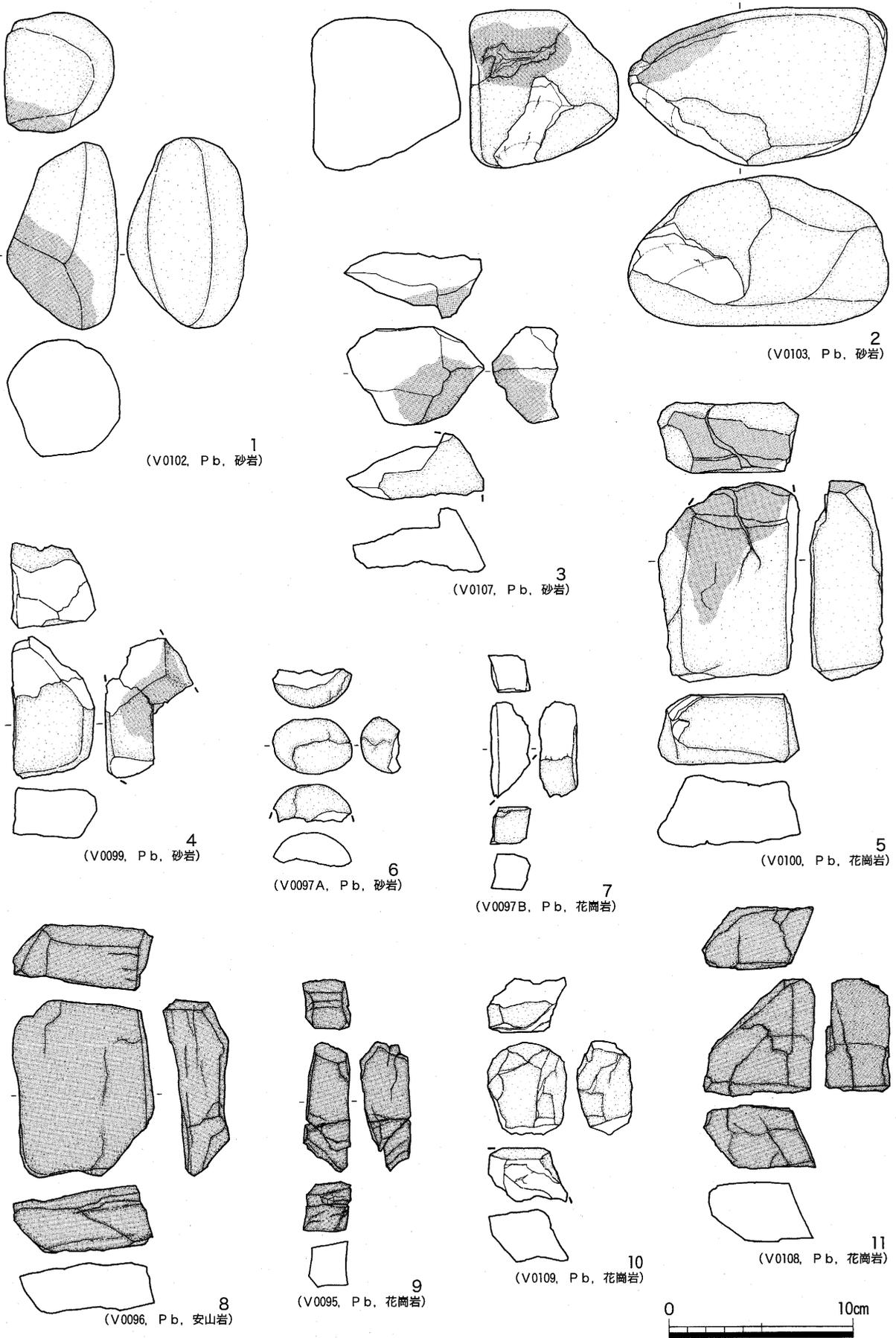
石材別にみると砂岩5点、花崗岩6点、流紋岩3点である。砂岩はいずれも円礫で、原礫面は磨滅のため平滑である。砂岩の石質を細かくみると、含有鉱物の粒径が揃わず硬い質のもの(1・2)と、粒径が陶太された質のもの(3・4・6)がある。いずれも破損面と原礫面との稜線は明瞭。赤色あるいは褐色に変色する部分を被熱痕と判断した。亀裂は少ない。花崗岩はブロック状の原礫面を留めたものが多く、稜線は比較的鋭い。しかし、表面が被熱のために脆弱なものは、破損面と原礫面との区分が困難であった。亀裂と赤化を被熱痕と判断した。亀裂は普遍的にみられるが、赤化するものは少ない。亀裂にそって分割した個体が多い。流紋岩は風化が顕著で全体的に稜線が明瞭でない。したがって原礫面と破断面の区分は困難である。石質を詳細に観察すると、細い針状の角閃石斑晶が一様に目立つ。同一産地の可能性が高く、六ツ目山山頂付近に存在する安山岩も同様の特徴を有しているが、確定的ではない。

重量は1,000 gを超えるものが1点あるほかは、すべて500 g以下で、500 g以下のものの最小23.3 g、最大476.2 g、平均重量157.1 gである。合計重量は1,000 g以上のものを含めて3,355 g、それを除いて2,042 gである。

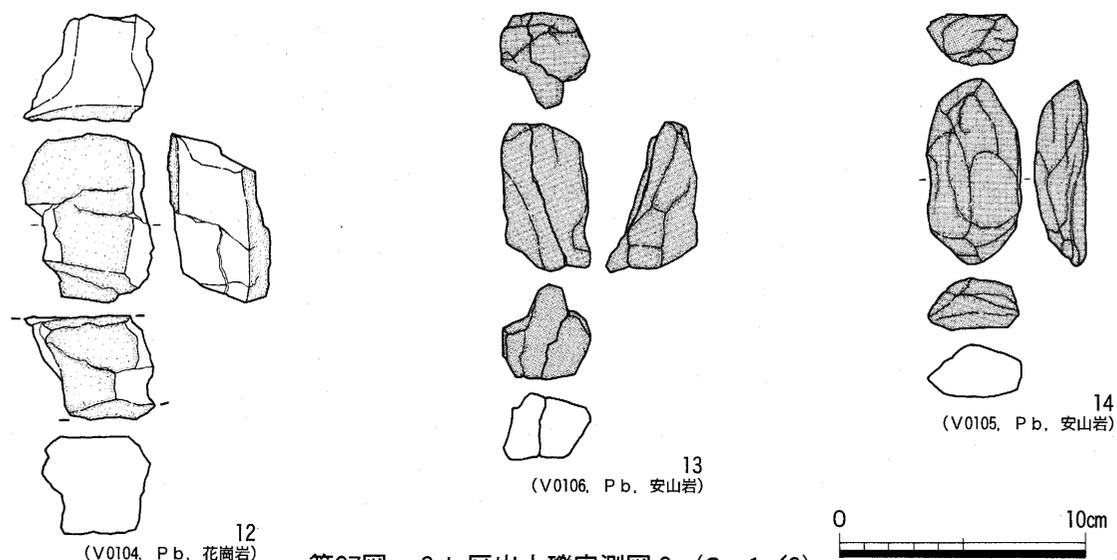
なお、これとは別に、ここで報告する礫の出土レベルから約20cm下で、拳大の花崗岩礫が一行に並ぶ状況が記録写真から読みとれる。これは基盤土壌を形成した花崗岩の未風化岩脈が一部露出したものといえる。また、遺跡背後の六ツ目山には安山岩・流紋岩・凝灰岩があり、それらの転石も基盤土壌中にまみられる。ここで報告する礫も、このような岩脈所属のものが浮き上がった可能性も全く否定できるものではないことを、付け加える。



第25図 3 b区礫分布図 (S=1/200)



第26图 3 b区出土磔实测图1 (S=1/3)



第27図 3 b 区出土礫実測図 2 (S=1/3)

番号	取上番号	長×幅×厚(cm)	重量(g)	石材	亀裂	赤化	付着物	表面摩滅	備考
1	V0102	10.0×6.5×6.3	476.2	砂岩	×	○	×	○	破断面も磨滅
2	V0103	13.9×8.5×8.1	1313.5	砂岩	×	○	×	○	下端に敲打痕?
3	V0107	5.3×7.4×3.5	108.0	砂岩	△	◎	×	○	破断面赤化
4	V0099	7.6×4.4×4.7	131.1	砂岩	○	◎	×	×	破断面赤化
5	V0100	10.7×7.6×3.8	449.1	花崗岩	◎	◎	×	×	表面脆弱
6	V0097A	3.0×4.2×2.1	23.3	砂岩	○	△	×	○	円礫
7	V0097B	5.1×2.2×2.0	27.4	花崗岩	△	×	×	×	
8	V0096	9.6×7.6×3.6	285.8	流紋岩	△	×	×	×	
9	V0095	7.0×2.6×2.7	55.9	花崗岩	◎	×	×	×	
10	V0109	5.0×4.2×2.9	69.9	花崗岩	○	×	×	×	
11	V0108	6.0×6.2×3.5	143.8	花崗岩	◎	×	×	×	
12	V0104	6.7×5.2×4.2	149.4	花崗岩	◎	×	×	×	表面脆弱
13	V0106	6.0×3.6×3.8	65.5	流紋岩	◎	×	×	○	亀裂で分割
14	V0105	7.4×3.8×2.1	62.9	流紋岩	○	×	×	○	

第7表 3 b 区礫属性表

以下、個別の観察結果を記す。1・2は硬質の砂岩で長楕円形を呈す。いずれも表面が磨滅して原礫面を留めているものと考えられる。図の網掛け部は褐色に変色した被熱箇所、ほかの砂岩の被熱による赤化とは色調が異なる。2の長軸端部に敲打痕らしきものがあり、側縁に一部剥離痕がみられる。しかし敲打痕が明瞭ではないこと、重量が大きいことからここでは叩石には認定していない。両者は石器ブロック1の南縁で隣接して出土している。

3・4・5は石器ブロック2と重複して出土した礫である。3・4は砂岩で、破損面が多く原礫面を僅かに残すのみ。原礫面と破損面の一部に顕著な赤化がある。また、若干の亀裂があり、亀裂に沿って破損する箇所がある。5は花崗岩で板状を呈す。全体的に表面が荒れて脆弱である。色調は薄い全面にわたって赤化があり、また顕著な亀裂もある。

6・7は石器ブロック2・3間で隣接して出土した礫である。6は長径4.5cmほどの卵形に磨滅した砂岩礫で、表面に亀裂が見える。7は板状の花崗岩礫が破損した破片で、亀裂に沿って破断している。いずれも赤化は明瞭でない。

8・9は石器ブロック3と重複し1.6mの間隔を隔てて出土した礫である。8は板状の流紋岩礫で、表面に顕著な亀裂がある。9は花崗岩の方柱状の礫である。原礫面を一部残すが、他の面は亀裂に沿った

破損面である。さらに顕著な亀裂が器面に残る。

10・11は石器ブロック3から西に2 mほど離れた位置で出土した花崗岩礫である。いずれも亀裂が顕著で亀裂にそって破損する。赤化はみられない。

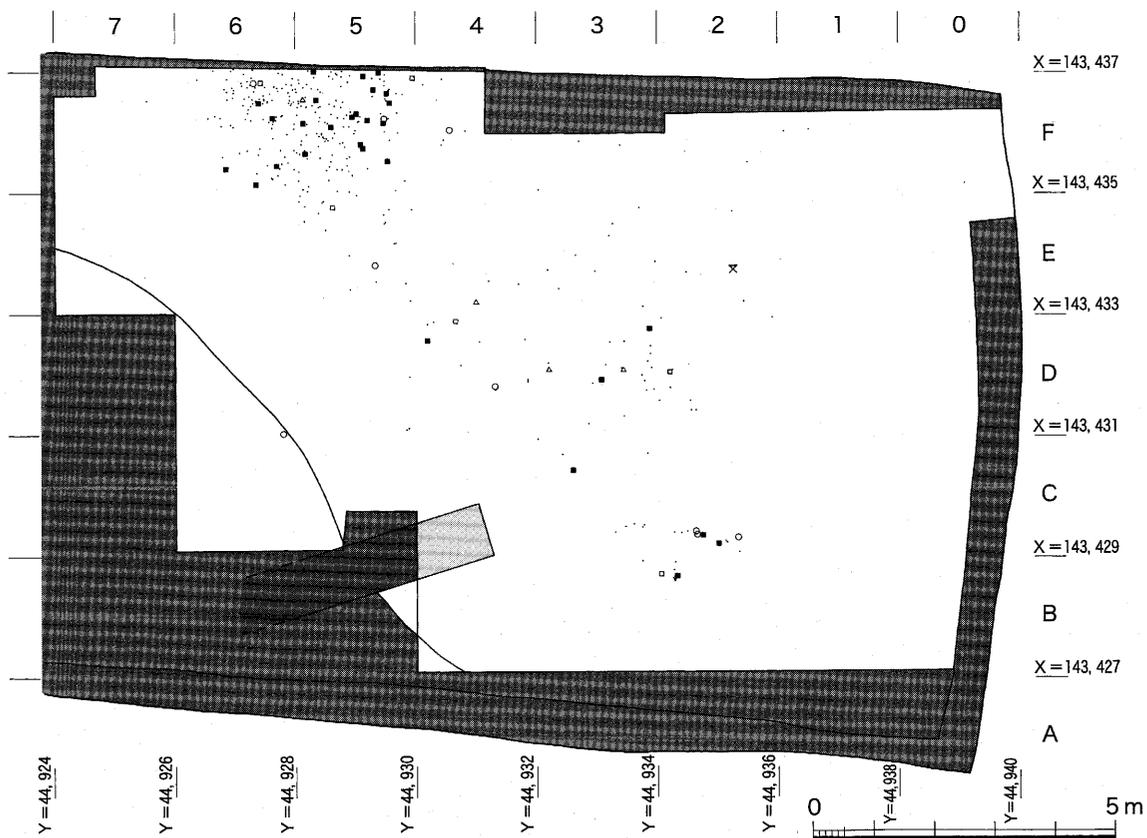
12～14は調査区西側谷筋沿いで出土した礫である。12は亀裂が顕著な花崗岩。赤化はないが、表面が風化し脆弱となる。13・14は流紋岩の小形の礫で、いずれも亀裂が顕著。13は亀裂部分で2片に破損する。ただし接合面は表面ほど風化が進まず、埋没後に亀裂に沿って破損したものと考えられる。

### (3) 器種別・石材別石器分布

石器は3 b区全体で合計397点が出土した。器種の内訳はナイフ形石器8点、スクレイパー5点、加工痕有剥片10点、石核28点、剥片305点、碎片40点、叩石1点である。石材は大部分がサヌカイトだが、チャートの加工痕有剥片1点、使用痕有剥片1点、石核1点を含む。

ブロック別の組成を第8表に示した。ブロック1には石核・剥片・碎片が多く、ブロック2・3ではナイフ形石器・スクレイパーの比率が高い。重量別にみると、ブロック2・3の平均重量がブロック1の平均重量を大きく上回っている。

サヌカイトの石材は大きく分けて、普通サヌカイトと白色風化サヌカイトに区分できる。3 b区では比較的単純に両者を区分することができた。他の調査区ではその中間的なものや、いずれにも属さないものなど多彩であるが、ここでは普通サヌカイトをAn-A、白色風化サヌカイトをAn-Cとして記述する。



第28図 3 b区 器種別石器分布図 (S=1/125)

3 b区ブロック別器種組成

ブロック\器種	Kn	Tr	Sc	RF	UF	Cr	Fl	Ch	RM	GS	HS	Sa	Po	合計
ブロック1	1	0	3	3	0	22	220	26	0	0	0	0	0	275
ブロック2	3	0	2	2	0	4	57	6	0	0	0	0	0	74
ブロック3	0	0	1	3	0	3	14	5	0	0	0	0	0	26
外縁部	1	0	0	1	0	0	16	3	0	0	1	0	0	22
合計	5	0	6	9	0	29	307	40	0	0	1	0	0	397

3 b区ブロック別器種組成比

ブロック\器種	Kn	Tr	Sc	RF	UF	Cr	Fl	Ch	RM	GS	HS	Sa	Po	合計(%)
ブロック1	0.4		1.1	1.1		8	80.1	9.5						100
ブロック2	4.1		2.7	2.7		5.4	77.1	8.1						100
ブロック3			3.8	11.5		11.5	53.8	19.2						100
外縁部	4.5			4.5			72.7	13.6			4.5			100
合計	1.3		1.5	2.3		7.3	77.3	10.1			0.3			100

3 b区ブロック別器種重量組成

ブロック\器種	Kn	Tr	Sc	RF	UF	Cr	Fl	Ch	RM	GS	HS	Sa	Po	合計
ブロック1	3.4		67.1	60.3		981.2	979.8	4.3						2,096.1
ブロック2	6.9		36.6	12.8		165.1	209.8	0.7						431.9
ブロック3			41.8	119.3		148	102.9	0.8						412.8
外縁部	23.3			6.4			177.5	0.4			68.4			276
合計	33.6		145.5	198.8		1,294.3	1470	6.2			68.4			3,216.8

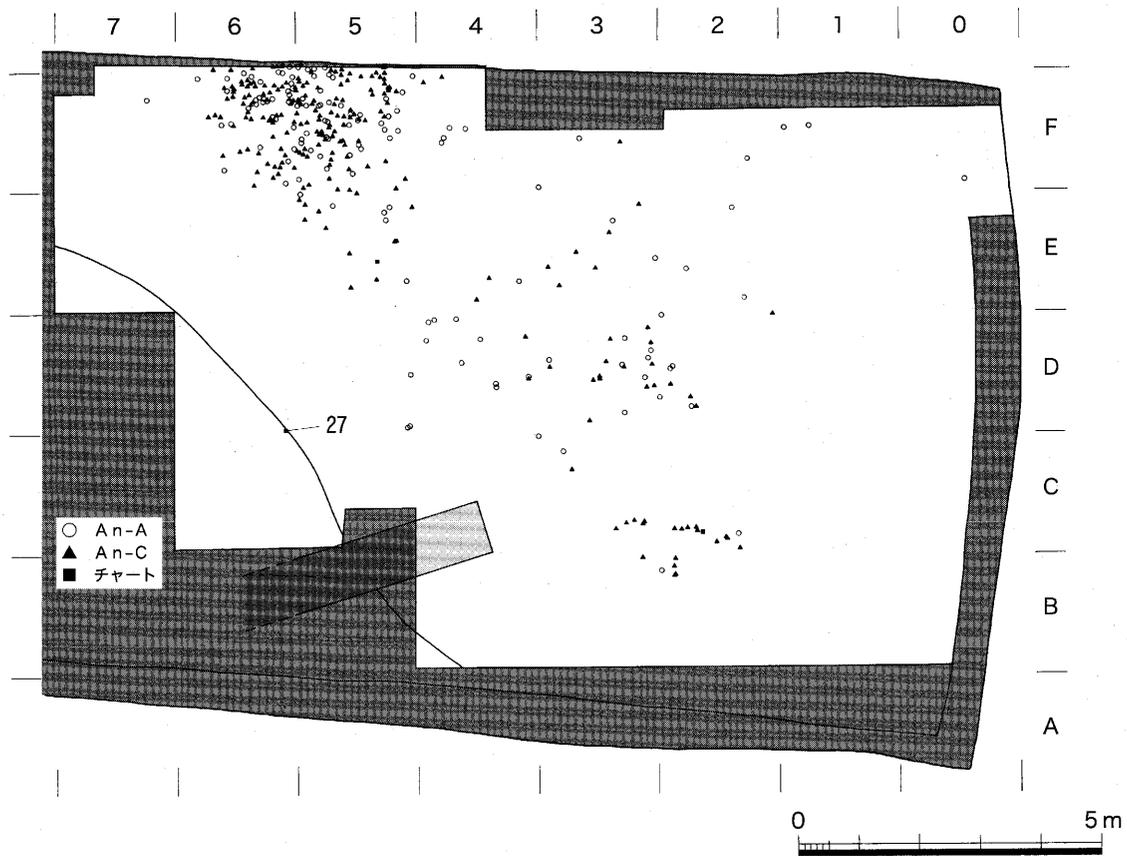
3 b区ブロック別器種重量組成比

ブロック\器種	Kn	Tr	Sc	RF	UF	Cr	Fl	Ch	RM	GS	HS	Sa	Po	合計(%)
ブロック1	0.2		3.2	2.9		46.8	46.7	0.2						100
ブロック2	1.6		8.5	3		38.2	48.6	0.2						100
ブロック3			10.1	28.9		35.9	24.9	0.2						100
外縁部	8.4			2.3			64.3	0.1			24.8			100
合計	1		4.5	6.2		40.2	45.6	0.2			2.1			100

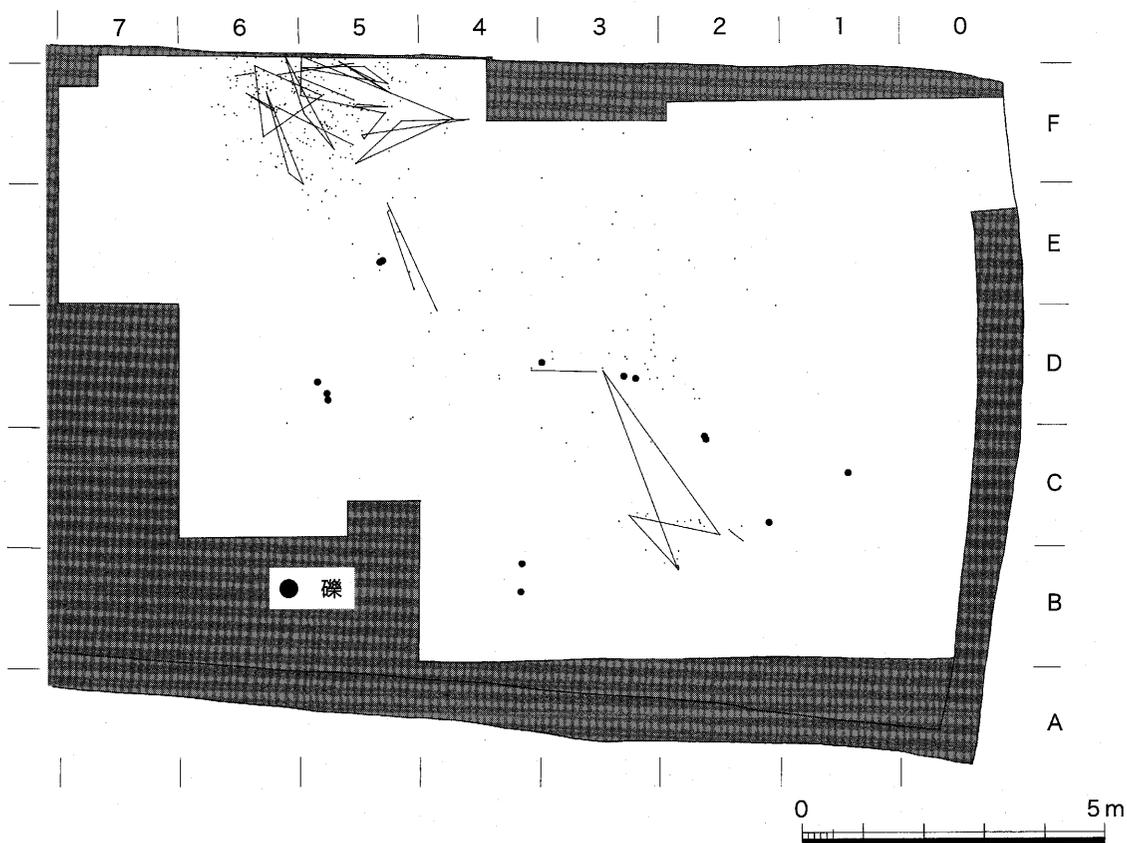
3 b区ブロック別分布属性

ブロック\項目	面積 (㎡)	石器数	分布密度 (個/㎡)	定形石器保有率	石核保有率	接合個体数	接合率	接合重量 (g)	接合重量比
ブロック1	11	275	25.0	10.5%	8.0%	38	13.8%	1,055.8	50.4%
ブロック2	23	74	3.2	14.9%	5.4%	7	9.5%	69.3	16.0%
ブロック3	3	26	8.7	26.9%	11.5%	7	26.9%	322.2	78.1%

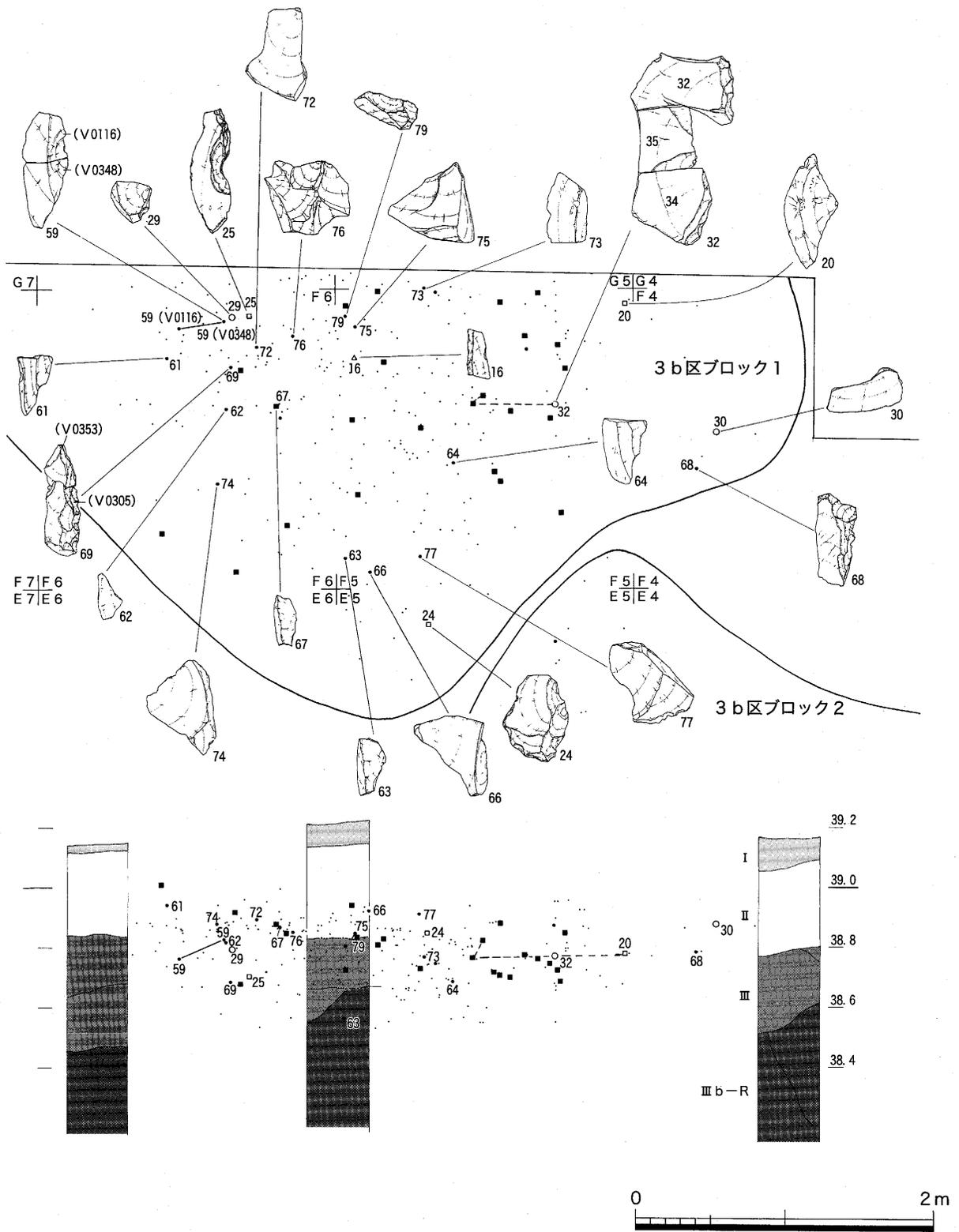
第8表 3 b区数量総括表



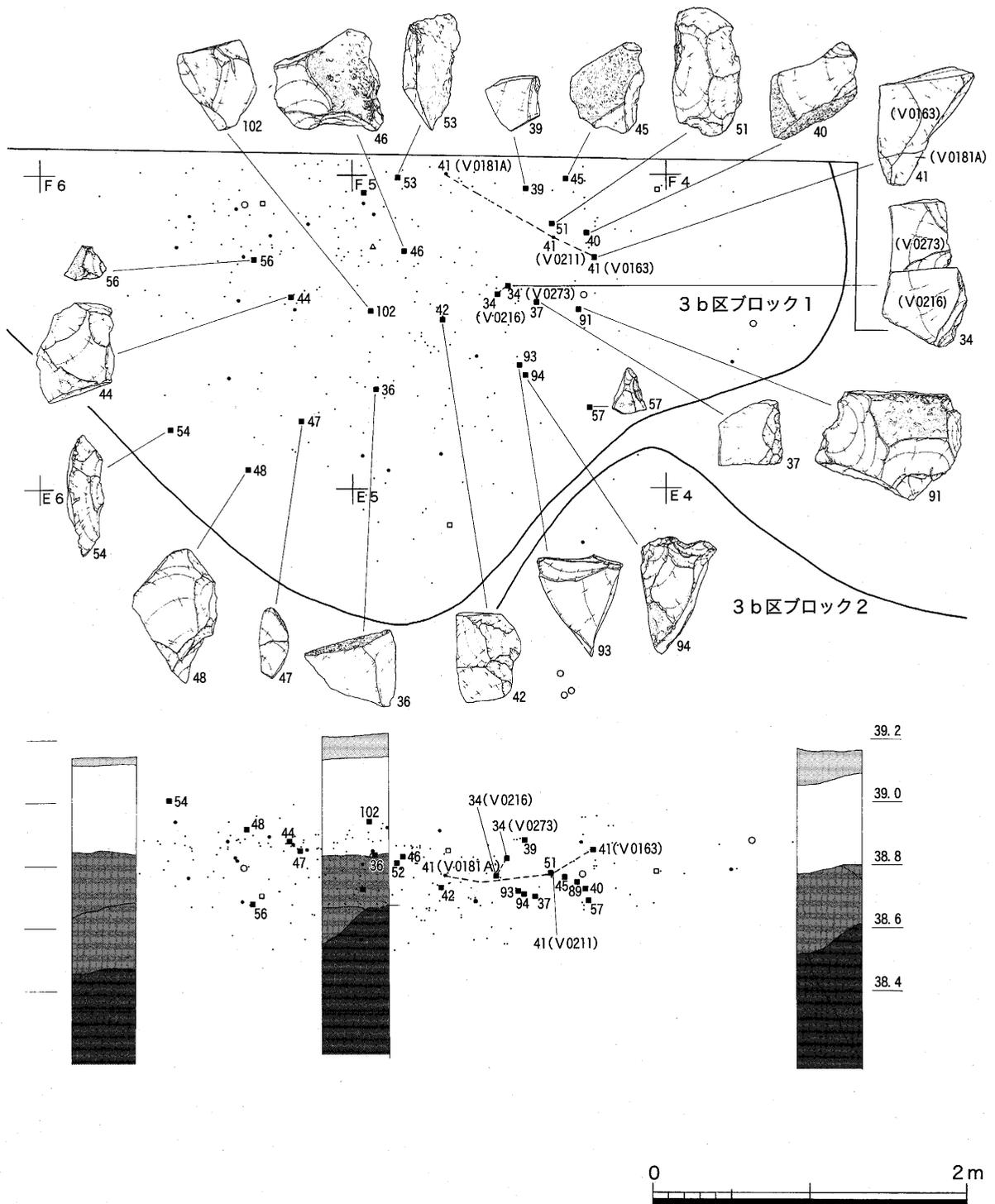
第29図 3b区 石材別石器分布図 (S=1/125)



第30図 3b区接合資料分布図 (S=1/125)

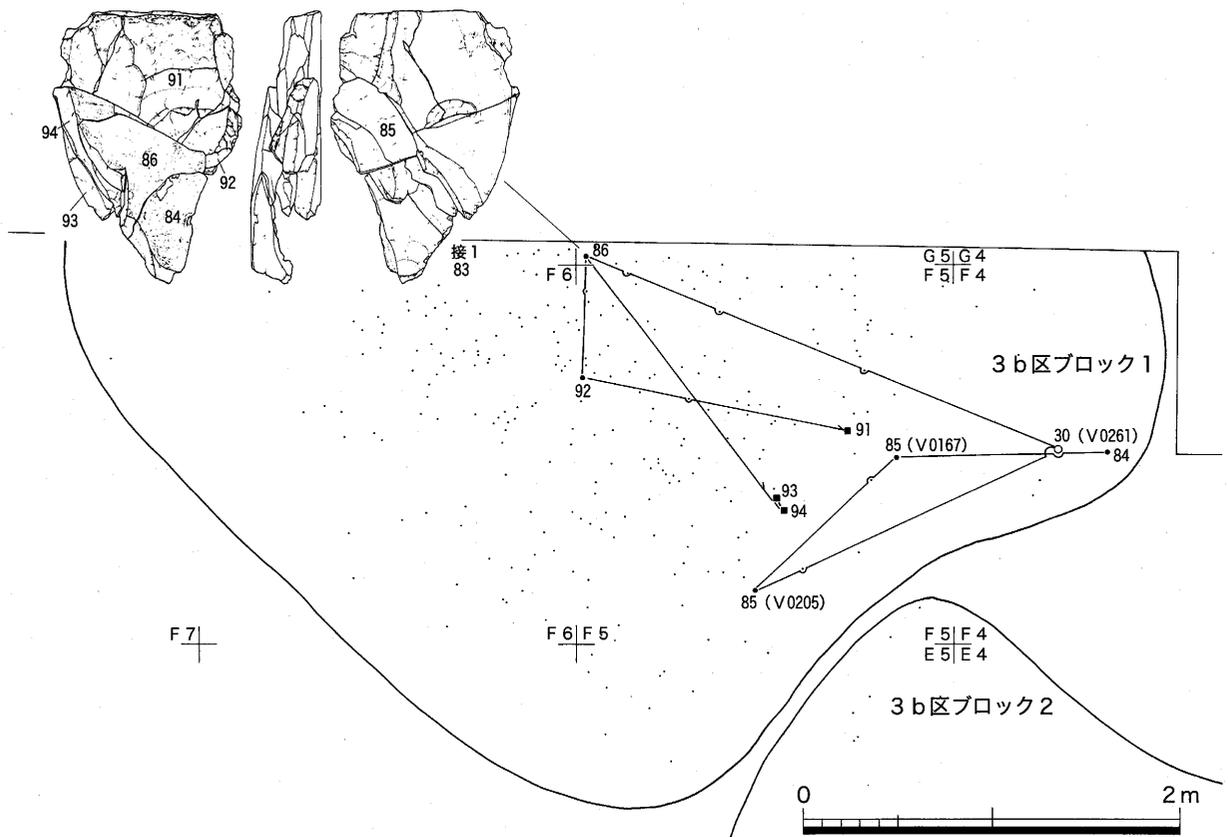


第31図 3b区ブロック1 器種別石器分布図1 Kn・Sc・RF・Fl (S=1/40 垂直分布S=1/20)

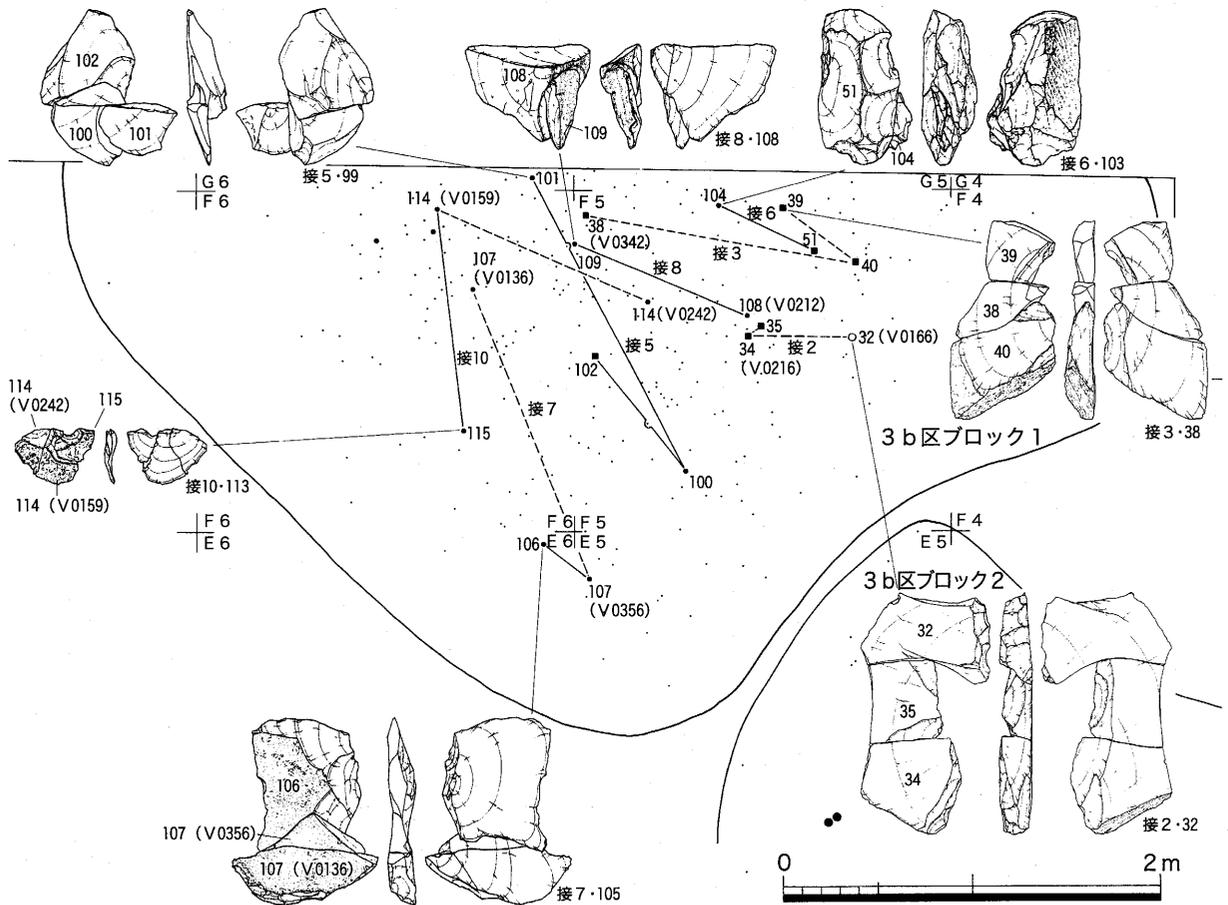


第32図 3 b区ブロック1 器種別石器分布図2 Cr (S=1/40 垂直分布S=1/20)

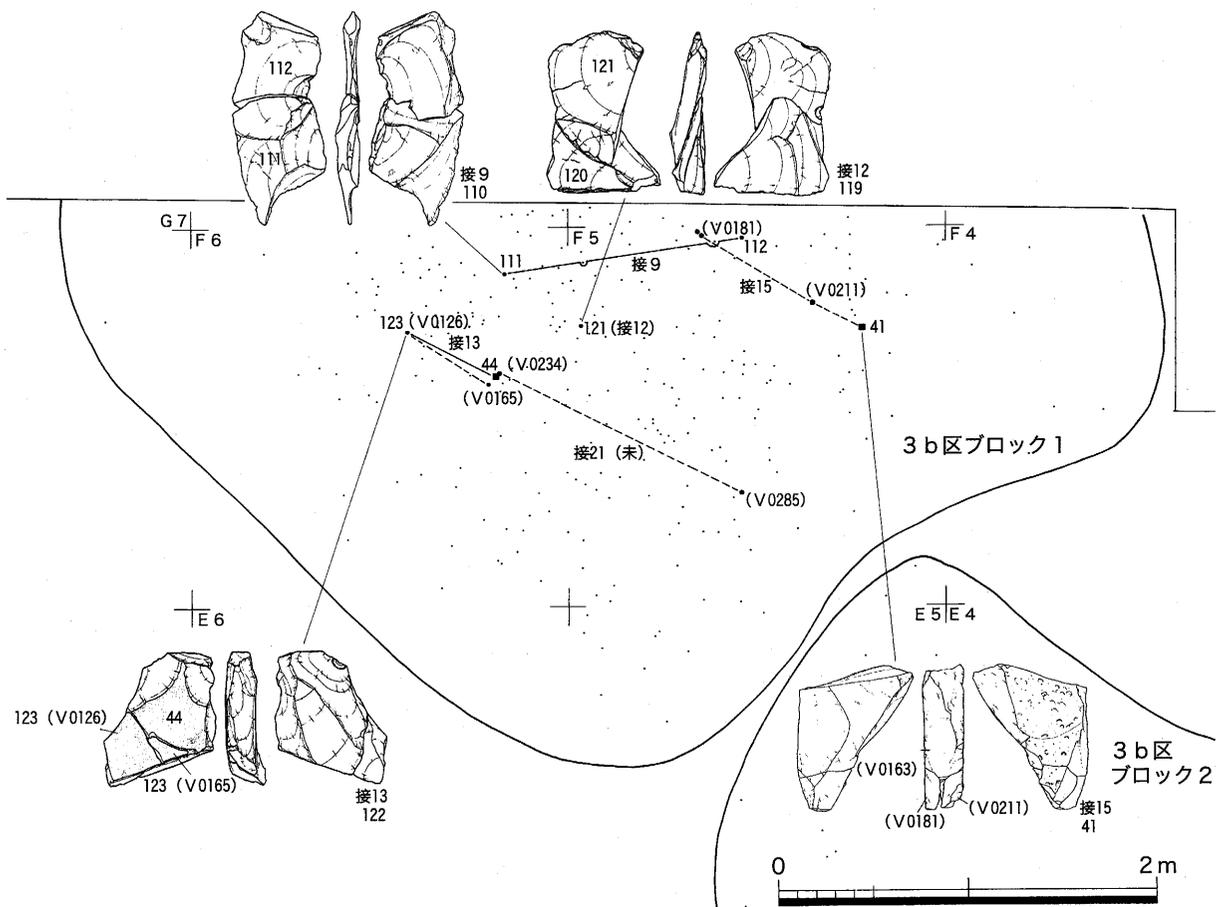
ブロック1には両者が伯仲，ブロック2は普通サヌカイト（An-A）がやや多く，ブロック3には白色風化サヌカイト（An-C）が多い。チャートはブロック外，ブロック2・3でそれぞれ1点ずつ出土する。



第33図 3 b区接合資料分布図1 接1 (S=1/40)



第34図 3 b区接合資料分布図2 接2・3・5~8・10・16・18 (S=1/40)



第35図 3b区接合資料分布図3 接9・13・15・21 (S=1/40)

#### (4) ブロック別石器分布と接合資料分布

第8表にブロック別分布属性をまとめている。1㎡あたりの出土石器数を分布密度として計算すると、ブロック1が25点と最も高く、ブロック2・3は3～9点とやや散漫な分布傾向を示す。定形石器の保有率は、一転してブロック3が高く、ブロック1は10%と少ない。これも、Ⅱ種接合する個体を重複カウントしているため、それを1個体としてカウントすると、その差はさらに大きくなる。

接合率はブロック3が最も高く26.9%である。ブロック3出土石器の総重量の約78.1%が接合に関わる。これはブロック3で出土する接4, 接11, 接14がいずれも大形の石核かあるいはRFであることに起因するが、剥片類の出土が少ないことから、ブロック3における頻繁な剥片剥離を反映しているかどうか疑問が残る。なお、接4は別の分割個体に所属する接合石核(43)がブロック2に分布しており、両者の関連性が窺える。

また、ブロック2, ブロック3では遺跡内で剥離されたとは考えられない大形の翼状剥片2点や、同様に「持ち込み」と考えられる二上山サヌカイト石材の加工痕有剥片, チャート製の定形石器が分布する。



(5) 主要石器

ナイフ形石器 (第1図 15~19)

一側縁加工が4点 (15~18), 二側縁加工が1点 (19) ある。

一側縁加工の15~17はいずれも整形加工が石核底面部まで及び、断面が三角形の形状を呈す。このうち15は表面側からも整形加工を施しており、「対向調整」の整形形態を備える。ただし、表面側からの加工は2~3回の微細なものである。16・18は、整形加工途上に折損したもの。15・17は上下端が遺存しており、長さ35.0~40.0mm サイズのやや小振りな個体である。16はブロック1の中央部で出土するが、そのほかはブロック2にまとまる。

二側縁加工の19は現存長69.0mm で先端と下半部1/3ほどが折損する。長さ100.0mm 以上の大形の横長剥片を素材とし、打面部を粗く整形加工し除去する。裏面には刃縁側から6回の平坦な加工を連続的に施し、刃部の補正を行う。原位置を遊離した状態 (記録等の所見から予備調査トレンチの可能性が高い) で出土しており、各ブロックとの共伴関係は定かでない。

番号	実	分	写	取上番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状態	断面形	石材	整形	ブロック	グリッド	個体・接合	備考
15	37	36	14	V0042	34.2×13.5×6.8	2.3	完形	△	An-C	1-W	2	D3		
16	37	31	14	V0228	32.5×16.7×8.6	3.4	半欠	△	An-A	1-S	1	F5		
17	37	36	14	V0077	37.0×13.0×8.5	4.1	基部欠	△	An-C	1-S	2	E4		
18	37	36		V0054	16.0×10.0×5.7	0.5	小片	△	An-C	1-S	2	D3		
19	37		14	V0370	69.0×25.5×13.0	23.3	半欠	□	An-A	2-S	不明			予備調トレンチか?

第9表 3b区 ナイフ形石器 属性表

スクレイパー (第1図 20~24・第2図 25)

5点のサイド・スクレイパーと1点のノッチド・スクレイパーがある。

前者のうち3点 (20~22) は大形の翼状剥片を素材とする。剥片の末端の約半分に背面側から6~10回の奥行3.0~6.0mm の軽微な打撃を行い、直線的な刃部を作出する。石材はいずれもAn-Aである。素材の翼状剥片はいずれも打面部に細かな打面調整による山形整形が認められ、背面には剥離軸の等しい先行剥離面もしくは石核打面部、さらにポジティブな石核底面が認められる。典型的な「瀬戸内技法」による剥片である。22は石材分析で国分寺群に判定されたサヌカイト石材である。出土位置は3つの各ブロックに分散する。

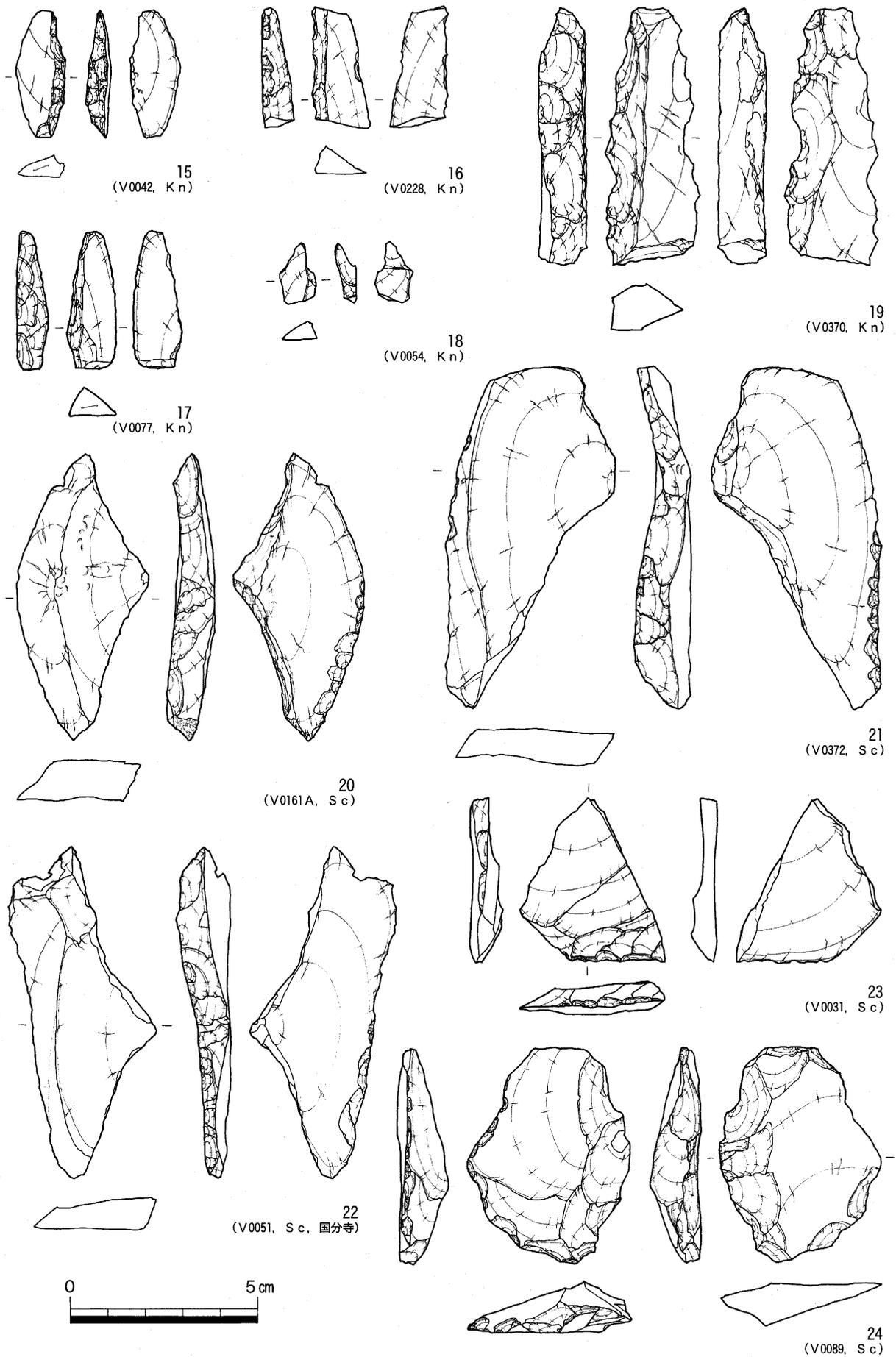
23は不定形な横長剥片の周縁部に主要剥離面側から軽微な加工を施し刃部を作出する。ブロック2出土。24も同様に不定形な横長剥片の周縁に加工を施すが、右側縁部には表裏に幅20.0mm 以上のやや大きな剥離を施し、素材の打瘤を除去する。一方で左側縁には使用痕とも見える微細剥離が観察できる。

25のノッチド・スクレイパーは、ヒンジフラクチャーを生じた剥片の打瘤部分を中心にノッチ状に加工したもので、加工部位と反対の剥片末端部には微細剥離痕が認められる。24・25はブロック1出土。

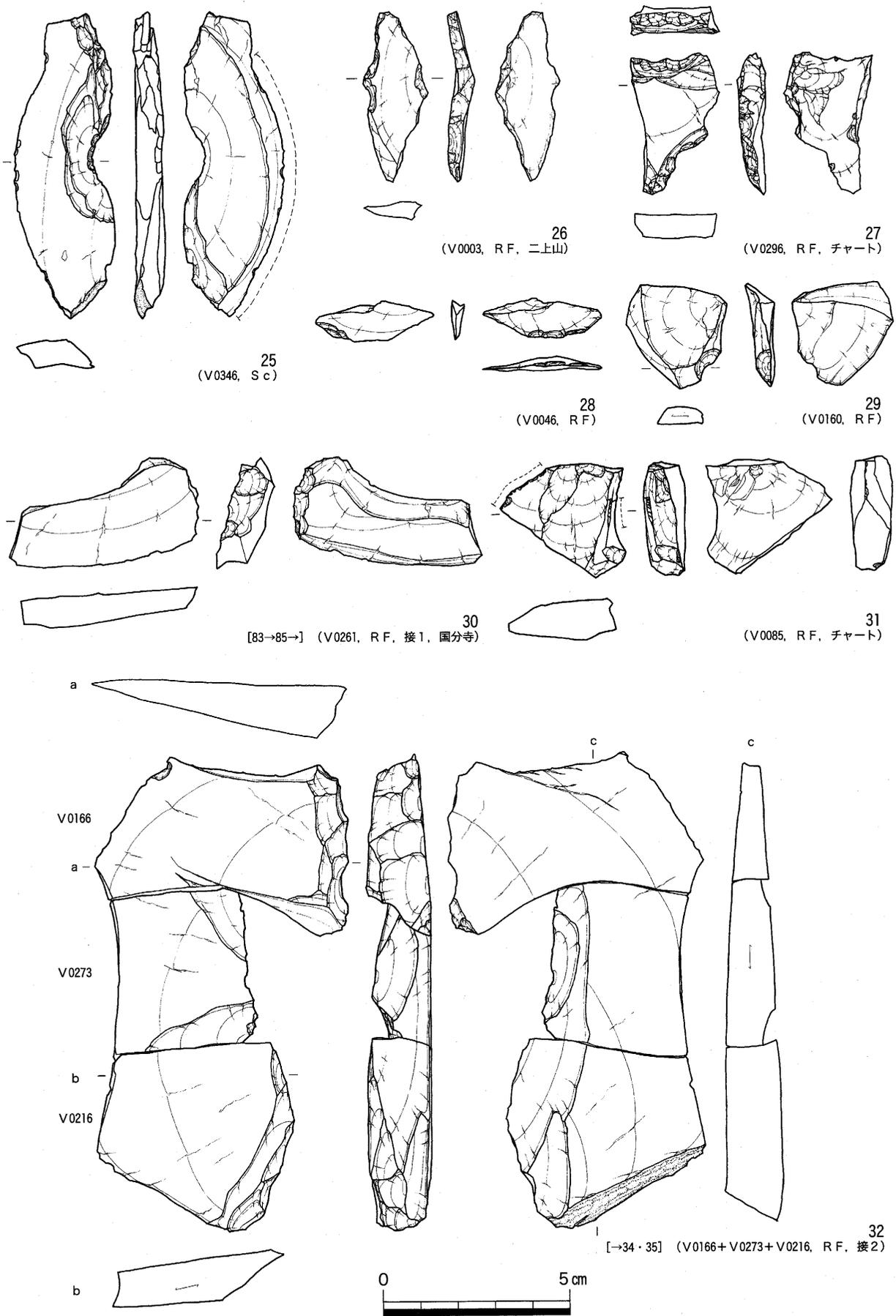
番号	実	分	写	取上番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状態	石材	打面	側縁	末端	ブロック	グリッド	個体・接合	備考
20	37	31	14	V0161A	35.5×77.0×13.0	23.7	完形	An-A	×	×	○	1	F5		
21	37	36	14	V0372	45.5×92.4×14.5	41.8	完形	An-A	×	×	○	3	B2		
22	37	36	14	V0051	39.8×89.0×14.8	24.7	完形	An-A	×	×	○	2	D4		国分寺
23	37	36		V0031	44.4×39.0×9.0	11.9	半欠	An-A	×	○	○	2	D2		
24	37	31	14	V0089	58.0×43.8×13.8	25.6	完形	An-A	○	○	○	1	E5		微細剥離痕
25	38	31	14	V0346	27.2×83.0×8.2	17.8	完形	An-A	○	×	△	1	F6		微細剥離痕

(凡例: ○刃部加工 ○整形加工 ×未加工)

第10表 3b区 スクレイパー 属性表



第37图 3 b区 出土石器实测图1 Kn·Sc (S=2/3)



第38図 3 b 区 出土石器実測図 2 Sc・RF (S=2/3)

### 加工痕有剥片 (第38図 26~32, 第39図 33)

7点ある。うち2点(27・31)がチャート石材, 1点(26)が二上山産サヌカイト石材である。

26は小形の翼状剥片の末端に主要剥離面側から5面の二次加工を施す。石材がきめ細かく石理が不明瞭。石材分析の結果, 二上山産であることが判明した。ブロック3出土。27は山形に打面を作出した後に剥離されたチャート石材の剥片を素材とする。打面部および側縁部に主要剥離面側から二次加工を施す。打面部に微細剥離痕が認められるが, 素材剥片剥離との先後関係は不明。素材剥片末端部の折損は二次加工に先行する。石材の色調は濃褐色を呈し, 一部に黒色の縞が入る。節理は顕著でない。外縁部で出土したものである。

28は平坦な打面から剥離された小形の横長剥片を素材とする。背面側から打撃した3面の二次加工を認める。ブロック2出土。29は折損した不定形剥片の主要剥離面側から打撃した1回の二次加工を認める。30は接合資料1に所属する剥片で, 翼状剥片の末端部に相当する(第46図参照)。素材の打面部を背面側から急角度で加工する。29・30はブロック1出土。31はチャート石材の不定形剥片を素材とする。打面は先行する3面の剥離面と共有して, 平坦な剥離面に設定される。右側縁部中央には, 主要剥離面側からの切断状の強い打撃が認められ, その上下にやや細かい二次加工が施される。切断状の打撃により生じた蝶番剥離のネガ面末端部には微細剥離痕が認められる。また, 剥片の左側縁にも同様に微細剥離痕が連続してみられる。石材の色調は濃茶色を呈し, 黄褐色の変色部が不規則に入る。節理がやや強い。ブロック2において礫2点に近接して出土。

33は平滑化した自然面で背面を覆われた肉厚な縦長剥片を素材とする。打面部および打面に接する側縁部に二次加工を施す。主要剥離面側からの打撃による折損片が接合する(接合資料14)。ブロック3に分布する。石材は国分寺群のサヌカイト。

32は石核34および35と接合する(接合資料2)ことにより, 厚さ17.0mmの大形板状剥片の打面部側に粗い二次加工を施したものであることが判明する。二次加工は底面側から約10.0mm間隔で規則的に施される。ただし, それに先立つ上面からの剥離面も僅かながら認められる。したがって, 二次加工の意味合いは, 作業面補正等の石核整形の可能性もある。3個体ともブロック1内で収束する。

番号	実	分	写	取上番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状態	石材	打面	側縁	末端	ブロック	グリッド	個体・接合	備考
26	38	36	14	V0003	17.3×46.0×7.2	3.4	完形	An-A	×	×	○	3	C2		二上山
27	38	29	14	V0296	24.0×38.0×7.5	6.4	未欠	チャート	○	○	-	OUT	D6		微細剥離痕
28	38	36		V0046	10.8×31.8×3.4	0.8	完形	An-A	×	×	○	2	D4		
29	38	31		V0160	27.2×28.2×7.8	5.3	欠損	An-C	×	○	×	1	F6		
30	38	31		V0261	30.0×51.0×16.0	16.5	完形	An-A	×	○	×	1	F4	接1	国分寺
31	38	36	14	V0085	30.7×34.0×11.5	12.0	欠損	チャート	×	○	×	2	E5		微細剥離痕
32	38	31	15	V0166+ V0273+ V0216	128.5×68.7×17.0	122.2	折損	An-C	○	×	×	1	F5	接2	石核整形か
33	39	36	15	V0008+ V0009	80.0×56.4×25.0	115.9	未欠	An-C	○	○	×	3	C2	接14	国分寺

第11表 3b区 加工痕有剥片 属性表

### 石核 (第1図 34~第5図 57, 第9図 88, 第10図 90・93・94, 第11図 98, 第12図 102)

3b区出土の石核は, サヌカイトがもつ強い石理に沿って剥がされた, やや薄手で大形の板状剥片を素材とするもの(A類), 厚みのある石核が消耗して残核が棒状を呈するもの(B類), 剥片を石核に転用して少数の小形の剥片を剥取するもの(H類), 不定形な石片を素材として打面転移を繰り返すことにより残核がサイコロ状かあるいは両面石器状となるもの(F類)がある。これらは残核から推定される

石核の素材形状に基づいた分類である。残核に至る過程で、石核の素材は欠損や分割等によってその形状が変化する。当調査区の石核は、折損後も剥片剥離を続けるものが目立つ。接合によって折損前の石核形状が復元でき、かつ石核形状に変化が見られるものの取り扱いについては、全くの最終残核と同一の条件で比較することはできないが、ここでは限定的に変化する直前の接合状態と、最終の残核をそれぞれ別個の石核としてここで取り扱うこととする。合計31点の石核である。

石核各類の特徴と細目分類について記述する。

A類は概して石核が薄い。したがって目的打撃によって垂直割れを生じて複数の石片に分割されることが多い。分割した石片は通常側縁に素材面と直交する分割面を留める。分割後に廃棄されるものもあるが、打面を再度整形して剥片剥離を続行するものもある。ここで、石核側縁部に分割面をもちながら剥片剥離を続けるものをA2類、分割面を持たないものをA1類として区分する。A1類が6点(34・36~38・41・88)、A2類が8点(35・39・40・42~44・89・90)で、A類合計が14点である。

34はRFとした32が垂直割れを生じた後、二次加工面を作業面に転化し、やや山形の石核整形を施した後、長さ80.0mm以上の翼状剥片を剥取する。その後の石核整形の過程で分割した片方をさらに石核整形し長さ32.0mmの翼状剥片を剥取した残核が35である。

以下、A1・A2類は34・35を典型として、石理に沿った角度の浅い打撃を加えるものである。打面転移は基本的には行わない。作業面も43などに作業面補正の剥離面が観察できるほかは、並列的な剥離を行わず、単一の作業面を固定する。ただし、44は後述の第54図122の接合状態から伺えるように、厚みのある石核素材から石理に沿って分割した石片を素材とする場合は、打面を180度転移して、両方向から剥片剥離を進めるものもある。

接合資料1にみられる剥片剥離は、後述のように石核の上面と底面が石理に平行しており、打点部における垂直割れとともに、石理に影響を受けた同時割れが頻繁に生じている。打面の転移も垂直割れや同時割れが生じた後に行われる。したがって、剥片剥離の常態として打面の転移がみられる訳ではなく、あくまで単一の作業面を維持する点にこの石核A類の特徴が現れている。

番号	実	分	写	取上番号	長×幅×厚(mm)	重量(g)	遺存状態	石材	打面調整	面転移	ブロック	グリッド	接合	備考
34	39	31		V0216+V0273	95.0×54.0×17.0	51.8	完形	An-C	○	×	1	F5	接2	分類A1
35	39	31		V0273	47.7×39.2×16.0	31.9	完形	An-C	○	×	1	F5	接2	分類A2
36	39	32	15	V0257	49.5×58.0×16.0	33.4	半欠	An-C	×	?	1	F5		分類A1
37	39	32	15	V0396	42.0×41.5×10.0	19.7	半欠	An-C	◎	×	1	F5		分類A1
38	40	34	15	V0342+V0175 V0303	105.0×55.0×16.0	67.8	分割	An-C	?	×	1	F5	接3	分類A1
39	40	32		V0175	35.2×35.0×11.5	11.9	完形	An-C	○	×	1	F5	接3	分類A2
40	40	32		V0303	62.0×55.0×16.0	45.8	完形	An-C	○	×	1	F5	接3	分類A2
41	40	32		V0163+V0211 +V0181A	61.0×76.0×21.5	84.8	未欠	An-C	?	?	1	F5	接15	分類A1 国分寺
42	40	32	15	V0320A	57.8×41.2×13.5	35.3	一部欠	An-C	○	×	1	F5		分類A2
43	40	36		V0035	59.0×36.5×16.0	40.4	完形	An-C	○	×	2	D3		分類A2 国分寺
44	41	32		V0237	64.0×49.0×17.0	61.7	完形	An-C	○	○	1	F6		分類A2
88	47	33		V0201+V0202 +V0333+V0170	122.0×89.0×30.0	289.3	(分割)	An-A	○	×	1	F5	接1	分類A1
89	47	32		V0201+V0202	74.0×54.0×30.0	115.3	分割	An-A	○	○	1	F5	接1	分類A2
90	47	33		V0333+V0170A	69.0×92.0×23.5	174.0	分割	An-A	○	○	1	F5	接1	分類A2

第12表 3b区 石核 属性表1 (A1・A2類)